

茨城県教育財団文化財調査報告 XV

竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書 7

— 廻り地 A 遺跡 (下) —

昭和 57 年 3 月

財団法人 茨城県教育財団

第3章 遺物

第1節 人工遺物

土器

本遺跡から出土した縄文土器は壺大であり、詳細な遺構ごとの分類はまだ完全に終了していないが、出土した土器群は、概略的に中期末から後期初頭の時期に位置付けられる。これらの土器群は、第Ⅰ期から第Ⅲ期の土器群に大別して述べるが、図版は各遺構ごとに羅列した。

第Ⅰ期の土器群は、微隆帯によって文様帯を区画し、区画内に縄文を充填させ、区画外は寛みがきぎ施される土器群に代表される中期末の加曾利EⅣ式土器である。第Ⅱ期の土器は、沈線による渦巻文および鍵状文などの文様帯を描き、区画内に縄文・列点文などを充填する土器群で、後期初頭の称名寺式土器である。この土器群は、若干時間的な段階差も認められるが、第Ⅱ群の土器として一括した。また、この第Ⅱ群には、櫛歯状文などを有する土器群も含めた。第Ⅲ期の土器は、後期堀之内Ⅰ式土器に編年されるもので、本遺跡からの出土量はきわめて多い。地文に縄文を施し、沈線による文様を描いた土器群のほか、器面全体に縄文を施文した土器群も多く出土している。この第Ⅲ期の土器群は、堀之内Ⅰ式土器の古い段階、堀之内Ⅰ式土器の段階、堀之内Ⅰ式土器の新しい段階の3段階の分類が可能であるが、今回は一括して堀之内Ⅰ式土器として扱う。このように第Ⅰ～Ⅲ期の土器群として分類したものを、各遺構ごとに概略的に説明し、完形品および復原実測が可能であった土器については表で説明する。

1. 住居跡 (第195～260図)

第Ⅰ期

第Ⅰ期の土器が検出された住居跡はそれほど多くなく、約10軒ほどである。住居跡出土の第Ⅰ期の土器群はほとんどが破片であり、概略的にその様相をみると、SI020より出土した土器は波状口縁で口辺部に微隆帯を周回させるもの(第202図1・2)と、胴部に沈線による楕円形状の区画を有して縄文を充填するもの(同図3～7)がみられる。SI033出土例をみると、口縁部は波状のものと平縁のものがみられ、前者は波頂部に渦巻状の突起がみられ、口辺部に各頂部を結ぶように微隆帯がみられる(第209図1)。さらに、器面全体にRLの縄文が施文された後、各波頂部から〇字状の沈線区画が描かれ、区画内の縄文を磨消している。また、深鉢形土器に付けられた櫛状把手の破片もみられる(同図4)。SI060Bから出土した土器は少量であるが、口辺部に無文帯を有して周回する微隆帯がみられ、胴部には縄文が施文されている(第228図17)。SI072に

においては、鉢形土器（第226図5）が直立して胴下部が埋められ、口縁部は内彎して立ちあがり、口辺部に幅広い無文帯を有して周回する微隆帯がみられ、胴部全体にRLの縄文が施文されている。

第Ⅱ期

第Ⅱ期は後期初頭の称名寺式土器に編年されるもので、本群の土器が出土している住居跡は約20軒ほどであり、その主体となるものは称名寺Ic式土器に編年されるものである。これらの土器群は、大略的に沈線区画帯がみられて区画内に縄文・列点文などが充填されるものと、櫛歯状文などが施文されているものに分類することができる。

SI030出土土器は小片であるが（第206図1～8）、1は口縁部に把手が付され、垂下するスリットを有する隆帯がみられ、沈線によって区画された内部には縄文が充填されている。そのほか沈線区画内に列点文が充填されているもの（2～4）、櫛歯状文がみられるものなどがある。

SI032出土土器はほとんどが破片であるが、変形渦巻文が沈線によって描かれ、区画内に縄文が充填されたもの（第207図1～15・17）、列点文が充填されたもの（同図18～20）、櫛歯状文が充填されたもの（同図16）がみられ、そのほか胴部に櫛歯状文が施文されたもの（同図21～27）が出土している。SI037においては、沈線区画帯がみられる土器群が出土し（第211図1～9）、SI038においては沈線区画帯がみられる土器群（第212図15～26）以外に、口辺部に無文帯を有して沈線を周回し、胴部に櫛歯状文あるいは斜格子状文を有する土器群（第211図1～25、第212図1～14）がみられ、胴部の櫛歯状文が縦位の波状を呈するもの（第214図1）や胴部全体に縄文を施文した深鉢形土器（同図2・3）も出土している。

SI052においては、口辺部に円形刺突文を施し、胴上部から沈線区画帯が描かれ、区画内に列点を充填した土器群（第220図5・6）が出土し、堀之内I式土器への変遷過程が想定できる土器群と考えられる。さらに、SI059から出土している土器群（第227図1～3）も次型式への移行期の土器群であろうか。

SI087においては、波状口縁を有して胴下部を欠く深鉢形土器が出土し、胴上部に沈線による縹文がみられ、区画内にはLRの縄文が充填されている（第226図8）。

SI092では、覆土中に第Ⅰ期の土器群との混在が認められるが、渦巻状の沈線区画帯を有する土器群（第243図5・6）、および全体に列点がみられるもの（同図8・9）などが出土している。

SI120から出土した成形の粗雑な深鉢形土器は、4～7条の櫛歯状工具によって胴上部に矢羽状の文様を描き（第255図5）、そのほか沈線区画帯に縄文などを充填する土器（第258図1～3）、さらに器面全体に刺突を有する土器（同図4）がみられ、刺突を有する土器は他地域からの搬入品とも考えられる。

第Ⅲ期

第Ⅲ期に編年される土器群は多くの遺構から出土し、量的にもっとも多い。この時期の住居跡

群は、環状に検出された住居跡群の中で8～9ブロックに分立しており、各ブロック内でも第Ⅲ期の住居跡の重複が認められ、細分が可能であるが、すべて第Ⅲ期として扱った。

これら第Ⅲ期の土器群とした堀之内Ⅰ式土器は、いわゆる堀之内Ⅰ式土器のほか古式の様相を呈するものと、やや後出的な様相を含むものの3段階の土器群に細分されると考えられる。これらの各段階の土器群は、沈線文にその概念をとらえれば、古式の段階では沈線文構成が大柄で1～2本で文様帯を描き、いわゆる堀之内Ⅰ式土器の段階で沈線は多条化して器面全体をうめるようになり、後出的な土器の段階で沈線文構成が簡略化している。このほか、縄文を器面全体に施文した土器群においても、口辺部に凹形刺突文を有したものなどは古式の様相を呈したものとすることができる。

SI002出土の土器群は、口辺部に貼付文や沈線文がみられ、胴部は縄文を地文として2条の沈線による文様が描かれ、蕨状文などもしっかりしたものであり、やや古式の段階に位置付けられる(第196図1～16)。

SI004出土の土器は多く、その器形が窺える土器(第205図6～8)からみると、7は鉢形土器で、口辺部に無文帯を有して沈線を周回させ、胴部は縄文地に垂下する波状の沈線文がみられ、第198図1は縄文地に凹縁波頂部から垂下する沈線文を有している。また、2は垂下する2条のスリットを有する壺帯がみられる。そのほか壺形土器(第199図17)も出土し、胴上部は縄文地に沈線文様が描かれている。縄文だけが器面にみられる土器群も多く出土している(第205図6・8)。

SI005出土の大型の破片(第200図2)は、口辺部に周回する沈線とスリットがみられ、頸部は無文である。胴上部に横位の沈線2条が周回し、円形浮文が貼付されている。胴部は縄文を地文として沈線による蕨状文を描いている。やや古式の土器と考えられる。

SI008からは、土器組み炉として利用された深鉢形土器(第205図1)が出土している。胴上部に3条の周回する沈線がみられ、地文は縄文である。胴部には垂下する沈線文がみられ、地文は一部磨消されている。

SI023出土の土器は、口辺部に周回する沈線を有し、胴部は縄文地に垂下する蕨状沈線文が描かれている。

SI029出土の土器は、口辺部にC字状文を有する土器がみられ(第203図1・2)、2はさらに棒状文が加飾されて縄文が充填されている。また、胴部に蕨状文が施されているもの(第203図5、第205図3)や器面全体に匔げずりがみられるもの(第205図4)、器面全体に縄文が施文されているもの(同図5)などが出土している。

SI032B出土の土器は、口縁部が頸部から外反して立ちあがり、器面全体は縄文を地文としている。胴部には半截竹管による文様帯が描かれている(第205図9)。そのほか、沈線によるクモ

の巣状の文様がみられるもの(第208図1・4・5)、縄文のみられるもの(同図13~20)、無文のもの(同図21~23)などが出土している。

SI035出土の上器は、口縁部が外反して口辺部に沈線が周回し、胴部は縄文を地文として蕨状文が描かれている(第226図1)。

SI038出土の土器(第213図1~19)は、口辺部に円形刺突文を有する土器(同図1・2)もみられ、やや古式に編年されるものと考えられる。

SI044からは、壺形土器(第226図2)が出土し、口辺部に橋状把手を有している。胴上部には菱形を呈する沈線文が描かれ、縄文を地文としている。

SI053出土の土器(第221図1~15)のうち、1は口辺部に円形刺突を有するものである。

SI055出土の土器(第221図16~21)は、16・17に口縁波頂部から垂下するスリットのある隆帯がみられ、沈線文が複雑に描かれている。

SI058出土の土器は多く、口縁部が内彎して立ちあがる深鉢形土器の口辺部が無文で、円形浮文が貼付され、胴部には垂下する蕨状文がみられるもの(第214図8)、沈線によって鋸歯状区画を作りだし、地文を交互に磨消しているもの(第222図10)、そのほか第223図1~18、第224図1~18にみられるように沈線文も多種である。また、口辺部に無文帯を有して沈線を周回させ、胴部に縦方向の羽状縄文を有する土器(第222図13)もみられる。

SI059出土の土器(第227図1~17)のうち14には、胴部に連結する斜位の渦巻文が描かれている。SI085出土の上器は、半截竹管による多条の沈線がみられるもの(第226図10)と、縄文のみ施文されたもの(同図9)がみられる。SI079出土の土器(第234図18~27)の中で、C字文の貼付がみられるもの(同図18)があり、口辺部下に周回する隆帯と胴部に蕨状文がみられる。

SI093出土の土器は、炉跡の脇に埋置されたもので、口頸部を欠いた深鉢形土器である。地文は縄文で、渦巻文あるいは孤状文などが組み合わされて文様帯を構成している(第226図11)。

SI094出土の土器は、口辺部に8字状把手がみられ、胴部は縄文地に沈線文を有して膨らむもの(第244図2)や口辺部に沈線文様帯を有するもの(同図3)などが出土している。

SI096出土の土器(第245図3~11)の中では、4は縄文地に2条1単位の沈線による文様が描かれている。

SI101出土の土器(第247図1~23)の中では、1・2・5に半截竹管による菱形の文様がみられ、地文は縄文である。

SI106出土の土器は多く、第252図1~14にみられる土器は沈線文を有する土器で、第255図1は口縁部が外反して立ちあがり、器面全体に縄文を有し、胴部には垂下する沈線文が描かれている。同図3は北東壁下に埋置されていた深鉢形土器で、器面全体に匱けずりがみられる。

次に各住居跡出土の完形品および復元実測が可能であった土器について表で説明する。法量に

ついては、A口縁部径・B器高（現高）・C底部径であり、単位はcmである。

番号	図・番号	器種	数量	cm	形状および文様	焼成・粘土・色別	時期	備考
1	198図 1	鉢 完形	A 10.9 B 14.2 C 7.1	—	口縁部は底部からやや開いて直線的に立ちあがり、器面全体にL.Rの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石莖、スクリア 暗茶褐色	前期	S1001
2	198図 16	浅鉢 胴下部欠片	A — B 19.9 C 7.0	—	底部から大きく開く胴部を有している。胴部は無文である。	普通 砂粒、石莖、スクリア 暗茶褐色	前期	S1004
3	17	壺 口縁部欠片	A — H 11.6 C 5.7	—	胴中部で大きく膨らみ、胴部は細い波状を呈すと見られるが欠損している。口部に小突起がみられる。器面はL.Rの縄文を地文とし、波状による文様を描いている。胴下部は頸位の跡みがき。	普通 砂粒、石莖、スクリア 暗茶褐色	前期	S1004
4	203図 6	深鉢 胴下部欠片	A 22.0 B 21.0 C —	—	口縁部はやや開いて立ちあがり、胴下部を欠く器面全体にL.Rの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石莖、スクリア 暗茶褐色	前期	S1001
5	7	鉢 胴下部欠片	A 22.1 B 11.3 C —	—	口縁部はゆるやかに内彎して立ちあがり、胴下部を欠く。口縁部に同方向の波線がみられ、器面はL.Rの縄文を地文とし、垂下する波状の波線文がみられる。	良好 砂粒、石莖、スクリア 暗茶褐色	前期	S1001
6	8	深鉢 胴下部欠片	A 28.6 B 19.9 C —	—	口縁部はやや開いて立ちあがり、突起を有し、胴下部を欠く。器面にはL.Rの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石莖、スクリア 暗茶褐色	前期	S1004
7	203図 1	深鉢 胴部	A — B 33.1 C —	—	胴部は底部近くでくびれ中部がやや丸みを有し、口縁部・肩部を欠く。地文にL.Rの縄文を描く。胴上部に横位の波線がみられ、胴部には垂下する波線が描かれている。波線区画内の縄文は部分的に消滅されている。	良好 砂粒、石莖、スクリア 暗茶褐色	前期	S1008
8	2	深鉢 胴下部欠片	A 27.0 B 28.6 C —	—	口縁部は開いて立ちあがり、突起を有し、胴下部を欠く。突起部には凹孔がみられ、口部に同方向の波線が描かれ、器面全体はL.Rの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石莖、スクリア 暗茶褐色	前期	S1023
9	3	深鉢 胴下部欠片	A 29.6 B 29.8 C —	—	口縁部は垂直ぎみに立ちあがり、口部下でややくびれ、胴部へ膨らみ、胴下部を欠く。口縁部はやや波状を呈し、波頂部に凹孔がみられる。地文はL.Rの縄文で波頂部より垂下する。雲形波線文がみられる。	良好 砂粒、石莖、スクリア 暗茶褐色	前期	S1029
10	4	深鉢 完形	A 18.6 B 20.9 C 6.3	—	口縁部は開いて立ちあがり、ゆるやかな波状を呈している。器面は斜位の波線と垂下で覆がみられる。	良好 砂粒、石莖、スクリア 暗茶褐色	前期	S1029
11	5	深鉢 底部欠片	A 30.2 H 10.1 C —	—	口縁部は小さく外反し、胴中段でやや膨らみ、底部を欠く。器面にはL.Rの縄文が施され、胴下部は頸位の跡けりながみされている。	良好 砂粒、石莖、スクリア 暗茶褐色	前期	S1029
12	203図 9	深鉢 胴下部欠片	A 26.3 B 28.0 C —	—	口縁部は底部から開いて立ちあがり、波状を呈している。胴部はやや膨らみ、胴下部を欠く。器面には、L.Rの縄文が地文として施され、頸部以下に半直管状による波線文が描かれている。	普通 砂粒、石莖、スクリア 暗茶褐色	前期	S1029B
13	226図 1	深鉢 口縁部	A 31.8 B 11.8 C —	—	口縁部は、やや外反して立ちあがり、突起を有し、胴部以下を欠く。突起部に2か所の凹孔がみられ、波線が描かれている。地文はL.Rの縄文が施文され、垂下する雲形波線文が描かれている。	良好 砂粒、石莖、スクリア 暗茶褐色	前期	S1035
14	214図 1	深鉢 胴下部欠片	A 30.0 H 20.4 C —	—	口縁部は垂直ぎみに立ちあがり、胴下部を欠く。口縁部に同方向の波線がみられ、胴部には横位の波線物線状文を施文している。	良好 砂粒、石莖、スクリア 暗茶褐色	前期	S1038
15	2	深鉢 胴下部欠片	A 30.9 B 26.3 C —	—	口縁部はほぼ垂直ぎみに立ちあがり、胴下部を欠く。器面全体にL.Rの縄文が施文されている。	普通 砂粒、石莖、スクリア 暗茶褐色	前期	S1038
16	3	深鉢 胴下部欠片	A 31.5 B 21.0 C —	—	口縁部は垂直ぎみに立ちあがり、胴下部を欠く。器面全体にL.Rの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石莖、スクリア 暗茶褐色	前期	S1038
17	226図 2	壺 胴下部欠片	A 12.2 B 21.0 C —	—	口縁部は開いて立ちあがり、口縁部には凹孔がみられる。胴中段で大きく膨らみ、胴下部を欠く。胴上部には、小突起がみられる。口縁部および胴下部は波線帯がなされ、胴上部はL.Rの縄	普通 砂粒、石莖、スクリア 暗茶褐色	前期	S1044

				文を地文として沈陥文がみられる			
18	211回 1	深鉢 胴下部欠 写	A 32.3 B 27.0 C —	口縁部はやや開いて立ち上がり、胴上部が多少くびれ、胴下部を欠く。口縁部に同様の沈陥がみられ、胴部には縦位の波状帯状文を施文している。	青 通 砂粒、石莖、スコリア 暗茶褐色	Ⅱ 期	S1047
19	5	深鉢 胴下部欠 写	A 29.5 B 23.0 C —	口縁部は開いて立ち上がり、突起を有し、胴下部を欠く。器面全体にL.Rの縄文が施文されている。	青 通 砂粒、石莖、スコリア 暗茶褐色	Ⅱ 期	S1049
20	6	深鉢 胴部	A — B 47.2 C 12.3	底部からやや開いて立ちあがる胴部を有し、胴上部を欠く。胴部にL.Rの縄文が施文され、下部は縄位の縄けずりがなされている。	青 通 砂粒、石莖、スコリア 暗茶褐色	Ⅱ 期	S1049
21	218回 11	鉢 完形	A 12.6 B 7.4 C 5.5	口縁部は底部から内彎せみに立ちあがる。器面全体に縄文で磨がみられる。	良好 砂粒、石莖、スコリア 暗茶褐色	Ⅱ 期	S1049
22	11	浅鉢 底欠 写	A — B 16.0 C 8.7	底部から大きく開く胴部を有し、胴上部を欠く。胴部にL.Rの縄文がみられ、胴下部は縄位の縄けずりがなされている。	青 通 砂粒、石莖、スコリア 暗茶褐色	Ⅱ 期	S1049
23	226回 3	深鉢 胴下部欠 写	A 32.9 B 27.1 C —	口縁部は大きく外反して立ち上がり、口縁部は突起を有する。胴部中段は知らぬ。胴下部を欠く。器面全体にL.Rの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石莖、スコリア 暗茶褐色	Ⅱ 期	S1055
24	4	深鉢 胴下部欠 写	A 21.6 B 16.0 C —	口縁部は内彎せみに立ち上がり、胴下部を欠く。器面全体にL.Rの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石莖、スコリア 暗茶褐色	Ⅱ 期	S1055
25	214回 7	深鉢 胴下部欠 写	A 31.3 B 29.1 C —	口縁部はやや内傾して立ち上がり、突起を有し、胴下部を欠く。器面全体にR.Lの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石莖、スコリア 暗茶褐色	Ⅱ 期	S1058
26	8	深鉢 胴部	A 29.5 B 47.2 C 10.2	口縁部はやや内彎せみに立ち上がり、胴部はやや開く。胴下部は直線的に底部へすぼむ。口縁部および底部の一部を欠く。口縁部に同様の地文がみられ、地文はLの縄文である。円形断面文から推定する変形波状の沈陥文が認められる。	良好 砂粒、石莖、スコリア 暗茶褐色	Ⅱ 期	S1058
27	222回 9	浅鉢 底欠 写	A 23.4 B 19.5 C —	口縁部は大きく開いて立ち上がり、胴下部を欠く。地文はR.Lの縄文で、平截竹管による縄文が認められる。	青 通 砂粒、石莖、スコリア 暗茶褐色	Ⅱ 期	S1058
28	227回 14	深鉢 胴下部	A — B (17.7) C 14.4	胴部は底部から外反せみに開いて立ち上がり、胴上部を欠く。胴部はL.Rの地文がみられ、同様の沈陥文が認められる。	青 通 砂粒、石莖、スコリア 暗茶褐色	Ⅱ 期	S1059
29	226回 5	鉢 完形	A 24.6 B 22.8 C 4.8	口縁部は内彎して立ち上がり、胴部は底部へすぼまる。口縁部に無文帯を有し、横位の波状帯下にR.Lの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石莖、スコリア 黒褐色	Ⅰ 期	S1072
30	222回 19	深鉢 胴下部欠 写	A 16.4 B (14.5) C —	口縁部は開いて立ち上がり、胴下部を欠く。器面にはR.Lの縄文が施文されている。	青 通 砂粒、石莖、スコリア 暗茶褐色	Ⅱ 期	S1075
31	226回 6	鉢 胴以下欠 写	A 20.2 B (10.0) C —	口縁部は内彎して立ち上がり、胴部以下を欠く。器面全体にR.Lの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石莖、スコリア 暗茶褐色	Ⅱ 期	S1077
32	236回 2	深鉢 胴部 写	A — B (10.8) C —	胴部はやや開いて立ち上がり、胴上部、胴下部を欠く。地文はL.Rの縄文で、平截竹管による横位あるいは、斜位の文様が認められる。	青 通 砂粒、石莖、スコリア 暗茶褐色	Ⅱ 期	S1080
33	226回 9	深鉢 胴下部欠 写	A 28.1 B (19.4) C —	口縁部は開いて立ち上がり、波状を呈し、胴下部を欠く。器面全体にL.Rの縄文が施文されている。	青 通 砂粒、石莖、スコリア 暗茶褐色	Ⅱ 期	S1085
34	10	深鉢 胴下部欠 写	A 21.9 B (15.2) C —	口縁部は開いて立ち上がり、胴下部を欠く。器面には平截竹管による沈陥文が全体に認められる。	青 通 砂粒、石莖、スコリア 暗茶褐色	Ⅱ 期	S1085
35	8	深鉢 胴下部欠 写	A 27.0 B (14.1) C —	口縁部は開いて立ち上がり、波状を呈し、胴下部を欠く。沈陥による線状凹面が認められ、凹面帯内にL.Rの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石莖、スコリア 暗茶褐色	Ⅱ 期	S1087
36	241回 1	鉢 完形	A 10.7 B 12.7 C 4.6	口縁部は底部から直線的に開いて立ちあがる。器面全体にR.Lの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石莖、スコリア 暗茶褐色	Ⅱ 期	S1090

37	226図 7	深鉢 胴欠 写	A B (19.6) C	口縁部にむかって開く胴部で口縁部および胴下部を欠く。帯曲状文による割格子状の文様がみられる。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	S1091
38	11	深鉢 口縁部欠 写	A B (38.0) C 9.3	口縁部を欠き、胴部がやや膨らみ、底部へすぼむ。地文はR.Lの縄文で沈線による渦文などが描かれている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	Ⅲ期	S1093
39	245図 1	壺 胴部欠 写	A B (7.2) C	口縁部および胴下部を欠き、胴部中段はほりだし、頸部は細長い管状を呈すると考えられる。胴上部に小突起がみられる。胴上部は沈線文がみられ、胴下部は匙けずりがみられる。	良好 砂粒、石英、スコリア 灰茶褐色	Ⅲ期	S1094
40	244図 1	深鉢 底部欠 写	A 32.6 B (40.0) C	口縁部は胴部から大きく外反して立ち上がり、胴部でやや膨らみ、底部を欠く。器面全体はL.Rの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 灰茶褐色	Ⅲ期	S1094
41	2	深鉢 写	A B (20.0) C	口縁部は外反して立ち上がり、胴部は大きく膨れ、胴部以下を欠く。口縁部には「ま」字状の把手がみられる。口縁部は無文で胴部はL.Rの縄文を地文とし沈線による渦文などが描かれている。	良好 砂粒、石英、スコリア 茶褐色	Ⅲ期	S1094
42	3	深鉢 胴以下欠 写	A 27.0 B (18.8) C	口縁部は胴部より外反して立ち上がり、胴部以下を欠く。口縁部には沈線がみられ、無文である。胴部以下はR.Lの縄文を地文とし沈線文が描かれている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗茶褐色	Ⅲ期	S1094
43	4	深鉢 胴上部欠 写	A B (24.0) C 10.0	底部から開いて立ち上がり、胴部で胴上部を欠く。地文はR.Lの縄文とし、手載竹管による割格子文が描かれている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗茶褐色	Ⅲ期	S1095
44	5	深鉢 胴上部欠 写	A B (31.4) C (8.2)	底部から開いて立ち上がり、胴部でやや膨れ、胴上部を欠く。胴部にはR.Lの縄文が施文されている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	S1095
45	243図 3	深鉢 胴下部 写	A B (15.2) C 7.4	胴部は底部からやや開いて立ち上がり、胴上部を欠く。地文はL.Rの縄文で胴下部に沈線による格子の区内がみられ、上部に変形渦文などがみられる。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	S1096
46	244図 6	深鉢 胴部欠 写	A B (14.6) C	胴部は開いて立ち上がり胴上部および胴下部を欠く。地文はL.Rの縄文で、手載竹管による沈線文が施文されている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗茶褐色	Ⅲ期	S1105
47	7	深鉢 胴下部欠 写	A 31.0 B (37.6) C	口縁部は大きく外反して立ち上がり、胴下部を欠く。器面にはL.Rの縄文が全体的に施文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗茶褐色	Ⅲ期	S1105
48	8	深鉢 胴下部欠 写	A 28.4 B (18.4) C	口縁部はやや開いて立ち上がり、胴下部を欠く。胴部全体にL.Rの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	S1105
49	9	深鉢 胴下部欠 写	A 22.0 B (16.4) C	口縁部はやや開いて立ち上がり、突起を有し、胴下部を欠く。突起部下にはスリットがみられ、胴部全体にL.Rの縄文が施文されている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	Ⅲ期	S1105
50	252図 9	鉢 胴以下欠 写	A 17.0 B (8.3) C	口縁部はやや内反して立ち上がり、胴部以下を欠く。地文はL.Rの縄文で沈線による渦文、弧文などが描かれている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗茶褐色	Ⅲ期	S1106
51	10	鉢 胴部欠 写	A 14.5 B (7.3) C	口縁部はやや外反して立ち上がり、胴部以下を欠く。地文はR.Lの縄文で、口縁に傾斜する2条の沈線がみられ、胴部には斜位の沈線がみられる。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	S1106
52	11	深鉢 胴下部欠 写	A 18.9 B (12.7) C	口縁部はやや開いて立ち上がり、胴下部を欠く。口縁部に傾斜する沈線文がみられ、地文にL.Rの縄文が施文されている。また垂下する2条の沈線がみられる。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	S1106
53	253図 1	浅鉢 胴下部欠 写	A (24.0) B (9.1) C	口縁部は内反ぎみに開いて立ち上がり、胴下部を欠く。器面にはL.Rの縄文が施文され、S字状の結節文がみられる。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	S1106
54	255図 1	深鉢 胴下部欠 写	A 25.0 B (23.6) C	口縁部はやや外反して立ち上がり、胴部は膨らみ、胴下部を欠く。器面全体にR.Lの縄文が施文され、頸部に横位の沈線がみられ胴部には垂下する3条1単位の沈線文が描かれている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗茶褐色	Ⅲ期	S1106
		深鉢	A	胴部は内反ぎみに開いて立ち上がり、胴上部お	普通		

55	2	胴部 写	B 12.6 C —	および胴下部を欠く。地文はL Rの縄文が隆文され、沈線による格子状の文様が描かれている。	砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SI106
56	3	深鉢 胴下部欠 写	A 30.6 B 27.0 C —	口縁部は胴上部よりやや内彎して立ち上がり、胴下部を欠く。器面は全体的に斜紋あるいは横位の襷げざりがなされている。	青土 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SI105
57	4	深鉢 胴下部欠 写	A 23.1 B 21.0 C —	口縁部はやや外反して立ち上がり、波状をなし胴下部を欠く。地文はL Rの縄文で沈線による文様が隆文されている。	青土 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SI106
58	6	深鉢 胴部欠 写	A 29.4 B 37.0 C 9.6	口縁部はやや外反して立ち上がり、胴部を欠き底部は真鍮的に開いて立ち上がる。地文はL Rの縄文で器面に半環状による文様帯が描かれている。	青土 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SI107
59	5	深鉢 ほぼ完形	A 30.0 B 39.2 C —	口縁部はやや内彎して立ち上がり、腹部はやや粗雑であり、底部の一部を欠く。胴上部に4-7条の簡易工具によって矢羽横状が描かれている。胴下部には葉倉なでがみられる。	青土 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅱ期	SI120
60	7	深鉢 胴部欠 写	A — B 18.0 C —	胴部は開いて立ち上がり、胴上部および胴下部を欠く。地文はL Rの縄文で沈線による文様帯がみられる。	良好 砂粒、石英、スコリア 灰茶褐色	Ⅲ期	SI123
61	8	深鉢 胴部欠 写	A 20.0 B 20.0 C —	胴部は中段でやや膨らんで立ち上がり、胴上部および胴下部を欠く。胴上部は細沈線による格子文が描かれ、胴下部は襷げざりがみられる。	青土 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SI123
62	9	深鉢 底部欠	A 24.4 B 25.0 C —	口縁部はやや開いて立ち上がり、胴下部で平み、底部を欠く。器面全体にL Rの縄文が隆文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SI126
63	10	深鉢 胴以下 写	A 31.0 B 6.6 C —	口縁部は内彎ぎみに立ち上がり、胴部以下を欠く。口縁部は沈線による斜紋文が3段にみられ、ほかは襷げざりがみられる。	青土 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SI126

2. 土 類 (第261～336図)

第Ⅰ期

第Ⅰ期の土器群は、約20基ほどの土壌から出土している。

SK034出土のものは、波状口縁を呈する深鉢形土器で、波頂部より〇字状に微隆帯がみられ、区画内は襷げざりがみられる(第262図1)。SK093からは、縄文地にH字状の微隆帯がみられ、区画内は襷なでがなされている土器(第265図10～12)が出土している。

SK160出土の土器は、微隆帯区画文がみられる胴下部が出土し(第276図1)、SK163からは大形の深鉢形土器(第280図1)が出土している。口縁部は波状を呈し、各波頂部を結ぶように口辺部無文帯がみられ、胴上部には〇字状の区画文が垂下してそれぞれ胴部中段で連結している。SK330出土のものには、口縁部に小形の橋状把手が付され、胴部および口辺部に微隆帯がみられる(第291図1)。SK347においては、胴部の微隆帯区画の幅が広いものと狭いものがみられる(同図2～5)。

SK402においては破砕された状態で土器が出土し、接合の結果2個体以上の土器がみられた。第300図1は波状口縁を呈し、胴下部でくびれた深鉢形土器であり、口縁部に渦巻状の把手がみられる。さらに胴部には渦巻状の微隆帯がみられる。2は〇字状の微隆帯を有し、小形の橋状把手がみられる。同じ覆土中から第293図17にみられるような鳥あるいは蛇面の把手が出土しているが、前述の土器と接合することはできなかった。

SK810においては口辺部に無文帯を有して微隆帯を周回させた小形の深鉢形土器が出土し、胴部全体にはLRの縄文が施文されている(第304図7)。SK817出土の土器には、鉢形土器および橋状把手を有する土器(第305図7~11)がみられる。

SK959においては微隆帯を有する土器(第312図1),および沈線区画を有する土器(同図2・3)が出土している。

SK1171出土の胴部が膨らむ深鉢形土器(第330図1)は、口辺部に幅広の無文帯を有し、胴上部に長楕円形状の微隆帯区画がみられ、全体的にLRの縄文が施文されている。SK1559出土の土器には、胴部にH字状の微隆帯がみられ(第335図13・14),SK1592においては、口辺部に無文帯を有して胴部に縄文が施文されているもの(第328図1~3)と胴部に∩字状の微隆帯区画がみられるもの(同図4~6)が出土している。

第Ⅱ期

第Ⅱ期の土器群は、約50基ほどの土壌から出土している。主な文様は沈線区画を有する土器と櫛歯状文を有するものである。

SK025の覆土内からは、深鉢形土器の胴部に波状の櫛歯状文が施文されている土器(第270図2)が出土し、SK026からは少量であるが沈線区画を有する土器群(第261図15~21)が出土している。SK059においては、沈線区画を有する土器(第263図1・4・5)および櫛歯状文を有する土器(同図2・3)が出土し、SK061では鍵状の沈線区画帯に列点が充填された土器(第263図6)が出土している。

SK120においては、口辺部に円形刺突文がみられ、胴部に沈線による区画帯を有するものや口辺部にC字状貼付文がみられる土器(第269図7・8)や、櫛歯状文が施文されたもの(同図9~12)などがみられる。

SK123においては、口辺部にC字状貼付文を有し、胴部にX字・Y字状の区画帯が描かれ、区画内には波状の櫛歯状文が充填された深鉢形土器(第275図1)のほか、胴下部に沈線区画帯の下端がみられる土器(第272図2)などがみられる。

SK130出土の土器(第275図4)は、無文部を多く有し、垂下する沈線区画を有するもので、やや後出的な土器と考えられる。

SK144においては、口辺部に無文帯を有して沈線を周回させ、縦位の櫛歯状文がみられる土器(第274図4)が出土し、SK162からは鍵状沈線区画帯の土器(同図15)が出土している。

SK161においては、口辺部無文帯下に2条の沈線を周回させ、胴部に縦位の櫛歯状文が施文され(第276図7),SK173からは鍵状文と渦巻文がやや退化した文様帯を有する土器が出土している(第280図6)。

SK217出土の土器群は、沈線区画帯内に縄文を充填するものが主体であり(第283図1~25),

口縁部の頂部にC字状文がみられるもの(同図11)も出土している。

SK326においては、胴部に縦方向の波状櫛歯文を有する土器(第283図6・7)と、縄文のみが施文されている土器(同図8・9)が出土している。

SK353から出土した深鉢形土器は、口縁部が内彎して立ちあがって大きな波状口縁を呈し、口辺部に三角状の区画帯を描き、区画内に縄文を充填している(第280図8)。

SK424出土の土器(第294図6~14)およびSK615出土の土器(第299図1~8)には、渦巻文区画がみられる。

SK797においては、やや小形の深鉢形土器が出土し、波状口縁で胴上部に連結する沈線区画文がみられ、LRの縄文が充填されている(第310図7)。

SK812からは、小形の鉢形土器が出土し、体部の沈線文は区画文を省略化したものと考えられる(第305図1)。SK824においては、口辺部に周囲する沈線下に斜格子文が施文された土器が出土している(第310図6)。

SK909出土の土器は、半截竹管による波状文が縦位に施文された深鉢形土器(第320図1)がみられ、SK972からは、胴上部に沈線区画帯がみられる土器(同図5)が出土している。

SK959からは、太い沈線による変形渦巻文がみられる土器(第312図6~8)と、口辺部に連結する十字状区画文と、胴部に変形Y字区画がみられる深鉢形土器(第60図7)が出土している。

SK1207においては、C字状貼付文がみられるもの(第318図12)、および沈線区画を有するものや櫛歯状文を有する土器(同図13~25)が出土している。

SK1322(第324図1~16)、SK1384(第325図6~13)、SK1386(第326図1~6)からは、沈線による区画文がみられ、SK1427からは胴部であるが連結する渦巻文がみられる(第336図7)。

SK1565出土の土器は、胴下部を欠く深鉢形土器であるが、口辺部に連弧状の区画がみられ、胴部には変形渦巻文が描かれ、区画内に縄文が充填されている(第331図7)。

第Ⅲ期

第Ⅲ期の土器が検出される土壌は多く、約80基ほどから出土しているが、明確に時期を把握された土壌は約3%ほどである。この時期は前述のように3段階の時期に細分が可能であるが、幅をもたせて第Ⅲ期として扱った。

SK015からは、口縁部および底部を欠く深鉢形土器が出土し、RLの縄文地に蕨状文がみられる(第270図1)。SK095出土土器(同図5)は、小波状を呈する深鉢形土器で、器面全体に縄文を施文し、垂下する3本の沈線を中心として連弧状の沈線文が組み合わされた文様帯がみられる。

SK110においては、口辺部に紐線文を貼付し、沈線による三角状区画文を描き、区画内に縄文を充填した土器(第267図6・7)などが出土し、SK114からは、波状口縁部の頂部から垂下す

る半截竹管文がみられる土器（第270図7）が出土している。

SK121からは、器面に縦位の曲線文が施され、口辺部内面には刺突がみられる土器（第271図1）のほか、縄文地に垂下する沈線を有する同一個体片（同図2～7）などが出土している。

SK124出土の土器（第272図3～10）の中では、垂下する6条の沈線上に2条の波状文が加飾され、さらに垂下する沈線間にはやや大形の波状文が描かれ、地文は縄文の深鉢形土器などがみられる。

SK165出土の土器は、口辺部に円形刺突文がみられ、器面全体に縄文が施文されたやや古式の様相を呈するものがみられる（第275図6）。

SK226出土の土器には、やや後出的な横位の縄文帯を有する土器（第286図7～11）がみられる。

SK250からは多くの土器が出土し、半截竹管による文様帯が描かれたもの（第287図1・2）がみられ、口辺部に横位の沈線を有して胴部地文は縄文とし、半截竹管による曲線文が描かれている土器（第290図1）などが出土している。

SK408においては、縄文地に垂下する波状の沈線文がみられる土器（第294図5）などが出土し、SK427においては縄文地に縦位の沈線区画がみられ、さらに斜位の半截竹管文が施文されている（第296図1・2）。SK446においては、胴部の膨らむ深鉢形土器が出土し、胴部に垂下する（）字状の沈線がみられる（同図9）。

SK586においては、斜位の沈線が区画内に充填されるように施文され、口縁部の波頂部から垂下するスリットのある隆帯がみられる（第298図4）。

SK656からは、口縁部が外反して立ちあがり、器面全体に縄文が施文され、頸部以下に沈線による蕨状文などが描かれている深鉢形土器（第300図5）や、口辺部に円形刺突文を有し、円形浮文が貼付されて垂下する変形蕨状文がみられる土器（同図8）などが出土している。

SK648出土の土器は、口縁部は外反して立ちあがる深鉢形土器で、口辺部に沈線がみられ、器面全体に縄文を施文し、頸部にU字状の沈線区画がみえ、胴部には蕨状文およびV字文などが描かれ、やや古式の様相を呈したものであろう（第310図1）。

SK718出土の土器（第303図1～12）の中で、1は口辺部に刺突文を有し、胴部に沈線文を描いたやや古式の土器であり、SK815出土の土器（第305図2～6）の中で5・6は集合沈線文がみられる。

SK947からは、半截竹管文を主とした土器群（第308図11・13・14）が出土し、SK950出土の土器の中でも全体的に半截竹管文が描かれている（第311図1）。

SK1024から出土した土器はいずれも古式のもので、円形文および（）状区画文がみられるもの（第313図5）やC字状文がみられるもの（同図8）などが確認されている。

SK1141出土の土器(第315図9~11)は、縄文地に垂下して連結する波状文がみられ、SK1182出土の土器には、菱形の沈線文が施文されている(第317図4)。

SK1463においては、縄文地に垂下する沈線文がみられ、沈線間には波状の沈線が描かれた土器(第336図5)が出土し、SK1608からはやや後出的な紐線文を有する土器が出土している(第332図4)。また、SK1622においても、口辺部に紐線文がみられる土器(同図3)が出土している。

SK1624においては、縄文地に沈線文および半截竹管文を有する土器(第57図1~4)や、胴上部に沈線区画がみられ、縄文を充填しているもの(同図5・7)などが出土し、8~11は器面全体に縄文が施文されている。

SK1643においては、波状口縁を有する深鉢形土器が出土し、縄文地に半截竹管による沈線文が描かれている(第334図13)。

以上、土壌出土の各期の土器について概略を説明したが、次に完形品および復原実測が可能であった土器について表で説明する。表については住居跡出土のものと同じである。

番号	図・番号	器種	法量	器形および文様	焼成・粘土・色調	時期	備考
1	270図1	深鉢形	A — B (23.0) C —	口縁部および胴下部以下を欠く。地文にR Lの縄文を施し、その下に垂下する波状沈線文を描いている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK015
2	262図14	深鉢形	A 27.9 B (13.0) C —	口縁部はやや内折し、胴部以下を欠く。横位の度けざり後に粗線なLの縄文が施文されている。	普通 砂粒、石英 暗褐色	Ⅱ期	SK019
3	270図2	深鉢形	A — B (20.0) C —	やや膨らみを有する胴部で口縁部および底部を欠く。胴部全体に横位の波状粗線文がみられる。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅱ期	SK025
4	5	深鉢形	A 35.3 B (26.0) C —	胴部からゆるやかに開いた波状の口縁部を有し、胴下部を欠く。地文にL Rの縄文を施し、口縁部の波頂部を中心に3条の垂下する沈線を中心に透気状の沈線が描かれている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK096
5	4	深鉢形	A 37.0 B (15.0) C —	口縁部はくびれ部からゆるやかに開いて立ちあがる。胴上部はそれぞれ連結した沈線による透気文がみられ、区画内にはL Rの縄文が充填されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅱ期	SK101
6	267図7	深鉢形	A 26.8 B (16.1) C —	口縁部は3か所ほどの頂部を有する波状口縁部を有し、口辺部にスリットのある隆帯が陥付されている。隆帯下より胴上部に直線による三角形区画を描きLの縄文を充填している。	良好 砂粒、石英 暗褐色	Ⅲ期	SK110
7	270図7	深鉢形	A 34.0 B (26.0) C —	胴部から直線的に開いた波状の口縁部を有し、胴下部を欠く。地文にL Rの縄文を施し、口縁部の波頂部を中心に半截竹管による平行沈線文を有している。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK114
8	3	浅鉢形	A 23.8 B 7.8 C 13.0	底部より直線的に開いた口縁部を有している。本部は度けざりのみ認められる。	良好 砂粒、石英 暗褐色	Ⅲ期	SK115
9	275図5	深鉢形	A — B (23.6) C —	やや膨らみを有する胴部で、口縁部および胴下部を欠く。地文はL Rの縄文で、沈線による縦区画が描かれ相互に縄文を繋ぎ合っている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK117
10	270図6	深鉢形	A — B (33.4) C 13.3	底部から開いて立ちあがる胴部がみられ、胴上部を欠く。胴部にはL Rの縄文が施されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK118

11	272図 2	深鉢 口縁部欠 ㄩ	A — B (10.0) C 4.0	やや膨らみを有する胴下部である。沈線による 彫刻渦巻文の下部部がみられる。区画内にはL Rの 縄文が充填されている。	青 通 砂粒、石英 暗茶褐色	Ⅱ期	SK123
12	275図 1	深鉢 胴下部欠 ㄩ	A 44.8 B (28.8) C —	胴部からゆるやかに開いて立ち上がる。口縁部 はC字状の胎付文を有し、胴下部を欠く。口辺部 は無文でC字状胎付文を有し、横位の微隆帯を有 する。胴部は沈線による菱形×文などがみられ、 区画内は櫛歯状文で充填されている。	良 好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅱ期	SK123
13	272図 6	深鉢 胴下部欠 ㄩ	A 12.8 B (31.0) C —	胴部から垂直きみに立ちあがる口縁部を有し、 胴下部を欠く。地文はL Rの縄文が施され、沈線 による文様帯がみられる。	良 好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK124
14	272図 10	浅鉢 口縁部欠 ㄩ	A — B (9.0) C 12.0	底部から大きく開いた胴部を有し、口縁部は欠 く。胴部にはR Lの縄文が施されている。	青 通 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	Ⅲ期	SK124
15	275図 2	深鉢 胴下部欠 ㄩ	A 20.8 B (26.6) C —	胴部から高筒的に開いて立ちあがる口縁部を有 し、突起がみられる。器面全体にL Rの縄文が施 文されている。	良 好 砂粒、石英 暗褐色	Ⅲ期	SK127
16	275図 3	深鉢 胴下部欠 ㄩ	A 20.8 B (26.6) C —	口縁部はやや膨らんだ胴部から内増して立ちあ がり、底部付足を欠く。胴下部以外は全体にL R の縄文が施文されている。胴下部は縦位の異けず り。	良 好 砂粒、石英 暗褐色	Ⅲ期	SK127
17	273図 12	浅鉢 ほぼ定形	A 13.5 B 7.1 C 9.3	底部からやや開いて立ちあがり、口縁部の一部 は片口状をなす。器面全体は横位の異けずりが施 されている。	良 好 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	Ⅲ期	SK129
18	13	浅鉢 ㄩ	A 13.9 B (7.0) C 9.2	底部からやや開いて立ちあがり、さらに口縁部 近くで外反する。器面全体は異けずりが施されて いる。	青 通 砂粒、石英 暗褐色	Ⅲ期	SK129
19	275図 4	深鉢 胴下部欠 ㄩ	A 27.6 B (30.7) C —	口縁部は垂直きみに立ちあがり、胴上部はかす かにくびれる。胴部はやや膨らみを有し、底部部 を欠く。胴部全体に大綱の彫影で沈線区画帯が描か れる。区画内はL Rの縄文が充填されている。	良 好 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	Ⅲ期	SK130
20	276図 1	深鉢 胴上部欠 ㄩ	A — B (12.0) C 5.4	小さな底部よりゆるやかに開いた胴部を有し、 胴上部を欠く。微隆帯による円形の区画文がみ られ、区画内にはL Rの縄文が充填されている。微 隆帯はなぞりがなされ、無文帯は厚みがきなが まされている。	良 好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅰ期	SK160
21	6	浅鉢 胴上部欠 ㄩ	A — B (9.5) C 6.0	底部より大きく開いて立ちあがる胴部を有し、 胴上部でやや垂直きみに立ちあがり、胴上部を欠 く。器面全体にL Rの縄文が施文されている。	良 好 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	Ⅲ期	SK161
22	7	深鉢 胴下部欠 ㄩ	A 42.0 B (40.1) C —	胴部からゆるやかに開いて立ちあがり、口縁部 はやや内増する。口辺部に3条の横位の沈線がみ られ、胴部は縦位の櫛歯状文が施されている。	青 通 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	Ⅱ期	SK161
23	280図 1	深鉢 ほぼ定形	A 34.8 B (52.0) C 6.2	口縁部は胴上部のくびれ部からやや開き、口縁 部は小流状を呈している。胴上部は小さな底部へ すばまる。口辺部に無文帯を有し、口縁部の波頭 部からY字状の微隆帯によって区画された無文帯 がみられ、その他の区画内にはL Rの縄文が充填 されている。胴下部は無文である。	青 通 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	Ⅰ期	SK163
24	2	深鉢 胴下部欠 ㄩ	A 32.6 B (25.3) C —	胴部からゆるやかに開いた波状口縁部を有し、胴 下部を欠く。地文はL Rの縄文で口縁部の波頭部 から垂下する平軟竹管による沈線区画にX字状の 沈線文を有する。	良 好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK163
25	3	深鉢 胴以下欠 ㄩ	A 34.0 B (12.4) C —	口縁部は大きく外反して立ちあがり、胴上部以 下を欠く。口辺部は無文で胴部に8字状の胎付文 がみられ地文はL Rであり、沈線文が描かれてい る。	良 好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK163
26	275図 6	深鉢 胴下部欠 ㄩ	A 29.4 B (23.5) C —	口縁部は垂直きみに立ちあがり、胴上部にかす かにくびれる。口辺部には、円形の刺突文が同心し、 器面全体にはL Rの縄文が施されている。	良 好 砂粒、石英 暗褐色	Ⅲ期	SK165
27	7	深鉢 胴下部欠 ㄩ	A 26.6 B (16.5) C —	胴部から開いて立ちあがる口縁部を有し、液状 を呈する。器面全体にL Rの縄文が施されている。	良 好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK169
28	280図	深鉢 胴下部欠 ㄩ	A 38.0 B (33.8)	口縁部はくびれ部から開いて立ちあがり、胴部 はくびれ部からやや膨れ、胴下部を欠く。器面全 体	良 好 砂粒、石英、スコリア	Ⅱ期	SK173

	6	号	C	作は沈線による変形湯杓文がみられ、区画帯内にR.Lの縄文が充塞されている。	暗褐色		
29	4	深鉢 胴下部欠片	A 33.8 B (28.5) C —	胴部からやや開いて立ちあがる流状口縁部を有し、胴下部を欠く。器面全体にL.Rの縄文が施され一部羽状構成をみせている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK181
30	5	鉢	A 21.4 B (23.9) C —	口縁部は内彎し、胴部は球状を呈している。器面全体にR.Lの縄文が施されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK185
31	281回 4	浅鉢 完形	A 20.6 B 8.8 C 7.4	口縁部は底部から開いて立ちあがる。体部は無文であり僅けず根が部分的にみられる。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅱ期	SK198
32	283回 1	深鉢 胴下部欠片	A 46.9 B (22.0) C —	口縁部は胴部からほぼ垂直に立ちあがり、胴下部を欠く。器面全体に細流線がみられ、斜線状に交差させている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅱ期	SK217
33	283回 11	注口 口縁部欠片	A 11.0 B (6.8) C —	口縁部は内彎し、注口は垂直に付けられ、反対側は肥子がみられ、胴上部以下を欠く。全体に泥みがみられる。	良好 砂粒、石英 暗褐色	Ⅲ期	SK250
34	290回 1	深鉢 胴下部欠片	A 28.0 B (23.8) C —	口縁部は外反に開いて立ちあがり、胴下部をややぼまる。胴下部の隆部以上に沈線为主体とした線文が施され、地文は、L.Rの縄文である。胴下部は隆位の直線でみられる。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK250
35	2	深鉢 胴下部欠片	A 21.0 B (16.7) C —	口縁部は、胴部からゆるやかに外反して立ちあがり、胴下部を欠く。地文はL.Rの縄文で沈線による三角状帯を施し、区画内の縄文を部分的に磨消している。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK250
36	3	鉢 底部分欠片	A 18.0 B (14.1) C —	口縁部は内彎して立ちあがり、胴部は球状を呈する。器面全体にL.Rの縄文が施されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK250
37	4	壺(注口) 胴部欠片	A — B (18.0) C —	胴部に4単位の小手を有し、頸部以上および底部を欠く。胴上部は、R.Lの縄文を地文として沈線区施され胴下部は隆位の泥みがみられる。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK250
38	5	深鉢 胴以下欠片	A 22.2 B (14.4) C —	口縁部は胴部から垂直に立ちあがり、胴下部以下を欠く。地文はL.Rの縄文で、口縁部および胴部に置状工具による連続刺突文がみられる。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK264
39	280回 7	深鉢 胴以下欠片	A 28.4 B (15.0) C —	胴部から直線的に開いて立ちあがる口縁部を有し、小突起を有する。地文はL.Rの縄文で、沈線による文様が施されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK310
40	294回 6	深鉢 胴下部欠片	A 27.2 B (31.2) C —	口縁部は外反して立ちあがり、底部は欠いているが胴下部をぼまる。口辺部に横位の流線状文がみられ、胴部には縦方向の流線の曲線状文が施されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅱ期	SK326
41	7	深鉢 胴以下欠片	A 33.8 B (20.4) C —	口縁部はやや開いて立ちあがり、胴上部で若干くびれ胴部以下を欠く。口辺部に横位の流線がみられ、胴部には縦方向の流線曲線状文が施されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK326
42	8	浅鉢 胴部欠片	A — B (18.1) C —	胴部がはった器形で口縁部、底部を欠く。胴部以下にL.Rの縄文が施され下部は僅けずみられる。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK326
43	9	深鉢 胴下部欠片	A 27.0 B (28.2) C —	胴部から大きく開き、口縁部は内反して立ちあがり流線状を呈す。沈線による三角状の区画帯を施し、区画帯にLの縄文が充塞されている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK353
44	280回 9	深鉢 胴以下欠片	A 31.0 B (14.3) C —	口縁部は胴部から垂直に立ちあがり、胴下部を欠く。胴部全体にR.Lの縄文が施されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅱ期	SK353
45	290回 10	深鉢 胴下部欠片	A 29.0 B (18.4) C —	口縁部は胴部から内彎して立ちあがり、キャリパー状を呈し、胴下部を欠く。口辺部に無文帯を有し、それ以下はR.Lの縄文が全体に施文。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	I期	SK401
46	293回 12	深鉢 底部	A — B (13.5) C —	小さな底部からゆるやかに胴部が開き、胴上部を欠く。隆部帯による垂下する区画がみられ、区画内にはR.Lの縄文が充塞され、他は泥みがみられる。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	I期	SK402

47	310回 1	深鉢 はび定形	A 25.0	口縁部は開いて立ちあがり流状を呈する。胴部でくびれ、底部は小さい。口縁部には無文帯を有し、流頂部に「R」字状把手がみられる。胴部にはL.Rの縄文がみられ、その上に横隆帯による渦巻文帯が描かれている。区画内は無文である。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	I期	SK602
			B 33.9				
			C 4.2				
48	2	深鉢 胴下部欠 片	A 29.2	口縁部は開いて立ちあがり、流状を呈し、把手を有している。胴部でくびれ胴下部を欠く。口辺部には無文帯を有し、胴部にはL.Rの縄文がみられ、流頂部を結ぶ柱状の無文帯を有している。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	I期	SK602
			B (22.7)				
			C —				
49	3	浅鉢 はび定形	A 27.0	口縁部は底部から大きく外反して立ちあがり、口縁部に突起を有する。体部にはL.Rの縄文が部分的に施文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 茶褐色	II期	SK491
			B 13.0				
			C 8.6				
50	304回 9	深鉢 胴下部欠 片	A 30.0	口縁部はやや内彎して立ちあがり、胴下部を欠く。器面全体にRの縄文がみられ、口辺部は横方向、胴部は縦方向に同転圧正されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	II期	SK615
			B (22.7)				
			C —				
51	310回 1	深鉢 胴下部欠 片	A 20.6	口縁部は胴部から開いて立ちあがり、胴部がやや膨らみ、胴下部を欠く。口辺部以下地文としてL.Rの縄文が施文され、頸部以下は沈線によるV字状文・葉状文などが描かれている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗茶褐色	II期	SK648
			B (20.4)				
			C —				
52	2	深鉢 胴以下欠 片	A 29.4	口縁部は垂直ぐみに立ちあがり、胴上部でややくびれ、胴部以下を欠く。口辺および胴上部には斜位の縄文がみられ、胴部には縦位方向の縄文が施文され、いづれもR.Lの縄文である。縄文は不鮮明。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	II期	SK600
			B (19.0)				
			C —				
53	300回 4	深鉢 底部欠 片	A 26.8	口縁部はやや内反して立ちあがり流状口縁を呈し、底部を欠く。胴部全体にLの縄文が施文されている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	II期	SK656
			B (36.7)				
			C —				
54	5	深鉢 口縁部欠 片	A 22.1	口縁部は胴部から外反して立ちあがり、胴部はやや膨らんで底部へ移る。口辺部に沈線による葉状文などが描かれている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗茶褐色	II期	SK656
			B 39.8				
			C 10.0				
55	6	深鉢 胴以下欠 片	A 9.8	口縁部は胴部から垂直ぐみに立ちあがり、胴部以下を欠く。口唇部には沈線がみられ、地文はL.Rの縄文で沈線文が施されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	II期	SK656
			B (16.5)				
			C —				
56	7	深鉢 胴下部欠 片	A 32.4	口縁部はやや開いて立ちあがり流状を呈し胴下部を欠く。器面全体にL.Rの縄文が施文されている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	II期	SK656
			B (26.8)				
			C —				
57	8	深鉢 胴下部欠 片	A 32.2	口縁部はやや内彎しながら立ちあがり、胴部がやや膨らみ、胴下部を欠く。口辺部に円形刺突文を有し、胴部の地文はL.Rの縄文である。口辺部近くに円形貼付文がみられ、沈線による文様帯が描かれ、内部は縄文が磨消されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	II期	SK656
			B (31.0)				
			C —				
58	310回 3	深鉢 胴下部欠 片	A 22.9	口縁部は胴部から開いて立ちあがり、胴下部を欠く。口辺部に横位の沈線がみえ、器面全体はL.Rの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	III期	SK677
			B (24.8)				
			C —				
59	4	深鉢 胴下部欠 片	A 18.0	口縁部は胴部からやや開いて立ちあがり、胴下部を欠く。胴部には縦位の半截竹管による平行沈線文がみられる。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	II期	SK770
			B (18.8)				
			C —				
60	5	深鉢 胴上部欠 片	A —	底部から直線的に開く胴部を有し、胴上部を欠く。胴部には地文としてR.Lの縄文が施文され、その上に半截竹管による沈線文が上部にみられる。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗茶褐色	II期	SK771
			B (34.0)				
			C 11.0				
61	310回 7	深鉢 口縁部欠 片	A 16.0	口縁部はくびれから開いて立ちあがり、流状を呈する。胴上部には通結する沈線帯が描出され、区画内にはL.Rの縄文が充塞されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	II期	SK797
			B 20.6				
			C 7.0				
62	336回 1	深鉢 口縁部欠 片	A —	胴部以上を欠き胴部はやや膨らみ、器面は全体に厚けずりがみられ、胴上部にはかすかにL.Rの縄文が施文されている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	II期	SK802
			B (42.0)				
			C 10.5				
63	304回 7	深鉢 胴下部欠 片	A 13.4	口縁部は内彎して立ちあがり、胴部で大きくくびれ、胴下部を欠く。口辺部に無文帯を有し、横隆帯で区画し、下部はR.Lの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗茶褐色	I期	SK810
			B (13.9)				
			C —				
64	305回 1	浅鉢 片	A 12.3	口縁部は底部から大きく開いて立ちあがり、体部は沈線文が描かれている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	II期	SK812
			B 7.0				
			C 3.8				

65	331回 1	深鉢 底部欠 写	A 39.0 B (50.2) C —	口縁部はやや内彎がみに立ち上がり、胴部でややくびれ、底部を欠く。口辺部に縄文帯部がみられ、胴部は全体にLの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 茶褐色	I 期	SK814
66	310回 8	深鉢 胴下部欠 写	A 19.0 B (16.8) C —	口縁部はくびれ部から開いて立ち上がり、波状を呈し、胴下部を欠く。胴部全体に沈線による変形縄文帯が施出され区画帯に列点文が施文されている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	II 期	SK816
67	6	深鉢 胴下部欠 写	A 25.2 B 22.3 C —	口縁部は胴部からやや開いて立ち上がり、胴下部を欠く。口辺部に横線の沈線がみられ、胴部は細沈線による大柄の斜格子文がみられる。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	II 期	SK824
68	9	深鉢 胴下部欠 写	A 27.0 B (29.4) C —	口縁部は胴部から垂れ直ぐに立ち上がり、胴下部を欠く。口縁部は無文帯をなし、胴部にはLの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	III 期	SK867
69	10	浅鉢 底部欠 写	A 26.4 B 15.3 C —	口縁部は底部からゆるやかに内彎しながら立ち上がり、波状を呈する。地文はLの縄文で波頂部を中心に垂下する沈線文などがみられる。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	III 期	SK889
70	331回 2	浅鉢 突形	A 27.2 B 42.9 C 12.0	口縁部は垂直直ぐに立ち上がり、底部へすた。口辺部には横線の沈線が閉じ、円形刺突が閉隔をいれてみられる。円形刺突文から垂下する沈線がみられ、地文はLの縄文である。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	III 期	SK892
71	306回 5	鉢 胴以下欠 写	A 22.0 B (12.5) C —	口縁部は胴部から開いて立ち上がり、胴以下を欠く。口辺部に横線の沈線がみられ、器面全体は斜位の寛みがきみられる。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	II 期	SK901
72	320回 1	深鉢 写	A 37.3 B 37.2 C 8.6	口縁部は底部からやや開いて立ちあがる。器面には縦位の半輪竹葉によるコンパス状文が全体に施されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	II 期	SK909
73	2	深鉢 胴下部欠 写	A 36.0 B 23.5 C —	口縁部は胴部から開いて立ち上がり、波状を呈し、胴下部を欠く。地文はLの縄文で沈線を加えて文様帯を施出している。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	III 期	SK935
74	300回 11	深鉢 底部欠 写	A 23.8 B (32.3) C —	口縁部は胴部からやや開いて立ち上がり、胴下部を欠く。口辺部に横線の沈線がみられ、胴部は斜行する響籠状文が施され、斜格子がみえる。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	II 期	SK944
75	320回 3	浅鉢 胴下部欠 写	A — B (13.8) C 8.8	底部から大きく開いて立ちあがる胴部を有し、胴上部を欠く。器面全体にLの縄文が施文されている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	III 期	SK950
76	300回 7	浅鉢 胴下部欠 写	A 22.4 B (20.8) C —	口縁部はくびれ部から開いて立ち上がり、胴下部をやや縮らみ、底部を欠く。口辺部に連続する十字状文帯がみられ、胴部には変形縄文帯が施出されている。区画帯内にはLの縄文が施文されている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	II 期	SK959
77	313回 3	注口 口縁部欠 写	A 14.5 B (6.8) C —	口縁部は内反して立ち上がり、把手を有している。全体に黒みがきみられ、一部に円形刺突が認められる。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	I 期	SK972
78	320回 5	深鉢 胴下部欠 写	A 31.6 B (20.4) C —	口縁部はくびれ部から大きく開いて立ち上がり、胴下部を欠く。胴上部には変形縄文帯が施出され、区画帯内にはLの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	II 期	SK972
79	6	深鉢 胴下部欠 写	A 25.5 B (20.4) C —	口縁部は胴部よりやや開いて立ち上がり、波状を呈し、胴下部を欠く。口辺部に沈線がみられ、胴部にはLの地文が施文され、沈線による縦状文が施されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	III 期	SK1024
80	314回 1	浅鉢 突形	A 15.6 B 9.0 C 7.3	口縁部は底部から開いて立ち上がり、一对の突起を有する。器面全体に黒みがみられる。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	III 期	SK1042
81	2	鉢 突形	A 8.3 B 8.1 C 6.7	口縁部は底部から垂れ直ぐに立ちあがる。器面全体に黒みがみられる。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	III 期	SK1042
82	3	深鉢 胴下部欠 写	A — B (14.2) C 7.2	底部から開いて立ちあがる胴部を有し、胴上部を欠く。胴部にはLの縄文が施され、下部は縦位の寛けずりがみられる。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	III 期	SK1042
83	4	深鉢 胴下部欠 写	A — B (15.3) C 7.9	底部からやや開いて立ちあがる胴部を有し、胴上部を欠く。胴部にはLの縄文が施され、下部は縦位の寛けずりがみられる。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	III 期	SK1042
		深鉢	A —	底部からやや開いて立ちあがる胴部を有し、胴	普通		

84	5	胴下部	B (15.1) C 6.1	上部を欠く。胴部には沈線文がみられ、胴下部は残れずがみられる。	砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅱ期	SK1042
85	336図 3	深鉢 胴以下欠	A 25.2 B (22.0) C —	口縁部は垂直ぐみに立ちあがり、小突起を有し胴部以下を欠く。地文は、Lの縄文で、口辺部に横位の沈線がみられ、胴部に3本の沈線が垂下している。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	Ⅱ期	SK1115
86	330図 4	深鉢 胴下部欠	A 33.6 B 22.6 C —	口縁部は垂直ぐみに立ちあがり、胴部でやや膨らみ、胴下部を欠く。器面全体にR Lの縄文が施文されている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅱ期	SK1135
87	330図 3	深鉢 胴以下欠	A 30.6 B (13.8) C —	口縁部は外反ぐみに開いて立ちあがり、胴部以下を欠く。口辺部に「8」字状貼付文がみられ、沈線による文様帯が描出されている。地文はL Rの縄文である。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗茶褐色	Ⅱ期	SK1158
88	2	深鉢 口縁部欠	A 27.2 B (10.6) C —	口縁部はやや開いて立ちあがり胴部以下を欠く。口辺部に細線文がみられ、器面にはL Rの縄文が施文されている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅱ期	SK1170
89	1	深鉢 胴下部欠	A 38.8 B (24.8) C —	口縁部は内傾して立ちあがり、胴部は大きく原状を呈し、胴下部を欠く。口辺部は無文で胴部に無縁帯で区画された帯状区画がみられ、区画内および胴部にはL Rの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	I期	SK1171
90	9	深鉢 胴下部欠	A 42.4 B (22.8) C —	口縁部はやや開いて立ちあがり、胴下部を欠く。器面全体にL Rの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅱ期	SK1233
91	10	深鉢 胴下部欠	A 34.5 B (21.3) C —	口縁部はやや開いて立ちあがり、胴下部を欠く。口辺部は無文をなし横位の沈線が横出し、胴部には、R Lの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	Ⅱ期	SK1233
92	323図 1	鉢	A 12.0 B 8.3 C 6.7	口縁部は底部から内傾ぐみに立ちあがる。地文はR Lの縄文で4段の渦巻文が描かれている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅱ期	SK1256
93	330図 6	深鉢 口縁部欠	A — B (28.0) C 9.0	口縁部は垂直ぐみに立ちあがり、胴部は底部へとすむ。口辺部は無文で横位の沈線が横出し、その下部は横位の波状の沈線文が施されている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	Ⅱ期	SK1286
94	5	深鉢 胴部欠	A — B (35.0) C —	胴下部から開いて立ちあがり、口縁部および底部を欠く。胴部にはR Lの縄文が施文され、胴下部は縦位の残れずがみられている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	Ⅱ期	SK1287
95	332図 1	盤	A 32.8 B 6.5 C 5.8	口縁部は小さい底部から大きく開き、底部はあげ状を呈する。器面全体は丁寧な見みりがなされている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗茶褐色	I期	SK1350
96	330図 7	深鉢 胴以下欠	A 36.5 B (7.5) C —	口縁部は内傾して立ちあがり、胴部以下を欠く。全体は無文であり、口辺部は横位、胴部は斜位の残れずがみられる。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	Ⅱ期	SK1364
97	336図 6	鉢	A 22.0 B 14.4 C 7.2	口縁部は内傾して立ちあがり、底部は逆線的に底部へ移る。器面は横位あるいは斜位の残れずがみられている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	Ⅱ期	SK1427
98	7	深鉢 胴部欠	A — B (24.0) C —	やや丸味を有する胴部で胴部以上および胴下部を欠く。胴部には沈線による渦巻状区画がみられ、区画内にはL Rの縄文が充填されている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅱ期	SK1427
99	4	鉢 ほぼ方形	A 20.4 H 16.8 C 9.2	口縁部は開いて立ちあがり、波状を呈している。器面には残れずがみられる。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	Ⅱ期	SK1463
100	5	深鉢 胴部欠	A — B (26.0) C —	やや下膨れの胴部で胴上部および胴下部を欠く。地文はL Rの縄文で垂下する沈線と波状の沈線が交互にみられる。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗茶褐色	Ⅱ期	SK1463
101	331図 3	深鉢 胴部欠	A — B (25.0) C —	やや開いて立ちあがる胴部で口縁部および底部を欠く。器面全体にL Rの縄文が施文されている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅱ期	SK1523
102	4	深鉢 胴以下欠	A 22.2 B (17.3) C —	口縁部は胴部からやや開いて立ちあがり、胴部はかすかに膨らみ、胴部以下を欠く。器面全体にL Rの縄文が施文されている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅱ期	SK1523
103	5	深鉢 胴部欠	A — B (16.2) C —	開いて立ちあがる胴部で、口縁部および底部を欠く。器面全体にL Rの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅱ期	SK1523
330図	浅鉢	A 27.8	口縁部は底部からゆるやかに開いて立ちあがり、	普通			

104	8		B C	15.2 9.0	流状をなす。口縁部の一部を欠く。体部にはL Rの縄文が施文されている。	砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK1536
105	331図 6	浅鉢 突形	A 直	17.3 24.0 9.7 9.2	口縁部は所円形を呈し、口径が異なる。底部から大きく開いて立ち上がり、やや流状を呈する。器面全体は荒みりがなされている。	良好 砂粒、石英、スコリア 灰褐色	Ⅲ期	SK1536
106	7	深鉢 胴下部欠	A B C	20.5 (16.3)	口縁部は胴上部からやや内彎がみに開いて立ち上がり、胴下部を欠く。口辺部は沈凹による流線文状の区画帯がみられ、胴部には変形渦巻文が施され、区画内にはL Rの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗茶褐色	Ⅱ期	SK1565
107	327図 1	壺 胴部欠	A B C	— (4.2)	胴上部で小把手を胴部に有し、隆帯によって文様帯を隔出し、口縁部および底部を欠く。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK1584
108	332図 2	深鉢 胴下部欠	A B C	22.1 (29.3)	口縁部は垂直ぐみに立ち上がり、胴部でやや膨らみ、胴下部を欠く。口辺部には刻線の無文帯がみられ、器面全体にはR Lの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK1584
109	332図 4	深鉢 底部欠	A B C	30.0 (40.0)	口縁部はやや外反して立ち上がり、胴上部でかすかにくびれ、底部を欠く。口辺部に2段、頸部に1段の刻線帯がみられ、地文はR Lの縄文である。口辺部には横位、胴部には縦位に区画し、さらに横位の半籠竹管文がみられる。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗茶褐色	Ⅲ期	SK1608
110	3	深鉢 胴下部欠	A B C	42.0 (37.3)	口縁部は垂直ぐみに立ち上がり、胴下部を欠く。地文はL Rの縄文で、口辺部に総帯が隔出し、地文に新位あるいは縦位の沈凹文がみられる。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗茶褐色	Ⅲ期	SK1622
111	334図 1	深鉢 胴以下欠	A B C	34.0 (24.0)	口縁部は外反して立ち上がり、頸部でややくびれ、胴下部を欠く。地文はL Rの縄文で縦位あるいは横位の沈凹文が施文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗茶褐色	Ⅲ期	SK1624
112	2	深鉢 胴下部欠	A B C	26.4 (16.0)	口縁部は開いて立ち上がり、胴下部を欠く。地文はL Rの縄文で、沈凹による直線あるいは曲線が組み合わされて施文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK1624
113	3	深鉢 胴下部欠	A B C	26.8 (14.0)	口縁部は内反して立ち上がり、胴部は膨らみ、胴下部を欠く。地文はL Rの縄文で、胴部に沈凹文が施文されている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK1624
114	4	深鉢 胴下部欠	A B C	30.0 (18.0)	口縁部は外反して立ち上がり流状をなし、胴下部を欠く。地文はL Rの縄文がみられ、半籠竹管による変形文が施文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK1624
115	5	浅鉢 胴下部欠	A B C	34.4 (21.0)	口縁部は段を有して大きく外反して立ち上がり、一部を欠く。口辺部に、沈凹による文様帯がみられ、区画内にはL Rの縄文が施文されている。段部以下は荒みりがみられる。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗茶褐色	Ⅲ期	SK1624
116	6	壺 胴下部欠	A B C	— (14.0)	胴部ははりだし、口縁部および胴下部を欠く。胴上部にL Rの地文がみられ、沈凹による渦巻文や曲線文が施され、円形の胎付文がみられる。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK1624
117	7	鉢 胴部欠	A B C	— (12.0)	胴下部で段をなし、垂直ぐみに外反している胴部で、口縁部および胴下部を欠く。胴上部に沈凹による三角状の区画がみられ、区画内にはL Rの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK1624
118	8	深鉢 胴下部欠	A B C	34.0 (19.6)	口縁部は開いて立ち上がり、流状を呈し、胴下部を欠く。器面全体にR Lの縄文が施文されている。	普通 砂粒、石英、スナック 暗褐色	Ⅲ期	SK1624
119	9	深鉢 胴下部欠	A B C	28.4 (19.4)	口縁部は内彎して立ち上がり、胴下部を欠く。器面全体にL Rの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK1624
120	10	深鉢 胴下部欠	A B C	26.0 (19.2)	口縁部は開いて立ち上がり、胴下部を欠く。器面全体にL Rの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK1624
121	11	深鉢 胴部欠	A B C	23.4 (17.4)	口縁部は開いて立ち上がり、頸部はややくびれ、胴下部を欠く。器面全体にL Rの縄文が施文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅲ期	SK1624
122	332図 6	深鉢 胴部欠	A B C	— (25.0)	やや膨らみを有する胴部で、頸部はやや外反して広がり、頸部は無文で胴部はL Rの縄文を地文とし、連結する流線文が施文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗茶褐色	Ⅲ期	SK1625
123	334図 12	深鉢 胴部欠	A B	— (33.4)	胴部は開いて立ち上がり、口縁部および胴下部を欠く。地文はL Rの縄文で、半籠竹管による	良好 砂粒、石英、スコリア	Ⅲ期	SK1642

		％	C	——	直線文が描かれている。	暗茶褐色		
124	232図 7	深鉢 底部欠	A 44.4 B (40.0) C ——	——	口縁部は固いて立ちあがり、或状を呈し底部を欠く。器面全体にLRの縄文が施文されている。	良 好 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	Ⅲ期	SK1643
125	332図 5	深鉢 胴下部欠 尻	A 36.2 B (24.0) C ——	——	口縁部は胴部から外反して立ちあがり、胴部は大きく断れ胴下部を欠く。全体的に更なでがみられ、胴上部には、かすかに手戴竹筥による沈線文がみられる。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	Ⅲ期	SK1748

3. 埋設土器 (第337～340図)

第Ⅰ期

第Ⅰ期の埋設土器はSK008のみである。胴下部を欠く深鉢形土器(第337図1)があげられ、波状口縁部を有する土器で、各項部を結んで微隆帯がみられ、口辺部は無文帯であり、胴部全体にはLRの縄文が施文されている。

第Ⅱ期

第Ⅱ期の埋設土器はやや多く、9個体が確認されている。

SK095はほぼ直立ぎみに埋置されたもので、底部を欠く深鉢形土器である。口縁部には4か所突起を有し、口辺部に無文帯を有している。胴部にはRの縄文地がみられ、沈線で長楕円形状の区画を描き、区画内の縄文を磨消している(第337図6)。

SK097も直立ぎみに埋置されたもので、口辺部に無文帯を有して沈線を周回し、胴部には撚りの雑なLRの縄文が施文され、橋状把手を有する深鉢形土器(同図7)である。

SK119はほぼ直立ぎみに埋置されたもので、底部を欠く深鉢形土器である。沈線による区画帯を描き、区画内に縄文を充填しているが、区画外にも縄文が施文されている(同図3)。

SK186の埋設土器は、頸部のくびれた深鉢形土器で底部を欠いている。口縁部は波状を呈し、一対の突起を有している。胴上部および胴下部を連続する渦巻区画文がみられ、区画内にはLRの縄文が充填されている(第338図2)。

SK443の埋設土器は完形の深鉢形土器で波状口縁を有し、沈線を口辺部に周回させ、胴部には縦位の波状櫛歯状文が施文されている。(第339図3)。

SK444の埋設土器は胴下部を欠く深鉢形土器で、沈線による変形渦巻文と鍵状文がやや退化した文様帯がみられ、縄文を充填する部分もやや雑である(同図2)。

SK493の埋設土器は口縁部および胴下部を欠く深鉢形土器で、ほぼ直立ぎみに埋置されたものである。胴部にはX字状の隆帯がみられ、その隆帯を中心に菱形の沈線文を描き、内部にV字状区画文などがみられ、LRの縄文が充填されている(同図1)。

SK594の埋設土器は口縁部および底部を欠く深鉢形土器で、ほぼ直立ぎみに埋置されたものである。胴部には縦位の櫛歯状文が施文されている(第332図5)。

SK796の埋設土器は胴下部を欠く深鉢形土器で、口辺部に無文帯を有して沈線を周回させ、胴

部には縦位の櫛歯状文がみられる（第340図2）。

第三期

第三期の埋設土器はそれほど多くなく、4個体ほどが確認されている。

SK091の埋設土器は、口辺部に無文帯および沈線を有し、全体的に縄文を施文し、U字状および蕨状の沈線文がみられる（第337図2）。

SK099の埋設土器は2個体が重なって確認され、全体にL Rの縄文が施文された深鉢形土器（同図4）と、地文に縄文を有して口縁部の頂部よりY字状の沈線文が描かれた深鉢形土器（同図5）が出土している。

SK125の埋設土器は胴上部に縦方向の半截竹管による波状文が描かれた深鉢形土器である（第338図1）。

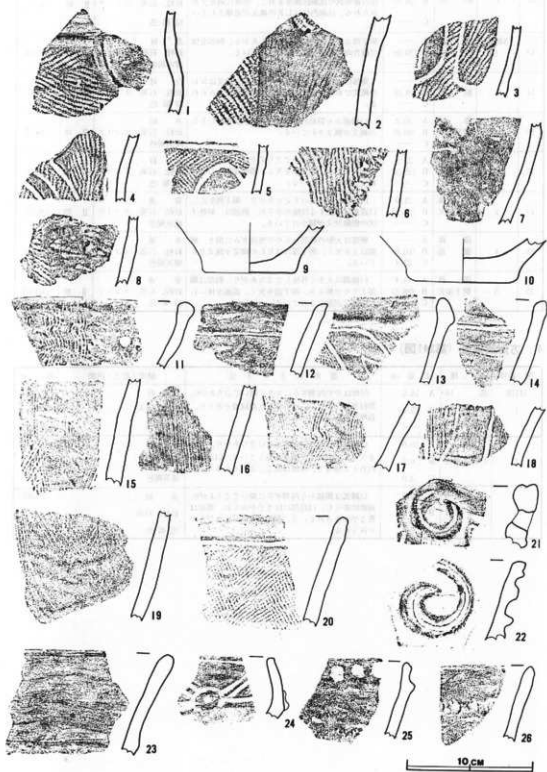
SK663の埋設土器は口縁部および底部を欠く深鉢形土器で、頸部はくびれてR Lの縄文地が施文され、垂下するU字状の沈線文が描かれている（同図3）。

番号	図・番号	器 種	法 量 cm	器 形 お よ び 文 様	焼成・胎土・色調	時 期	備 考
1	337図 1	深鉢 底部欠	A 27.7 B (26.0) C —	胴下部より脛いて立ちあがり、4か所の突起を有し、口辺部は無文帯によって無文帯を区画している。胴部にはL Rの縄文が施文されている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	I 期	SK008
2	2	深鉢 完形	A 25.6 B 40.0 C 9.0	口縁部から底部へ丸味を有してゆるやかにすぼむ。口縁部には4か所の小突起を有し、凹形の孔がみられる。地文はL Rの縄文が施文され、沈線文が4単位みられる。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗茶褐色	II 期	SK091
3	6	深鉢 底部欠	A 34.4 B (33.6) C —	胴上部でくびれ、口縁部は大きく開く。口縁部に4か所の小突起がみられる。上部からフセン状に沈線による長方形の区画文がみられ、区画外縁にはLの縄文を充填し、区画内部を無文としている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗赤褐色	II 期	SK095
4	7	深鉢 底部欠	A 26.4 B (31.7) C —	胴下部からゆるやかに脛いて立ち上がる。口辺部は無文帯を有し、把手がみられる。胴部には、脛りのゆるい縄文が施文されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	II 期	SK097
5	4	深鉢 底部欠	A 30.8 B (23.8) C —	胴下部から直線的に開く。全体にL Rの縄文が施文されている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	II 期	SK099
6	5	深鉢 底部欠	A 34.4 B (30.0) C —	口縁部は、4か所の突起部を有している。地文は部分的にL Rの縄文がみられ、突起部を中心にY字状の沈線文がみられる。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	II 期	SK099
7	3	深鉢 底部欠	A 28.2 B (33.2) C —	頸部がくびれ、口縁部は開く。沈線による2段の変形渦巻文がみられ、Lの縄文が充填されているが部分的に区画外にもみられる。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	II 期	SK119
8	338図 1	深鉢 口縁部欠 片	A — B (33.7) C —	底部からゆるやかに脛いて立ちあがる。胴上部には縦方向の半截竹管による波状文が施文されている。	普通 砂粒、石英 暗褐色	II 期	SK125
9	2	深鉢 底部欠	A 27.0 B (28.2) C —	頸部は大きくくびれ、胴下部はやや丸味を有している。口縁部には一對の小突起を有している。胴部は全体に沈線による変形渦巻文がみられ、区画内にはL Rの縄文が充填されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	II 期	SK185
10	339図 3	深鉢 完形	A 30.8 B 44.0 C 7.7	口縁部には4か所の小突起がみられ、胴上部でゆるやかにくびれ、胴下部はやや膨らんでいる。口辺部は無文で横位の沈線下には縦位の波状櫛歯文がみられる。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗灰褐色	II 期	SK443
11	2	深鉢 底部欠	A 26.2 B (23.3) C —	胴上部でゆるやかにくびれ、口縁部は垂直きみに脛いている。器面全体に変形渦巻状区画がみられ、区画内にはL Rの縄文が充填されている。	良好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	II 期	SK444

12	1	深鉢 胴部	A — B (26.5) C —	胴上部でややくびれ、胴部径約40cmほどの大形の土器である。胴部はX状の横溝帯を中心に4単位の逆斜状の沈線区面帯を有し、中央に刺先文がみられる。区面内にはL Rの縄文が充填されている。	良 好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅱ 期	SK493
13	328図 5	深鉢 胴部	A — B (30.3) C —	胴下部より直線的に開いて立ちあがる。胴部全体に縦方向の櫛歯状文が施文されている。	良 好 砂粒、石英、スコリア 暗赤褐色	Ⅱ 期	SK594
14	3	深鉢 胴部	A — B (25.0) C —	胴部はくびれ、胴部はやや膨らむ。地文はR Lの縄文であり、乗下する4単位の沈線文がみられる。	良 好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅱ 期	SK663
15	4	深鉢 胴下部欠	A 35.2 B (20.8) C —	口縁部から直ちに胴部へ移る。胴部全体にR Lの縄文が施文されている。	良 好 砂粒、石英、スコリア 暗赤褐色	Ⅲ 期	SK671
16	340図 1	深鉢 胴下部欠	A 23.5 B (25.3) C —	口縁部はやや外反して立ちあがり、胴上部でかすかにくびれ、胴下部を欠く。器面全体にL Rの縄文が施文されている。	良 好 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅱ 期	SK676
17	2	深鉢 胴下部欠	A 31.0 B (26.1) C —	口縁部はやや開いて立ちあがり、胴下部を欠く。口辺部に周囲する沈線がみられ、胴部は、斜格子状の櫛歯状文が施文されている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗赤褐色	Ⅱ 期	SK796
18	4	深鉢 胴部	A — B (10.0) C 22.4	胴部は大型の底部からやや外反きみに開き、胴部以上を欠く。胴下部にはR Lの縄文が施文されている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗赤褐色	Ⅱ 期	SK1522
19	3	深鉢 胴下部欠	A 34.4 B (28.5) C —	口縁部は大きく外反して立ちあがり、胴部は胴部よりやや膨らみ、胴下部を欠く。器面全体にL Rの縄文が施文されている。	普通 砂粒、石英、スコリア 暗褐色	Ⅱ 期	SK1581

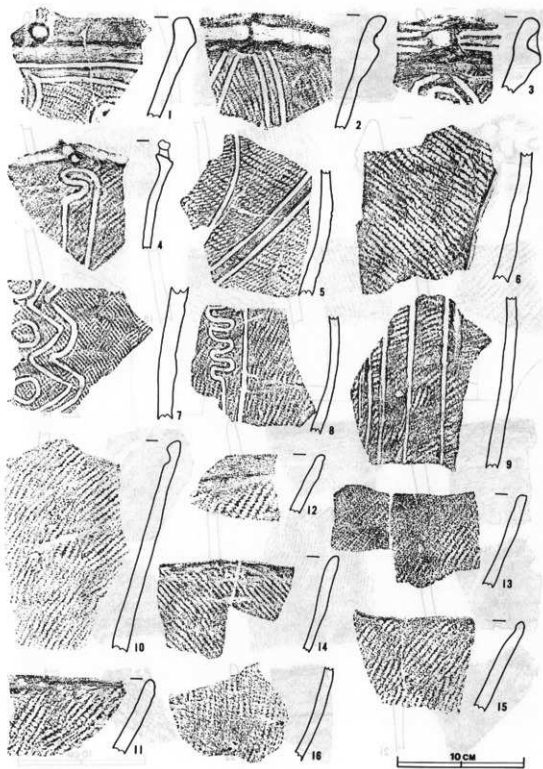
4. 方形高溝蓋 (第241図)

図・番号	器種	法量 cm	器形および手法	地文・胎土・色調	備考
341図 1	高 塚 胴部欠	A 14.5 B (5.6) C —	塚部はやや内彎きみに大きく開いて立ちあがり、胴部以下を欠く。内外面とも縦研削がみられ、器厚は0.5cm内外である。	良 好 砂粒、石英 暗茶褐色	SX001
2	塚 口縁一部欠	A 10.6 B 6.2 C 3.0	口縁部は底部から内彎きみに立ちあがり、一部を欠く。底部はあげ座状を呈している。口辺部は内外とも横なで、作部は異などがみられる。	良 好 砂粒、石英 暗茶褐色	SX001
3	塚 ほぼ完形	A 12.0 B 14.2 C 6.4	口縁部は胴部から内彎きみに開いて立ちあがり、胴部は膨らむ。口辺部にはなでがみられ、胴部は異なでがなされている。胴部も異なでおよびなでがみられる。	良 好 砂粒、石英 暗褐色	SX002



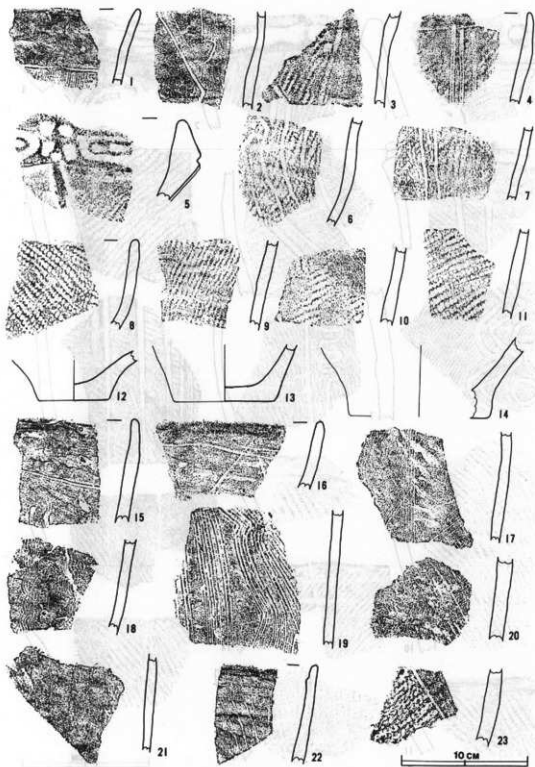
第195图 住居跡出土土器(1)

1~18 S1001 11~28 S1002



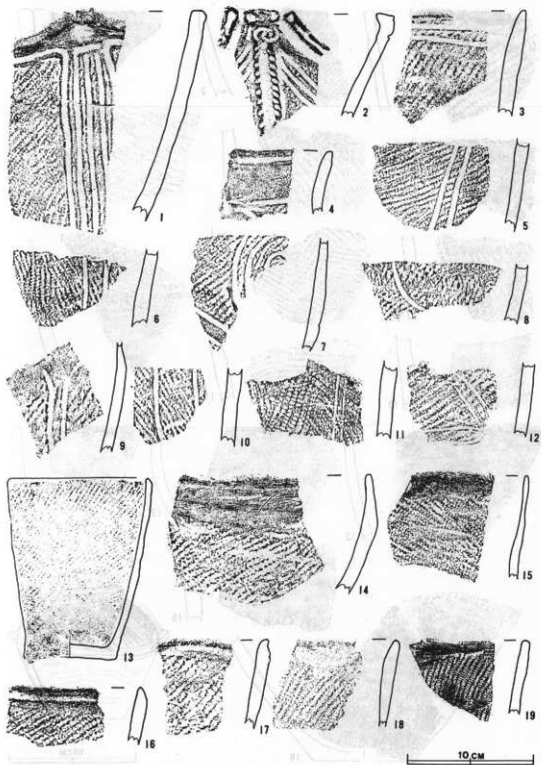
第196图 住居跡出土土器(2)

1~15 S1002



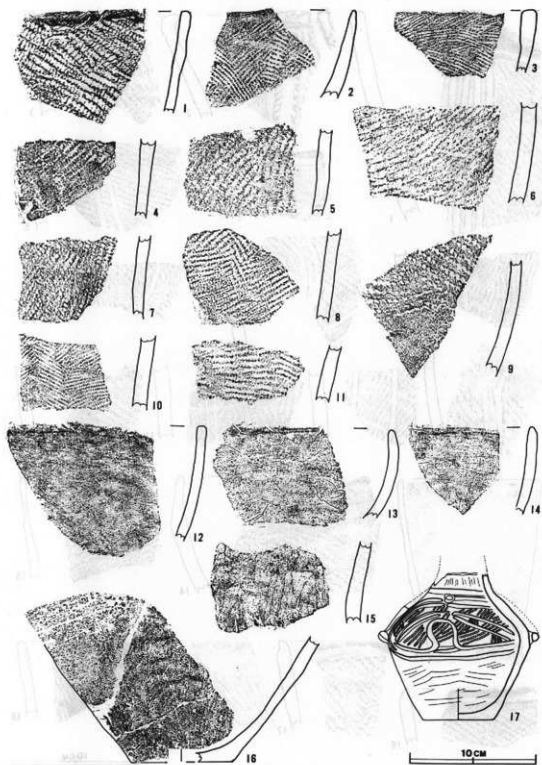
第197图 住居跡出土土器(3)

1~14 S1003 15~23 S1004



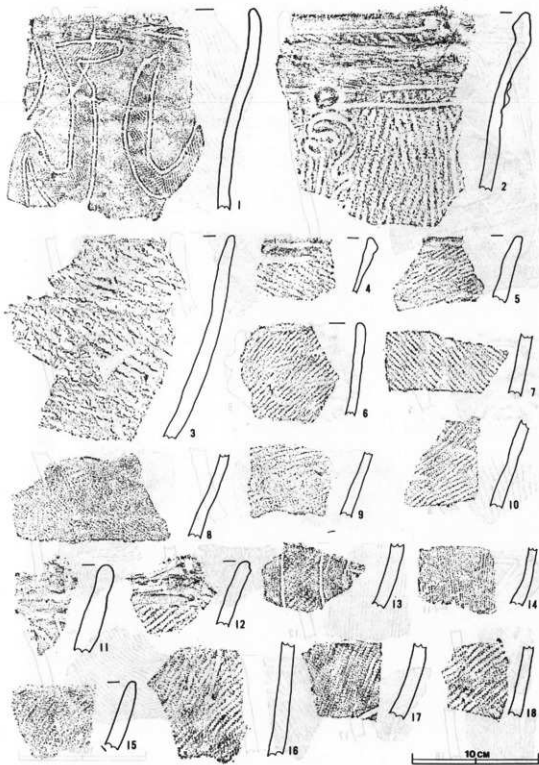
第198图 住居跡出土土器(4)

1-19 S1004



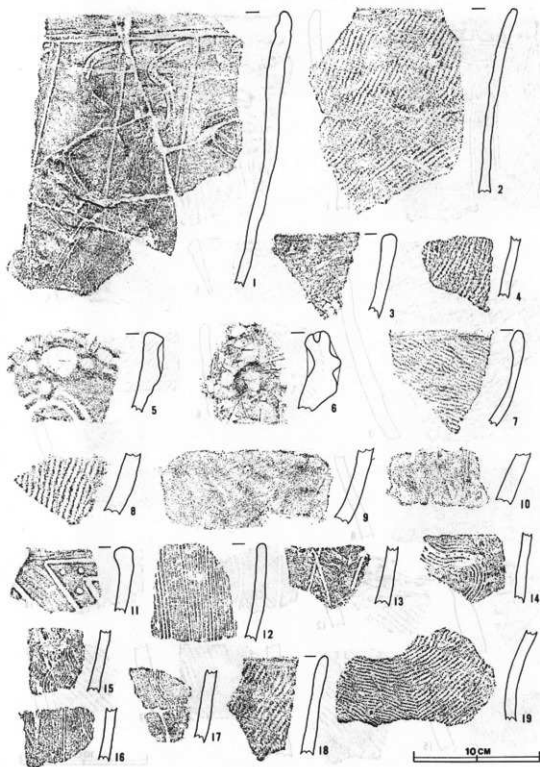
第199圖 住居跡出土土器(5)

1-17 S1004



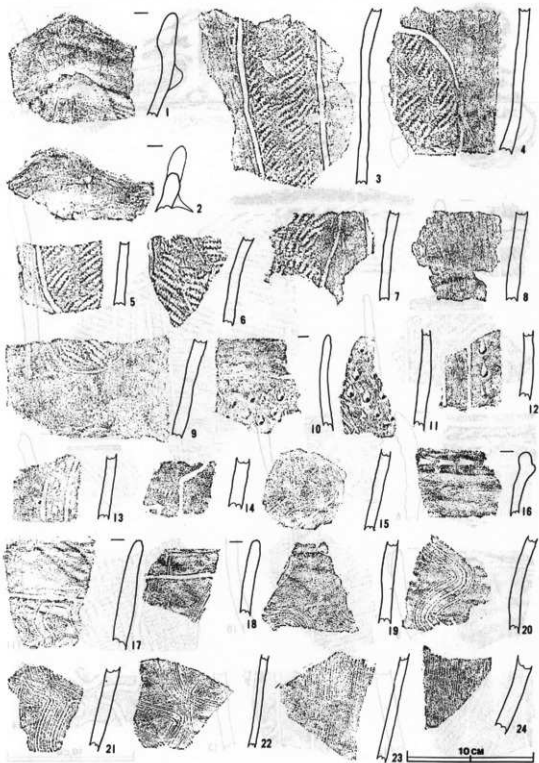
第200图 住居跡出土土器(6)

1~18 S1005 11~18 S1006



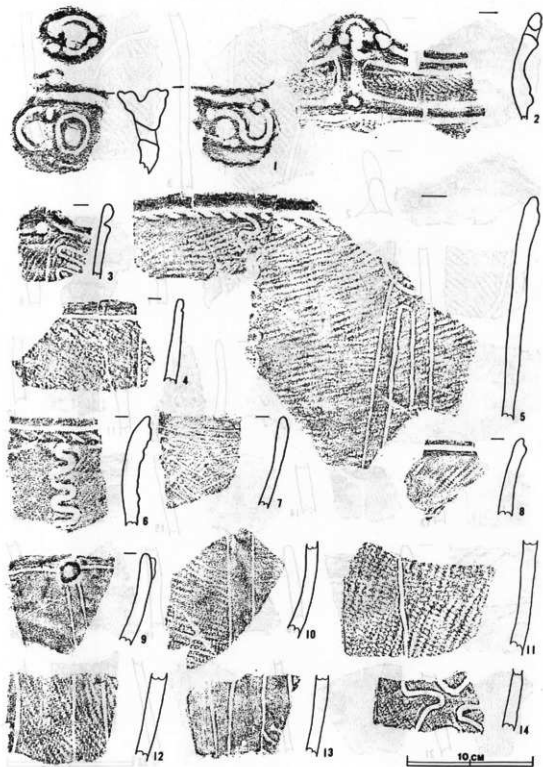
第201図 住居跡出土土器(7)

1-4 S1009 5-10 S1013
11-18 S1016



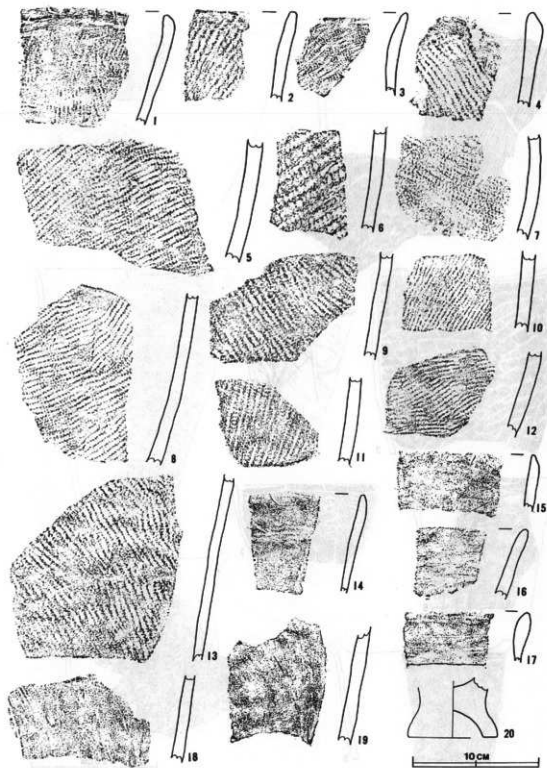
第202图 住居跡出土土器(8)

1-4 S1020 5 S1025
16-24 S1029



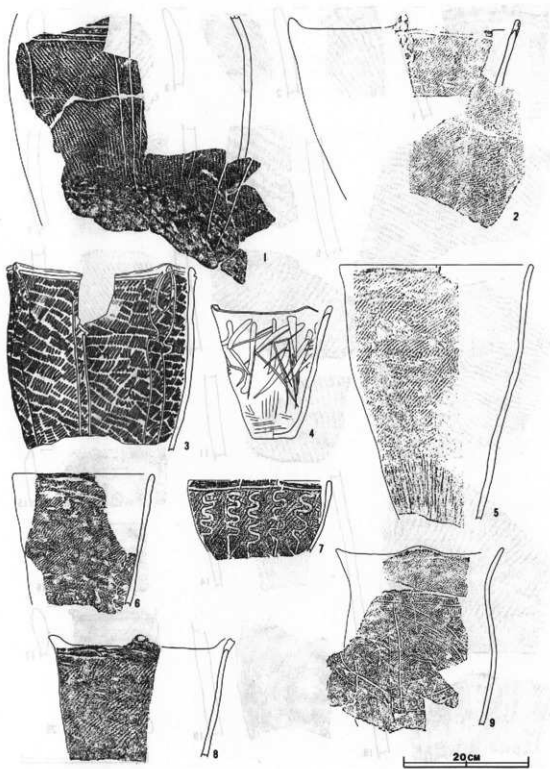
第203图 住居跡出土土器(9)

1-14 S1029



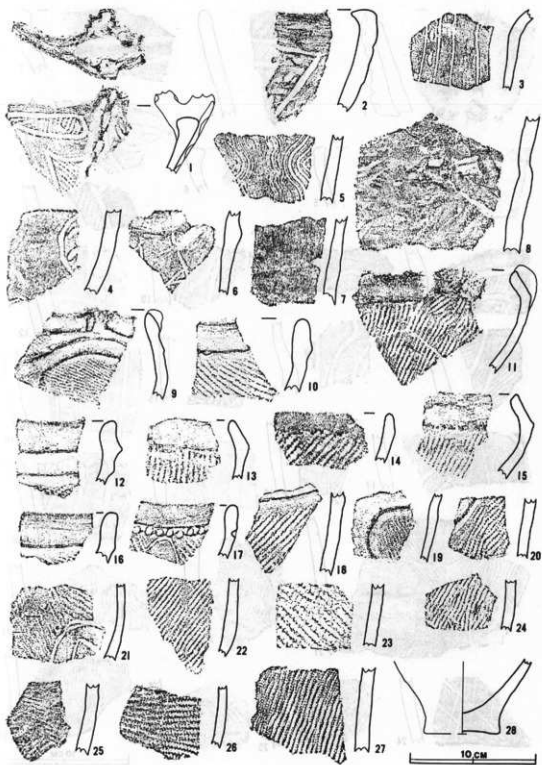
第204图 住居跡出土土器(10)

1-20 S1029



第205图 住居跡出土土器(11)

1 S1008 2 S1023 3-5 S1029
6-8 S1004 9 S1032B



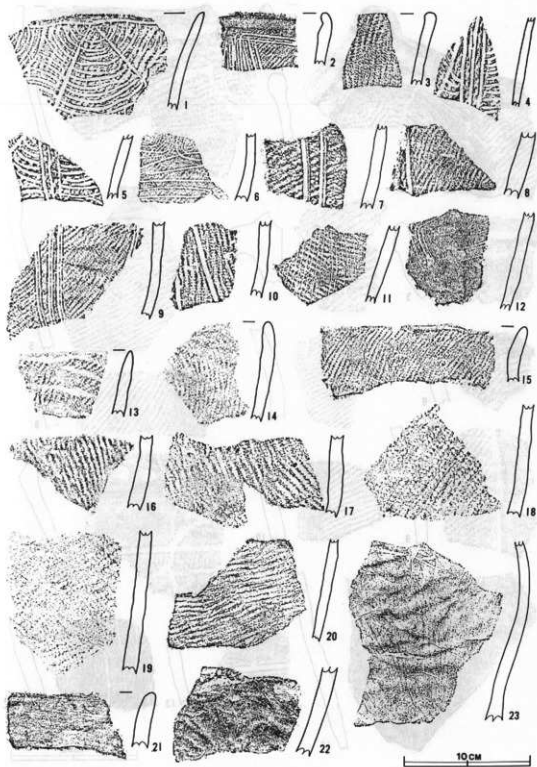
第206图 住居跡出土土器(12)

1-8 S1030 9-28 S1031



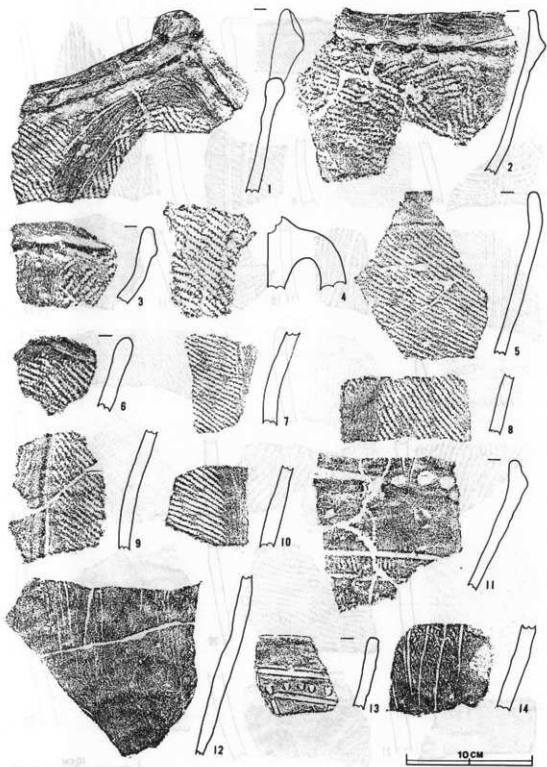
第207图 住居跡出土土器(13)

1-27 S1032



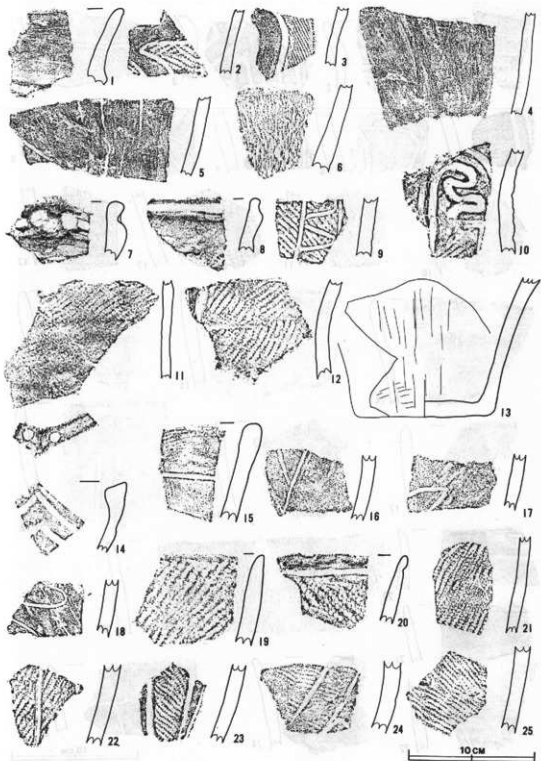
第208圖 住居跡出土土器(14)

1-21 S1032



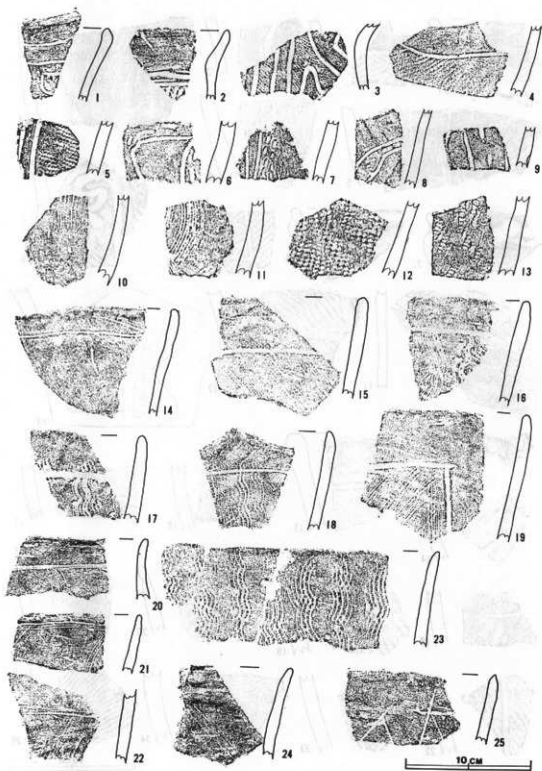
第209圖 住居跡出土土器(15)

1-14 S1033



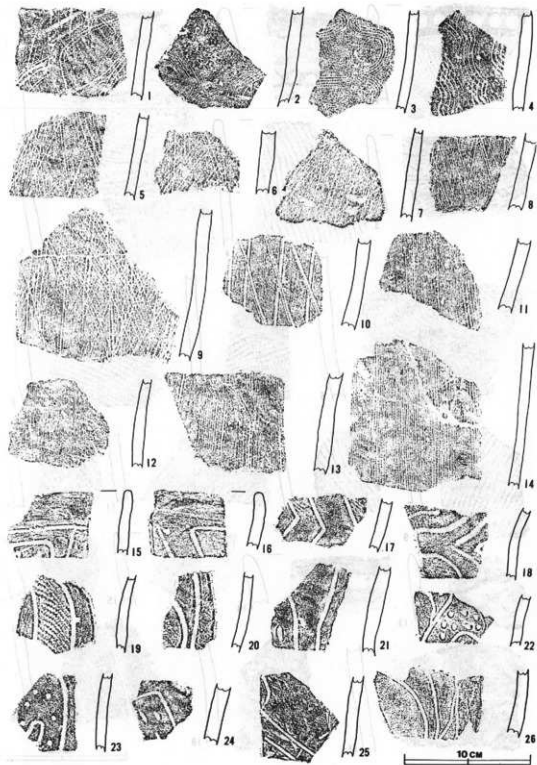
第210图 住居跡出土土器(16)

1-6 S1034 7-13 S1035
14-25 S1036



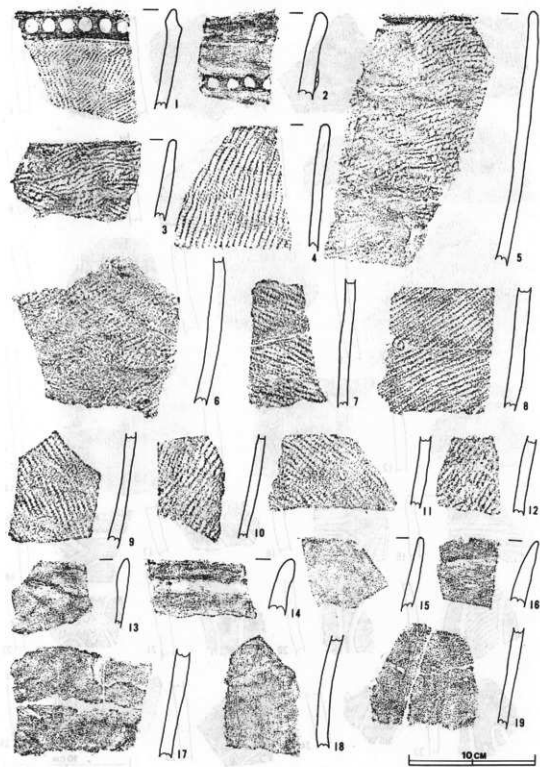
第211图 住居跡出土土器(17)

1-13 S1037 14-25 S1038



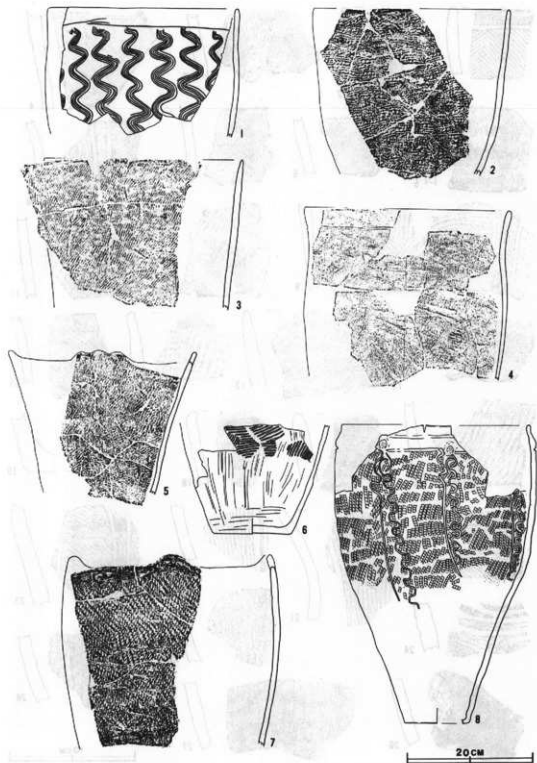
第212图 住居跡出土土器(19)

1-26 S1038



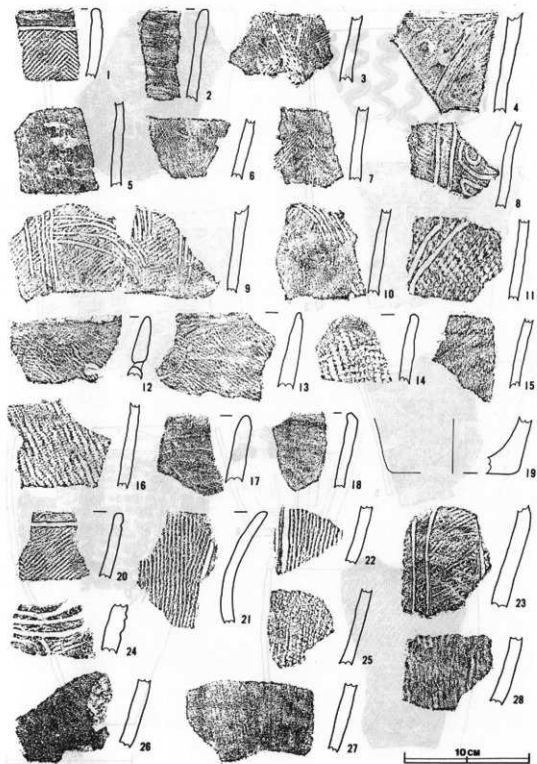
第213图 住居跡出土土器(19)

1-19 S1038



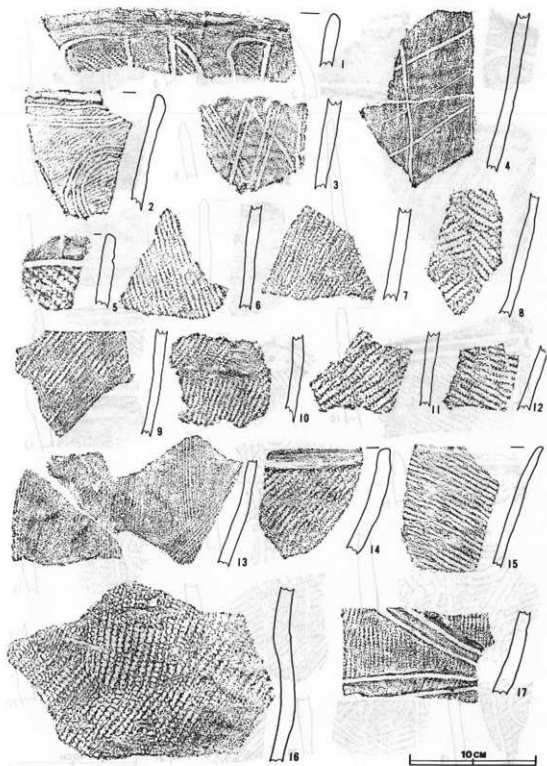
第214図 住居跡出土土器(20)

1-1 S1038 4 S1047
 3-1 S1049 7-1 S1058



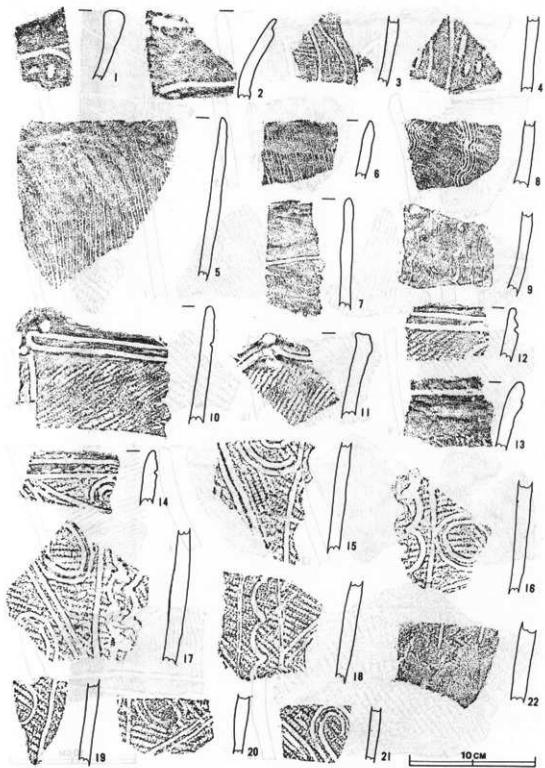
第215图 住居跡出土土器(21)

1-19 S1043 20-28 S1044



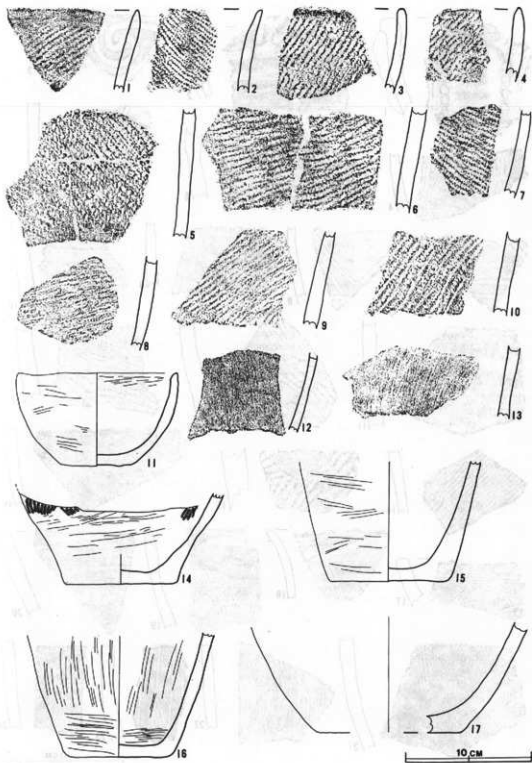
第216图 住居跡出土土器(22)

1-12 S1046 13-17 S1047



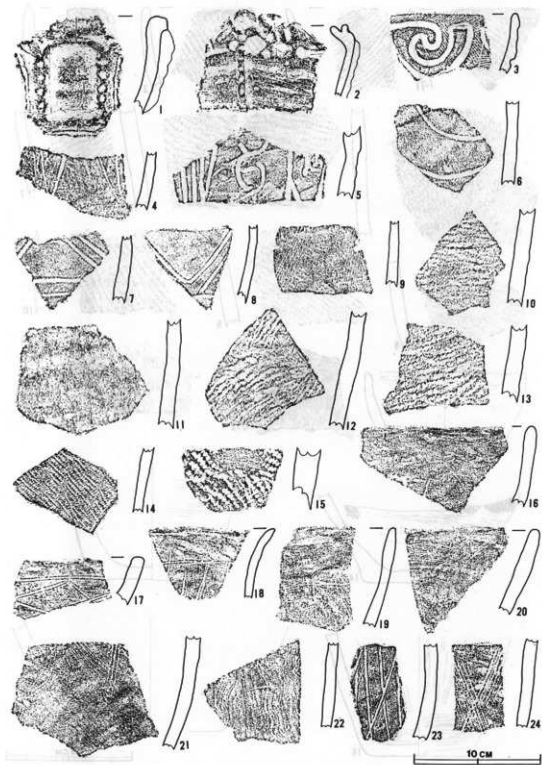
第217图 住居跡出土土器(23)

1-22 S1049



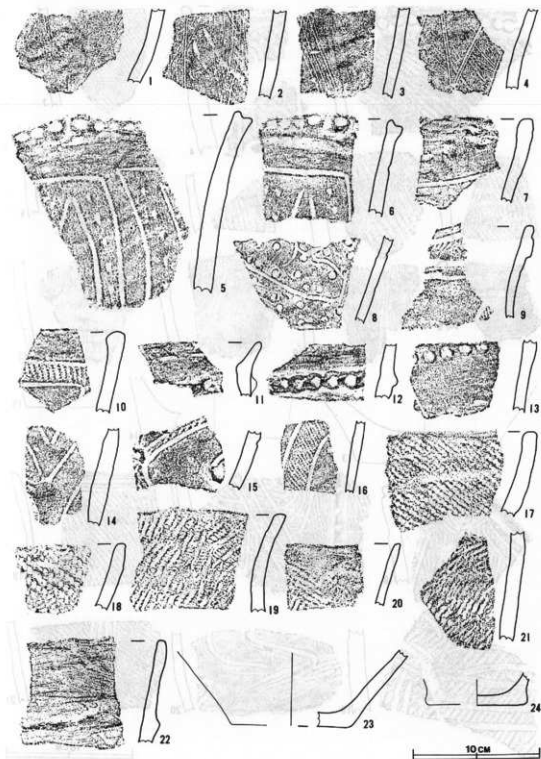
第218图 住居跡出土土器(24)

1-17 S1049



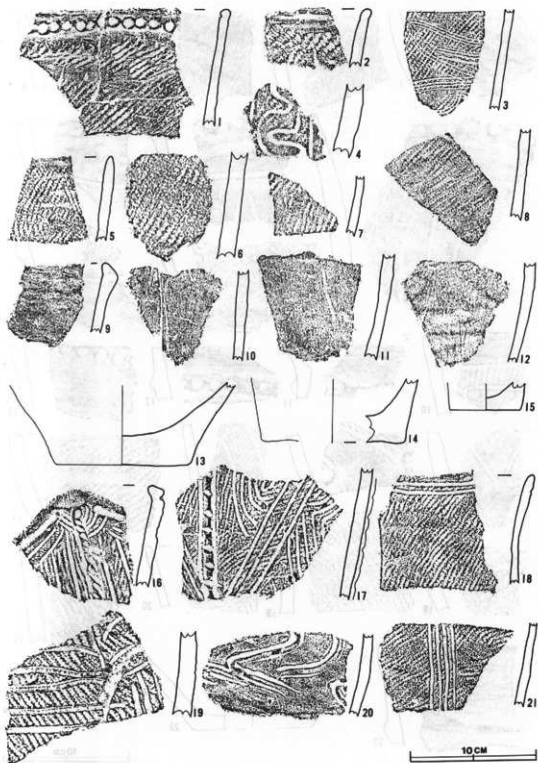
第219图 住居跡出土土器(25)

1-18 S1051 17-24 S1052



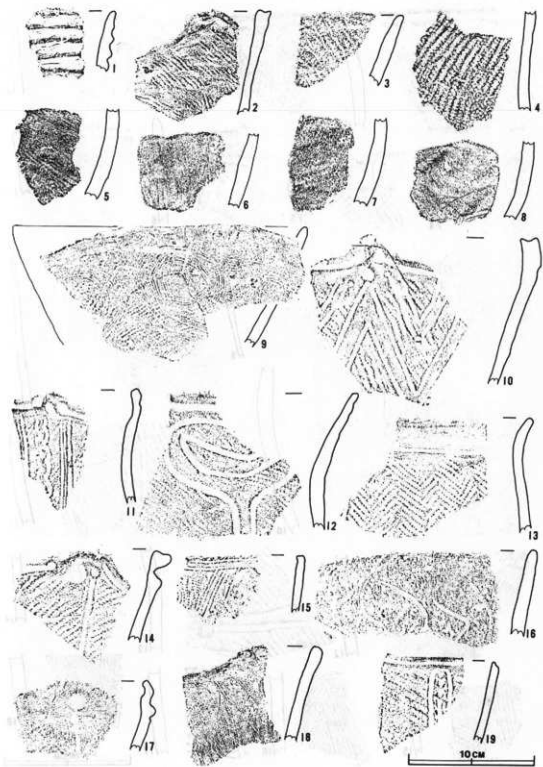
第220图 住居跡出土土器(26)

1-24 S1052



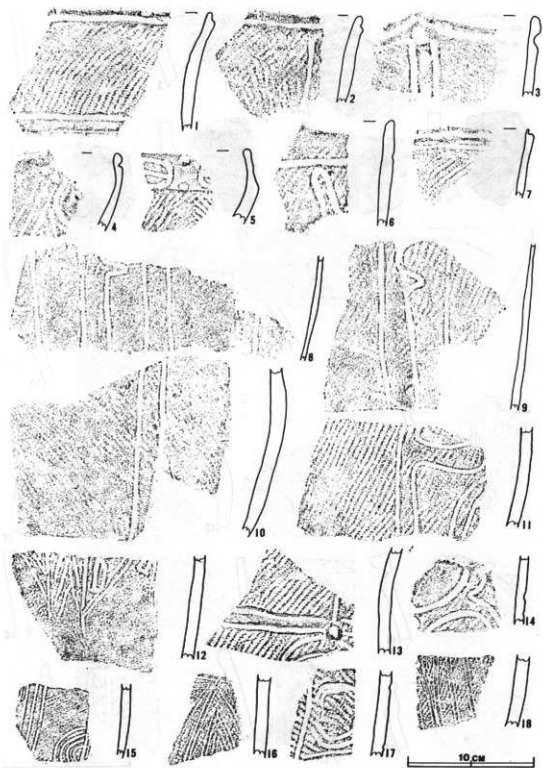
第221图 住居跡出土土器(27)

1-15 S1053 16-21 S1055



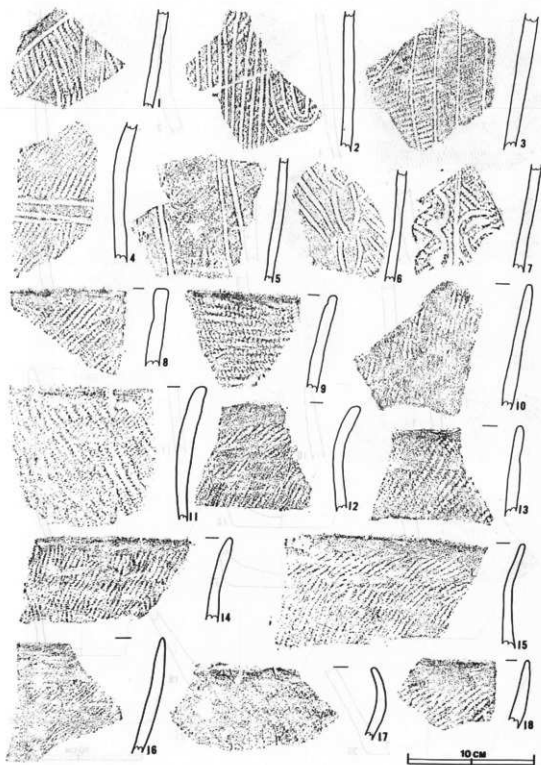
第222图 住居跡出土土器(28)

1-8 S1056 9-18 S1058



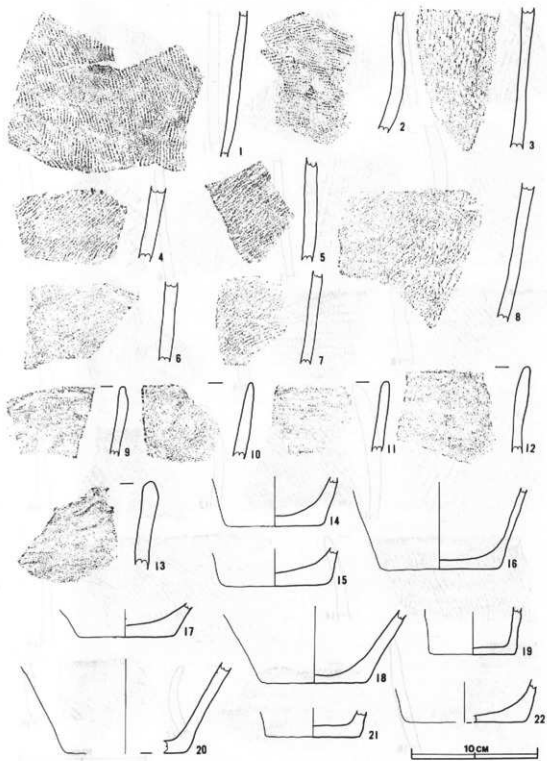
第223图 住居跡出土土器(29)

1-18 S105B



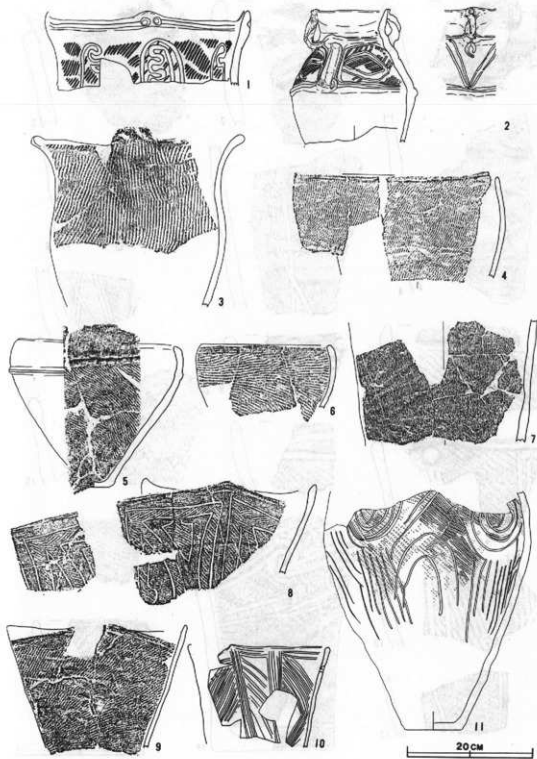
第224图 住居跡出土土器(30)

1~18 S1058



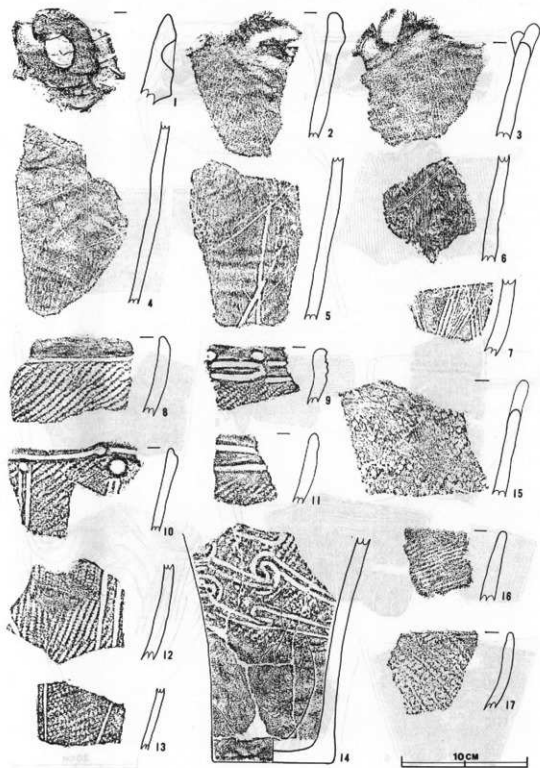
第225图 住居跡出土土器(31)

1-22 S1058



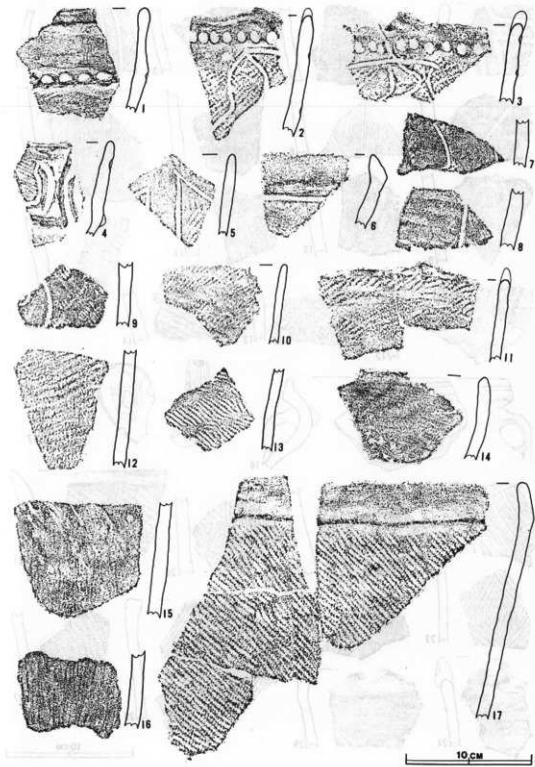
第226図 住居跡出土土器(32)

1 S1035	2 S1044	3・4 S1055
5 S1072	6 S1077	7 S1091
8 S1087	9・10 S1085	11 S1093



第227图 住居跡出土土器(33)

1-17 S1059



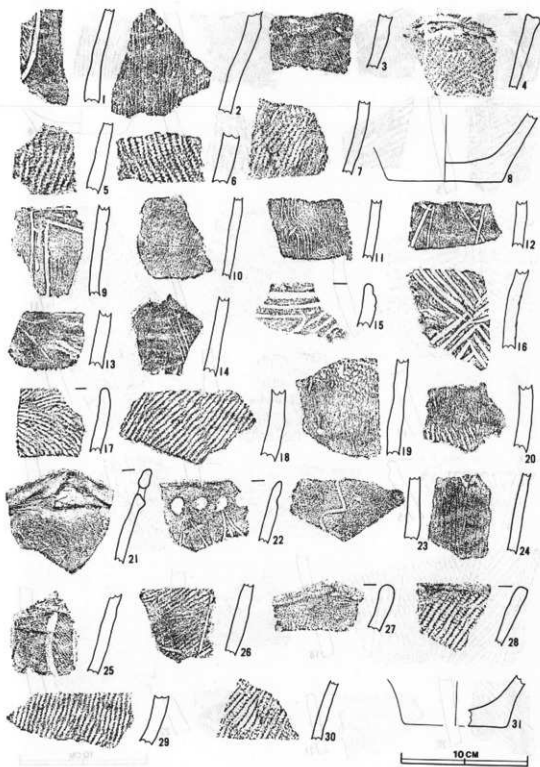
第228図 住居跡出土土器(34)

1-16 S1060A 17 S1060B



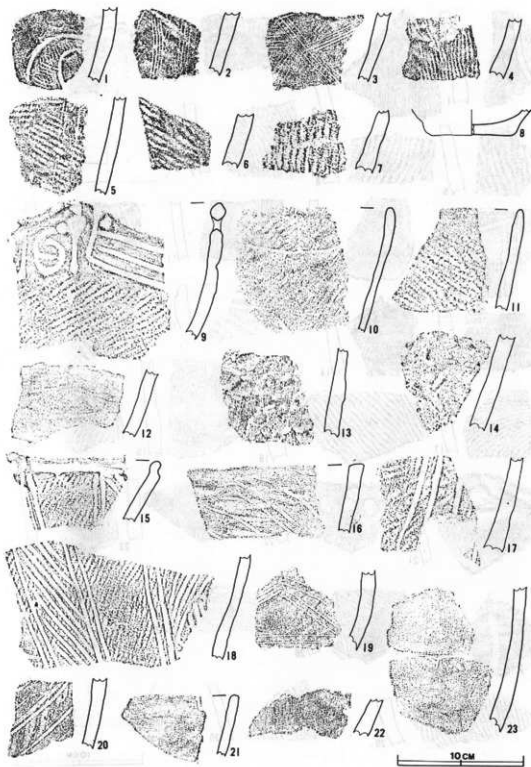
第229図 住居跡出土土器(35)

1-17 S1061 18-27 S1063



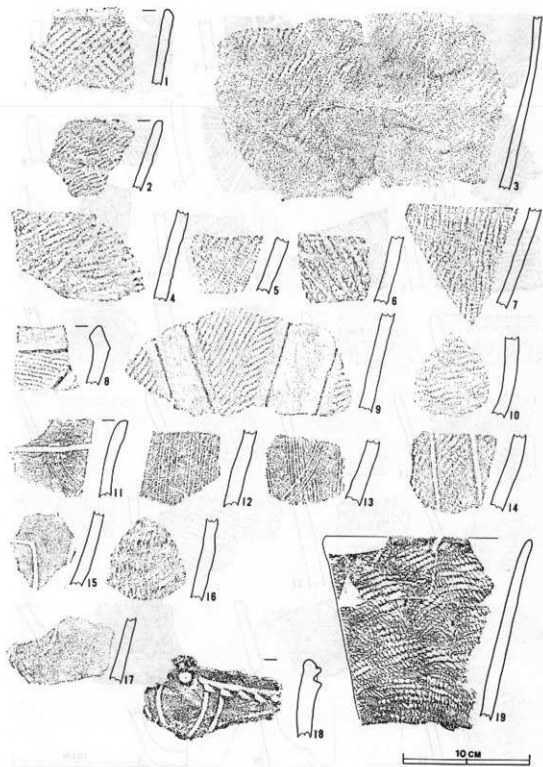
第230图 住居跡出土土器(36)

1-8 S1064 9-28 S1065
21-31 S1066



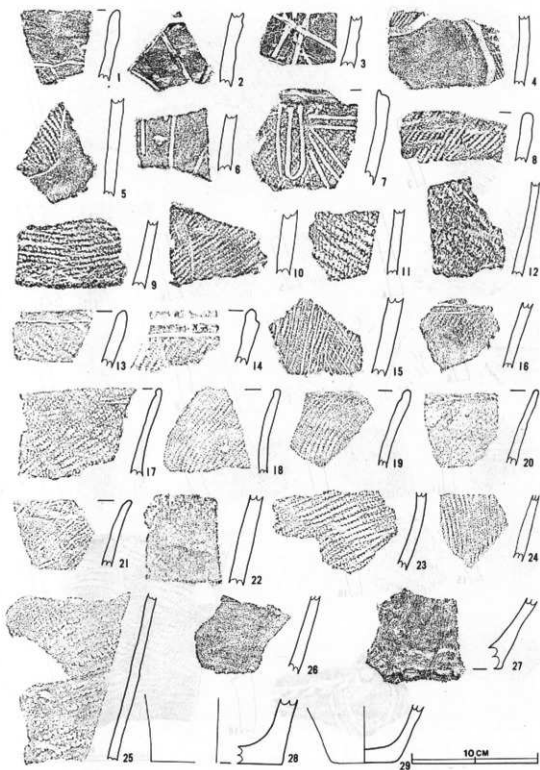
第231图 住居跡出土土器(37)

1-8 S1067 9-14 S1068A
15-23 S1068B

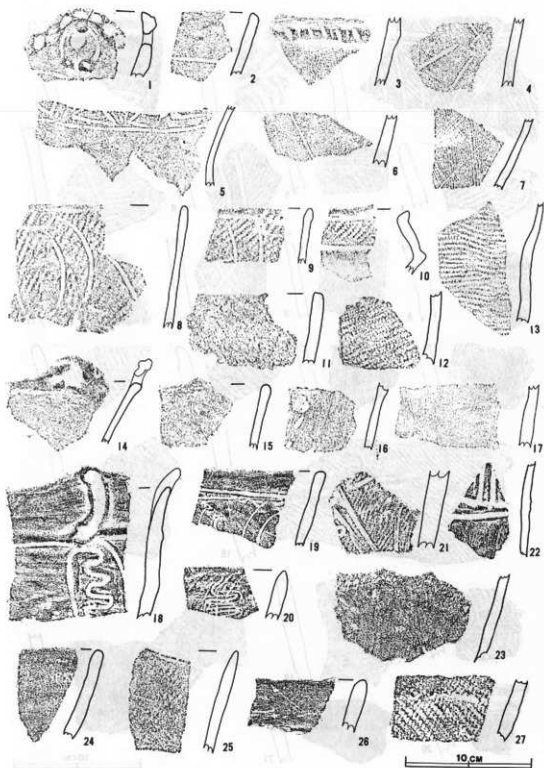


第232图 住居跡出土土器(38)

1-7 S1068B 8-10 S1070
11-17 S1072 18-19 S1075

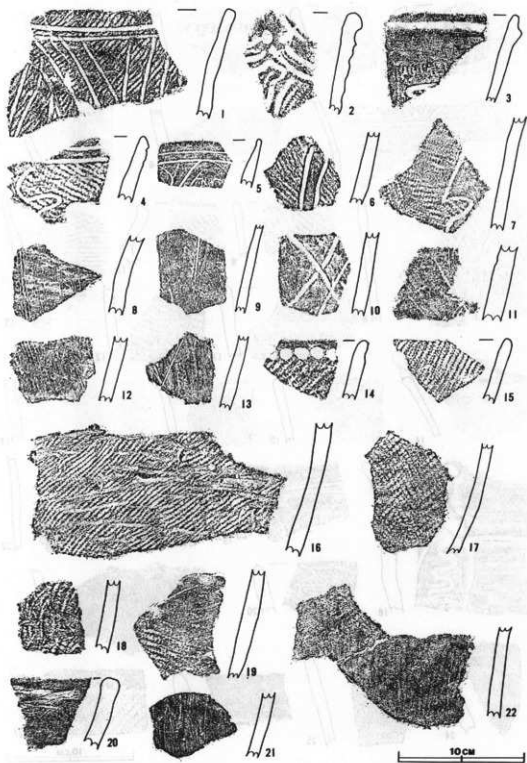


第233图 住居跡出土土器(39) 1~12 S1073 13~28 S1076



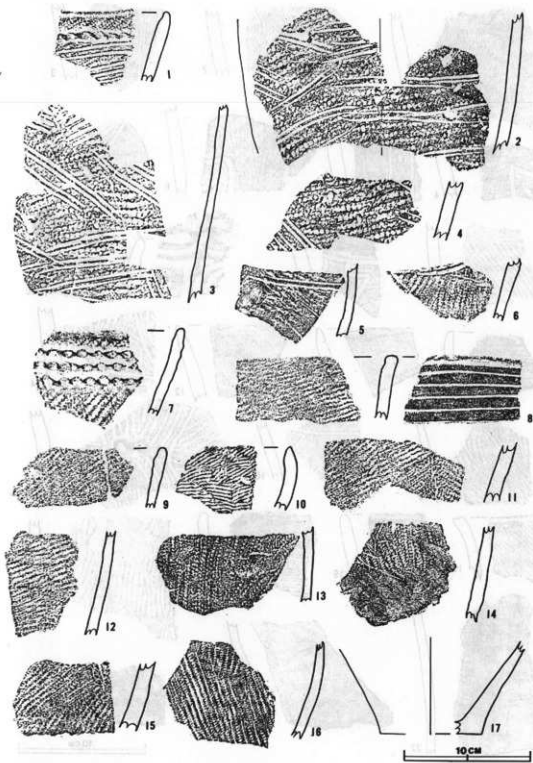
第234图 住居跡出土土器(40)

1-17 S1077 18-27 S1079



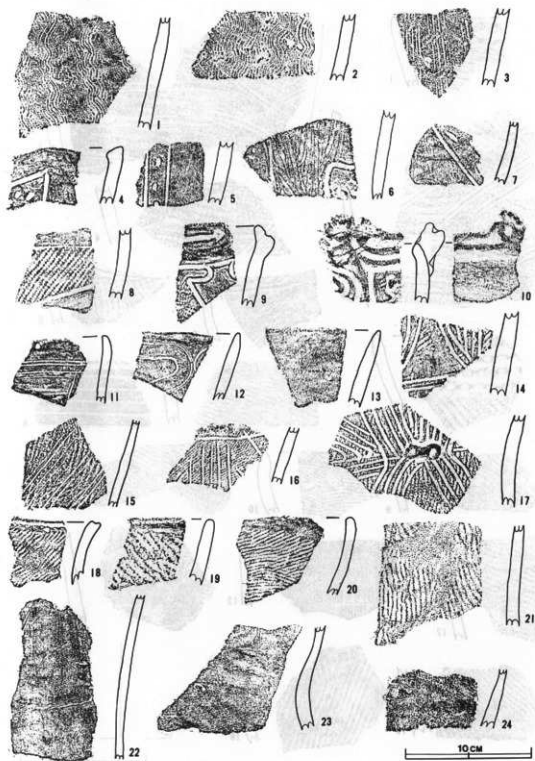
第235图 住居跡出土土器(41)

1-22 S1078



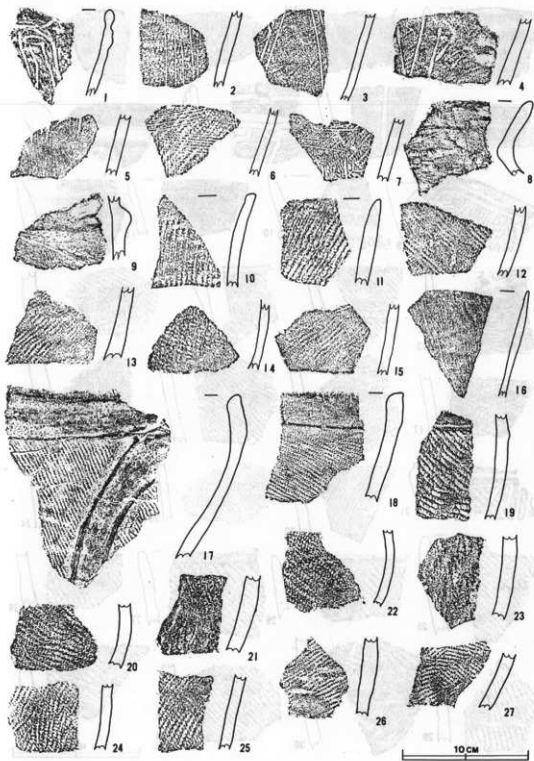
第236图 住居跡出土土器(42)

1-17 S1080



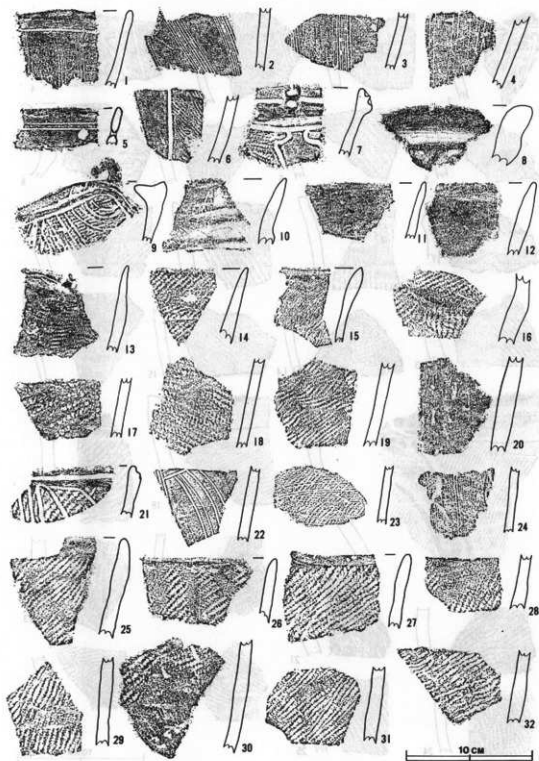
第237图 住居跡出土土器(43)

1-24 SIOBI



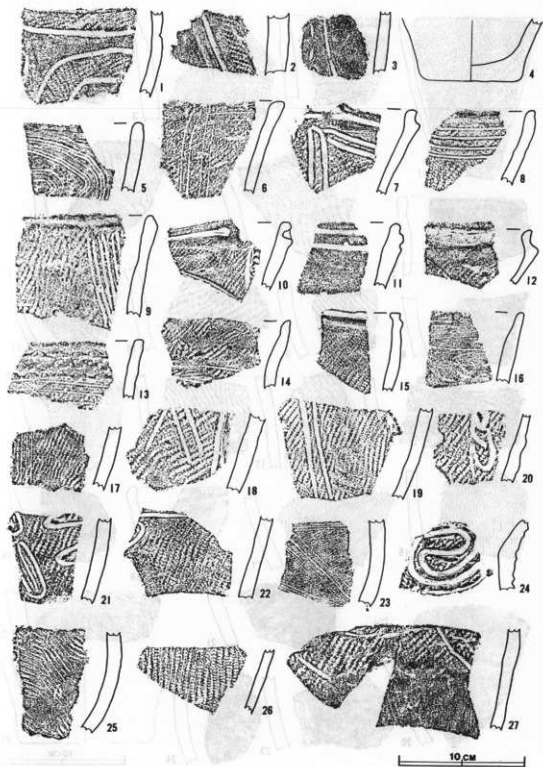
第238图 住居跡出土土器(44)

1-16 S1082 17-27 S1083



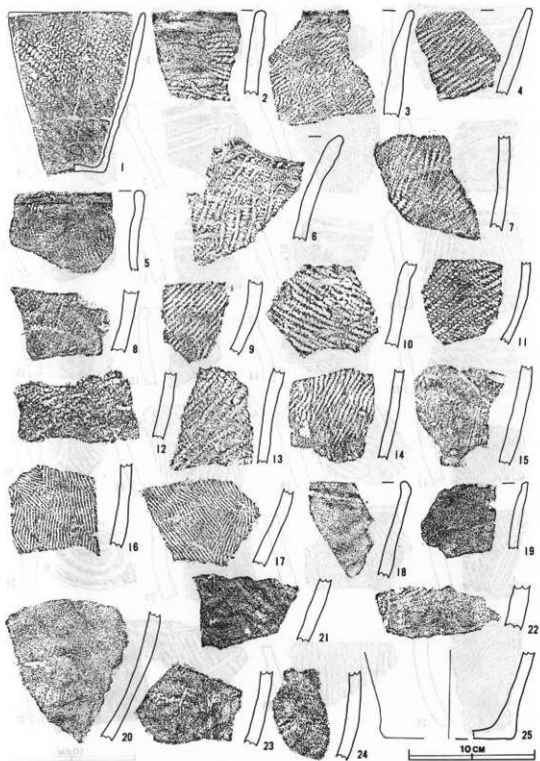
第239图 住居跡出土土器(45)

1~20 S1084 21~32 S1086



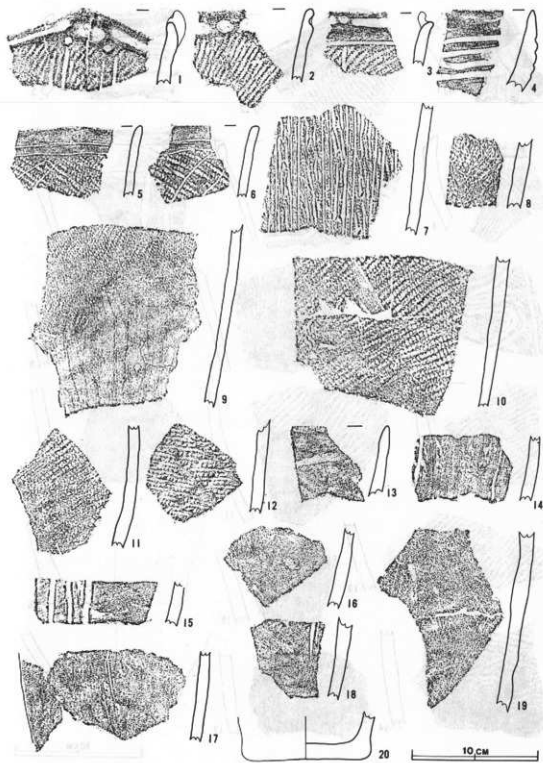
第240图 住居跡出土土器(46)

1-4 S1087 5-27 S1090



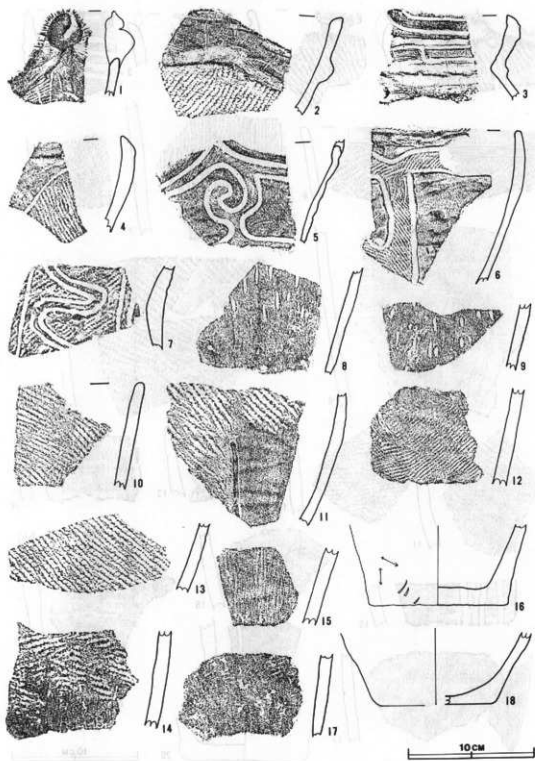
第241図 住居跡出土土器(47)

1-25 S1090



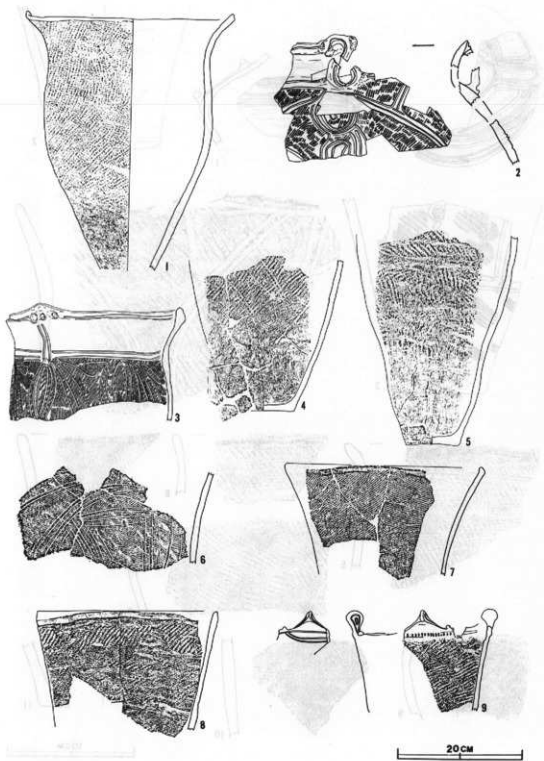
第242图 住居跡出土土器(48)

1-28 S1091



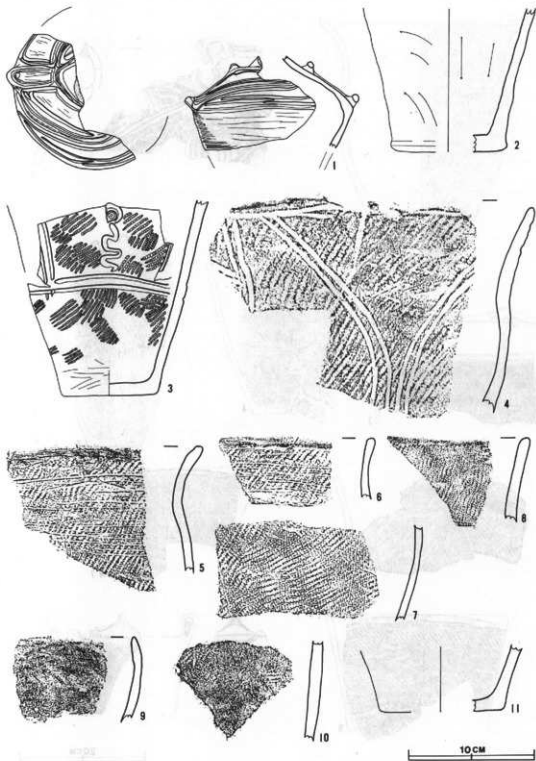
第243图 住居跡出土土器(49)

1~18 S1092



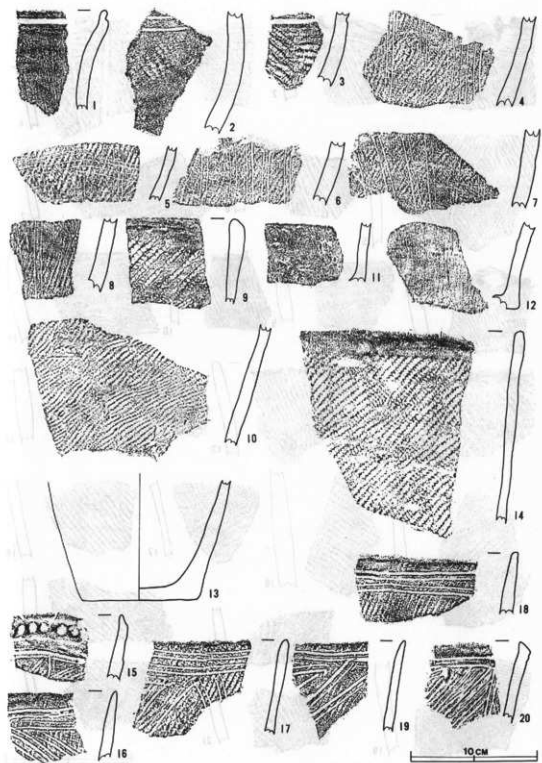
第244图 住居跡出土土器(58)

1-3 S1094 4-5 S1095
6-9 S1105



第245図 住居跡出土土器(51)

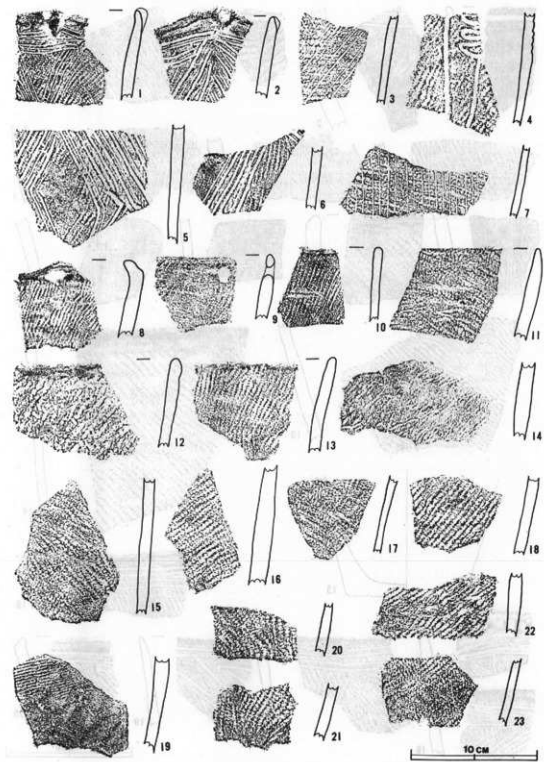
1・2 S1094 3-11 S1096



第246圖 住居跡出土土器(52)

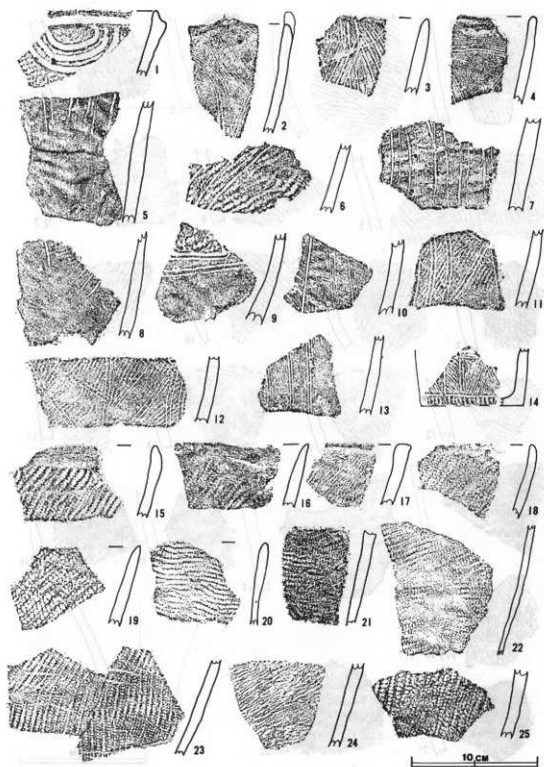
1~13 S1097
15~20 S1101

14 S1098



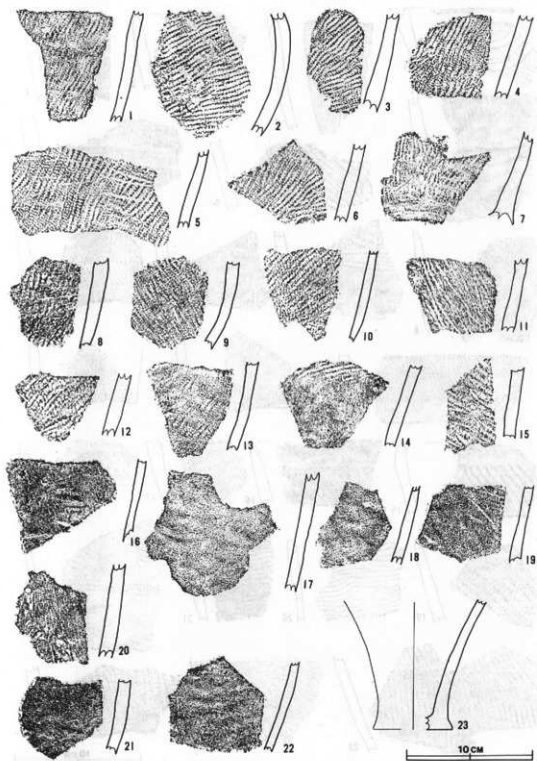
第247图 住居跡出土土器(53)

1-23 S1101



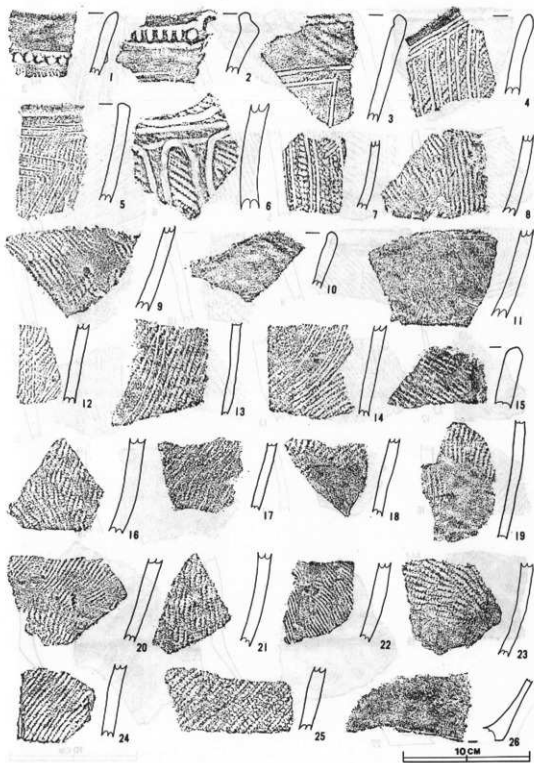
第248图 住居跡出土土器(54)

1-25 S1102



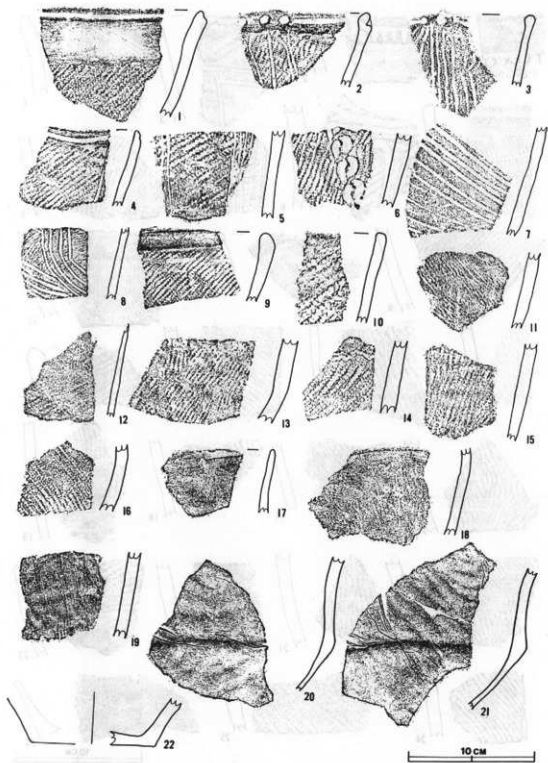
第249图 住居跡出土土器(55)

1-23 S1102



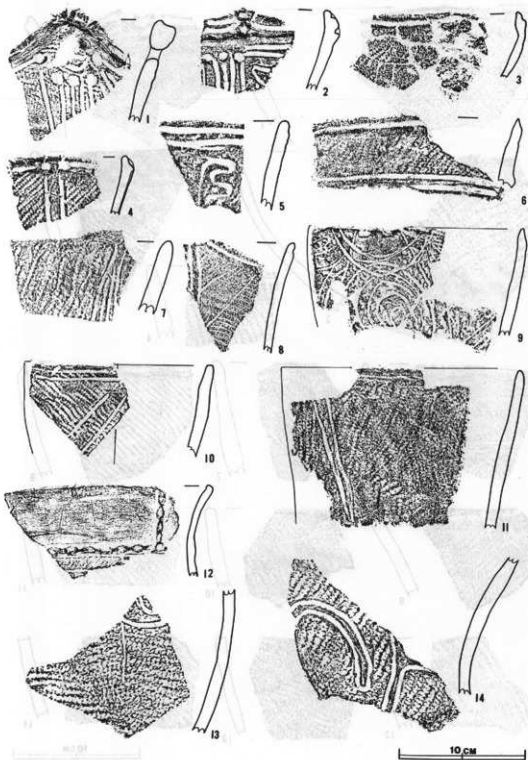
第250图 住居跡出土土器(56)

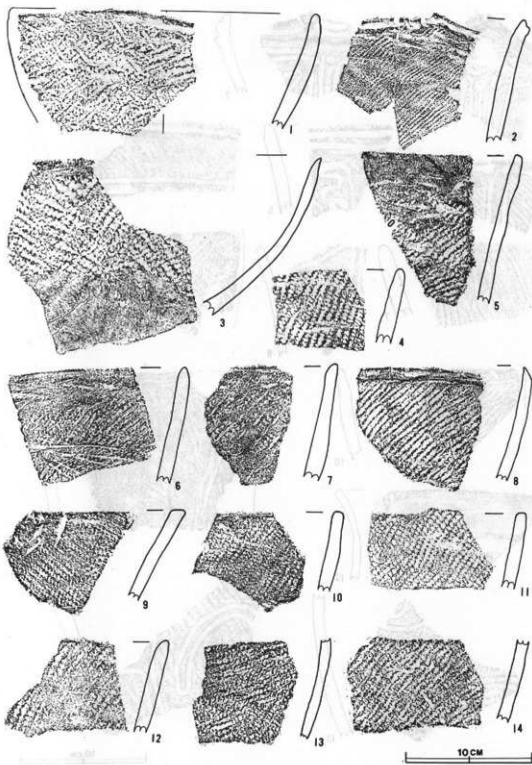
1-11 S1103 12-26 S1104



第251图 住居跡出土土器(57)

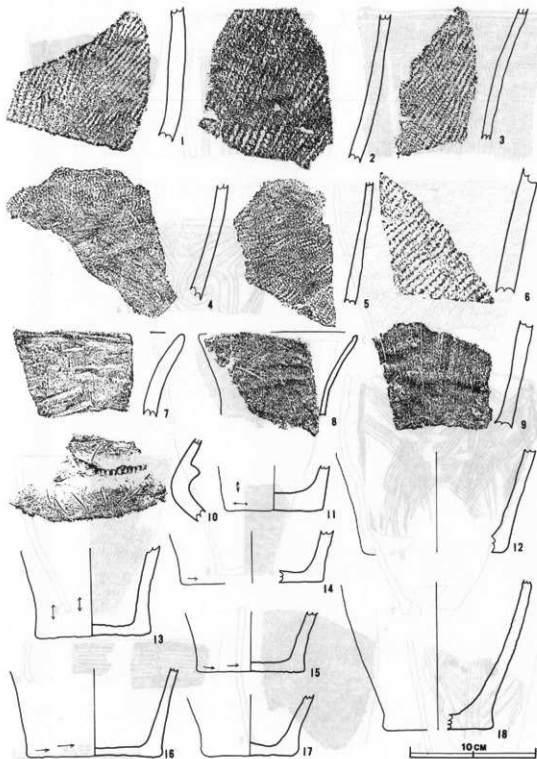
1-22 S1105





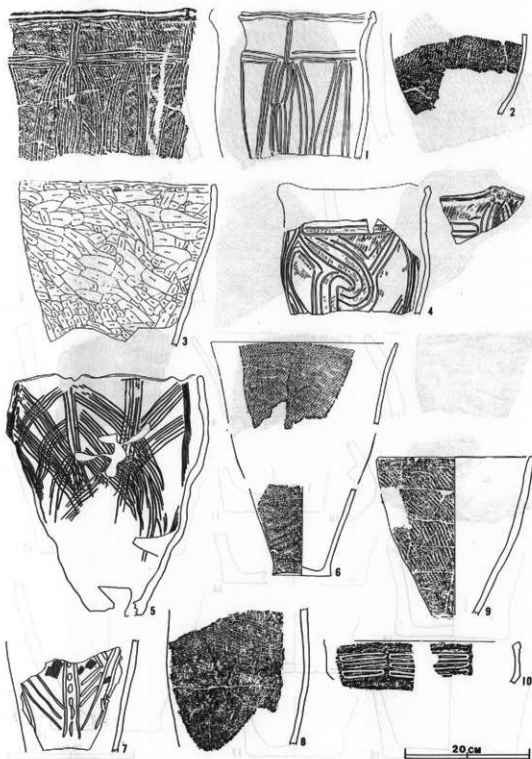
第253图 住居跡出土土器(59)

1-14 S1106



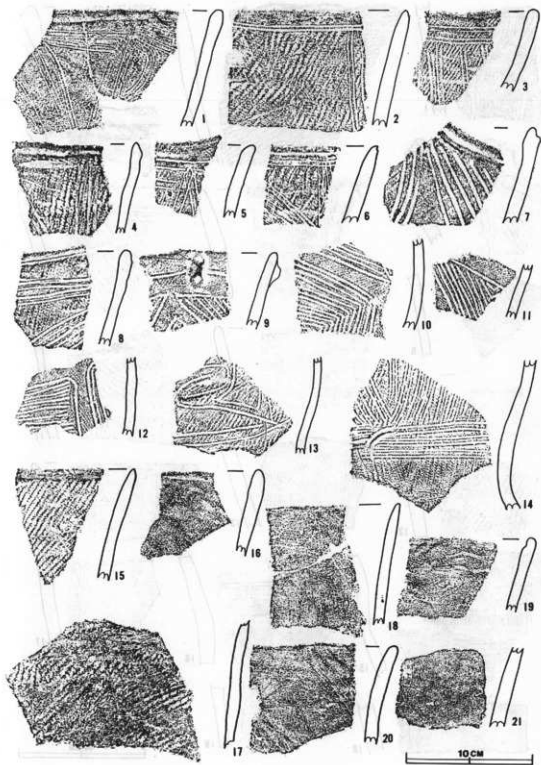
第254图 住居跡出土土器(60)

1-18 S1106



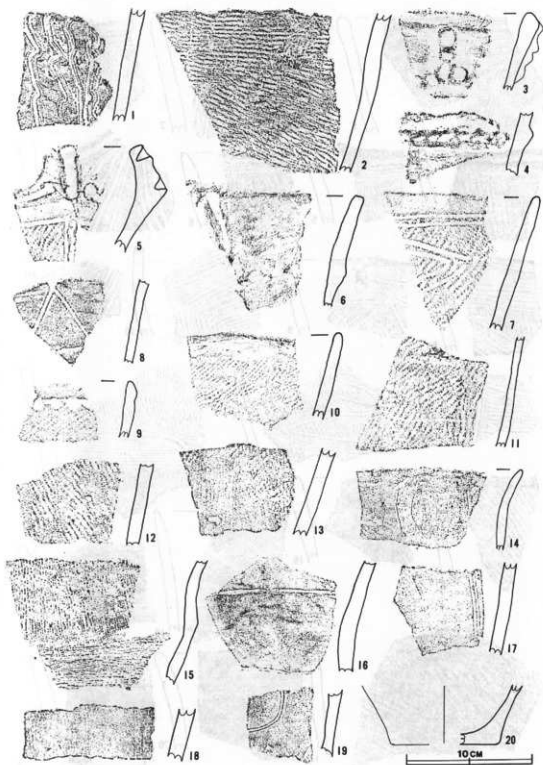
第255图 住居跡出土土器(61)

1-4 S1106 5 S1120
 6 S1107 7-8 S1123
 9-10 S1126



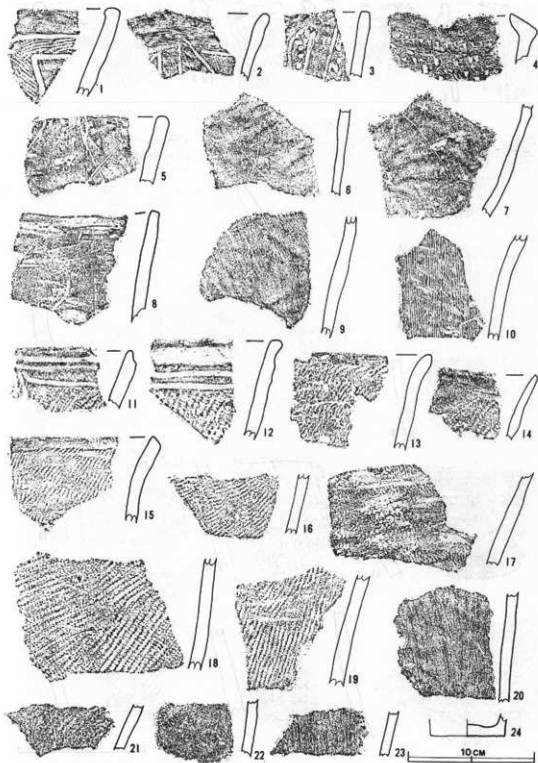
第256图 住居跡出土土器(62)

1-21 S1107



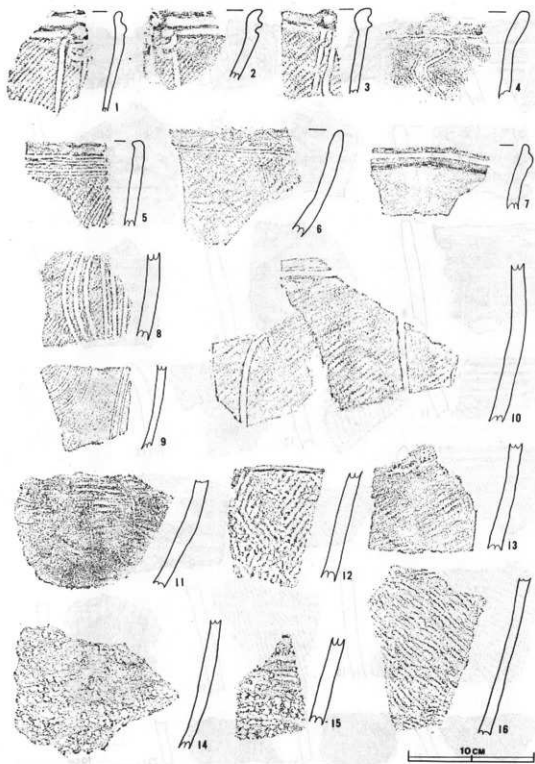
第257图 住居跡出土土器(63)

1-2 S1108 3-20 S1117



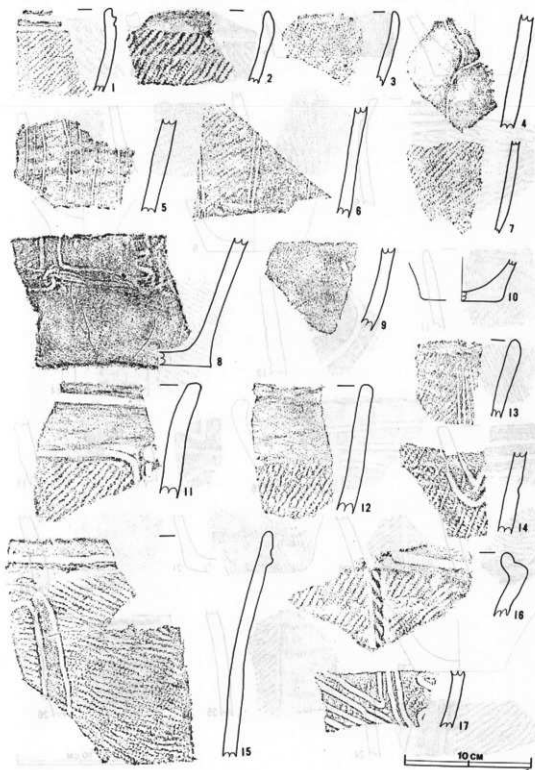
第258图 住居跡出土土器(64)

1-24 S1120



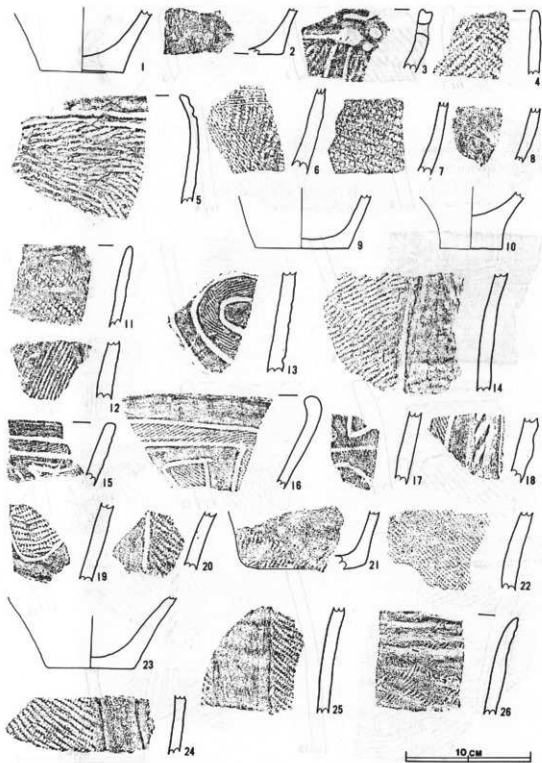
第259图 住居跡出土土器(65)

1-16 S1123



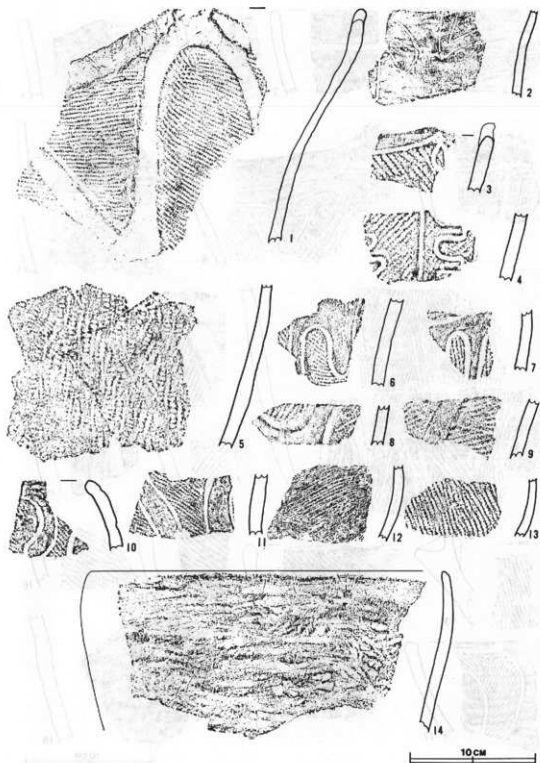
第260图 住居跡出土土器(66)

1-10 S1124 11-14 S1125
15-17 S1126



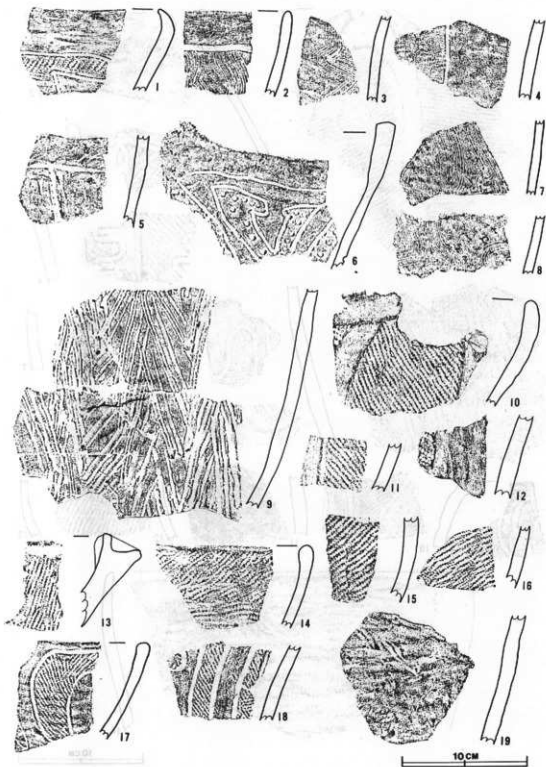
第261图 土壤出土土器(1)

1 - 2	SKO01	3 ~ 18	SKO08
11 - 12	SKO14	13 - 14	SKO19
15 ~ 21	SKO26	22 ~ 26	SKO29

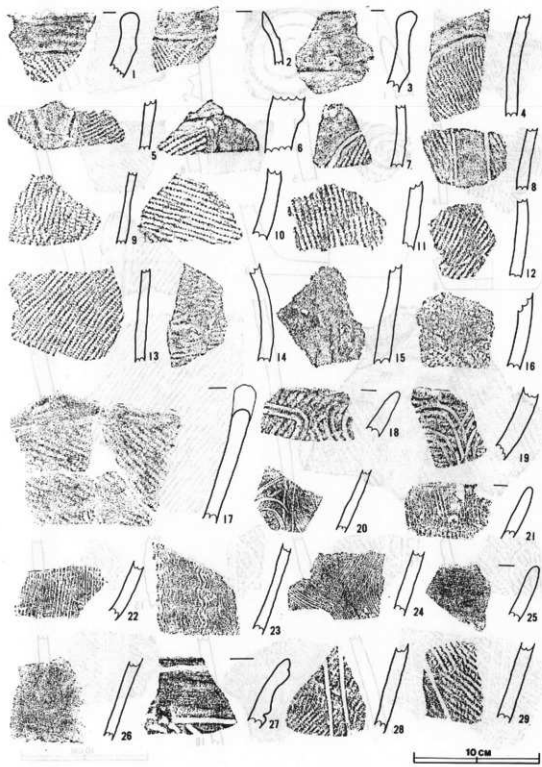


第262図 土壇出土土器(2)

1~4	SK034	5~8	SK039
7~8	SK049	10~13	SK052
14	SK055		

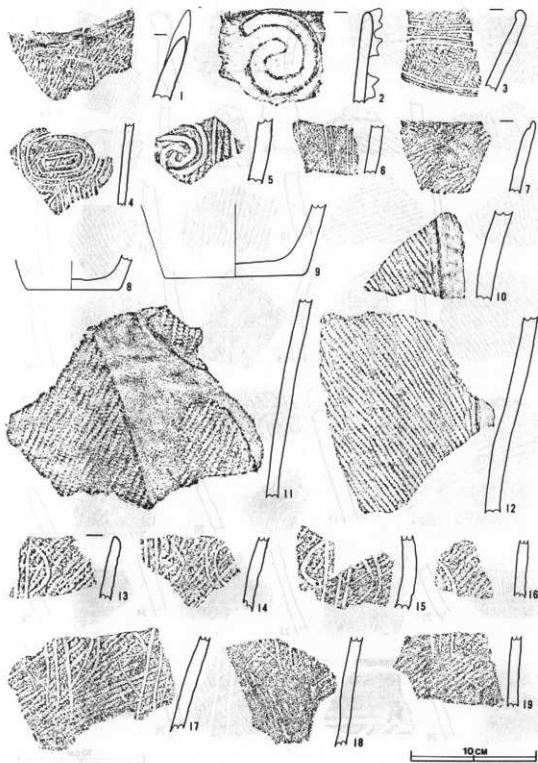


第263图 土坑出土土器(3) 1-5 SK059 6 SK061 7-8 SK062
9 SK066 10-11 SK072



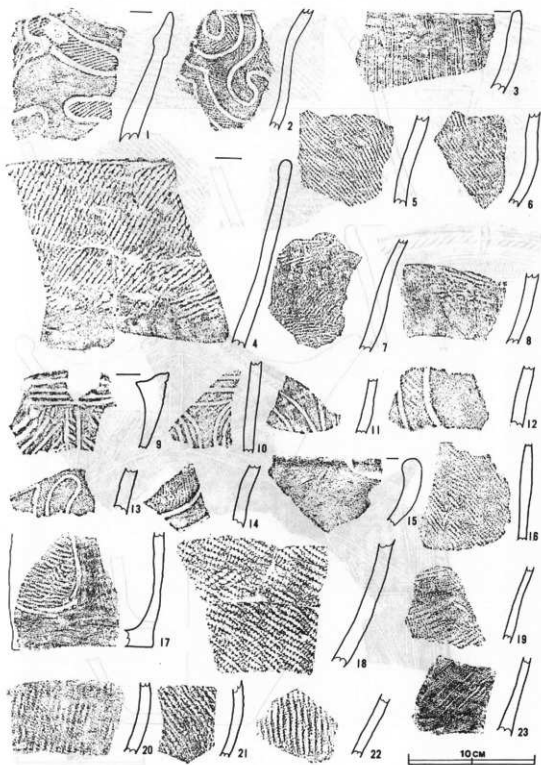
第264图 土坑出土土器(4)

1-16 SK073 17-29 SK08B



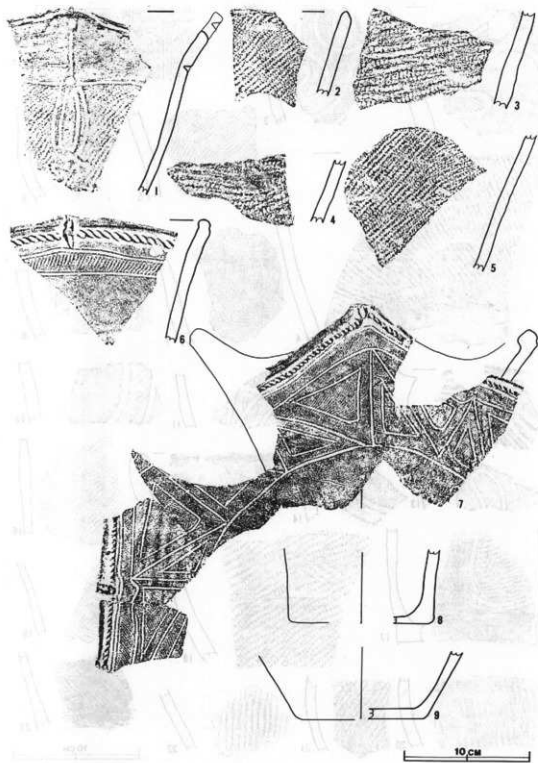
第265图 土壤出土土器(5)

1-3 SK089 18-19 SK093
13-16 SK096



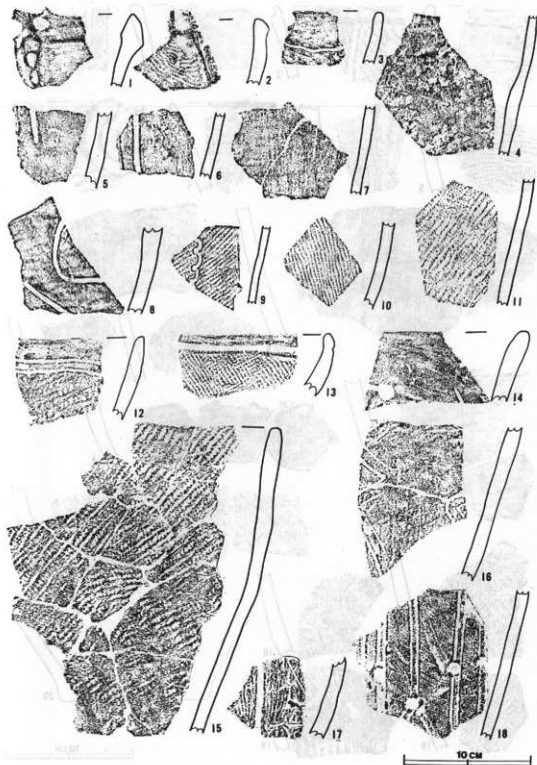
第266图 土坑出土土器(6)

1-2 SK097 3-8 SK101
9-16 SK105 17-23 SK109



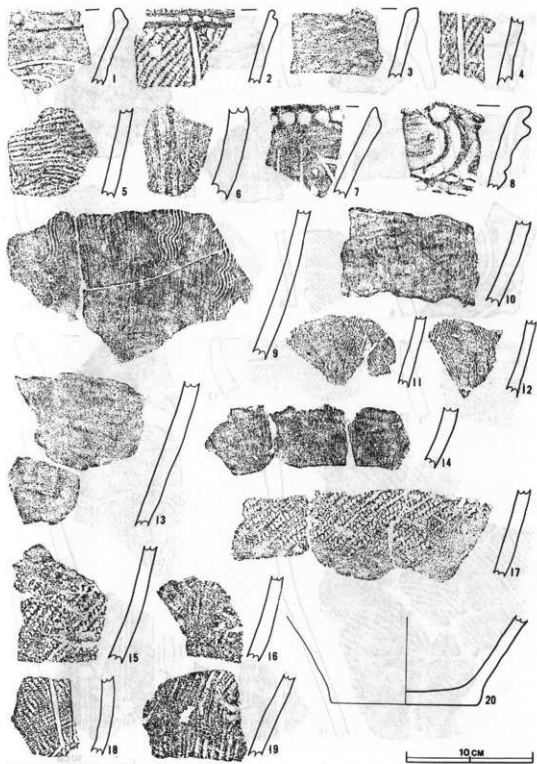
第267图 土壙出土土器(7)

1-5 SK110



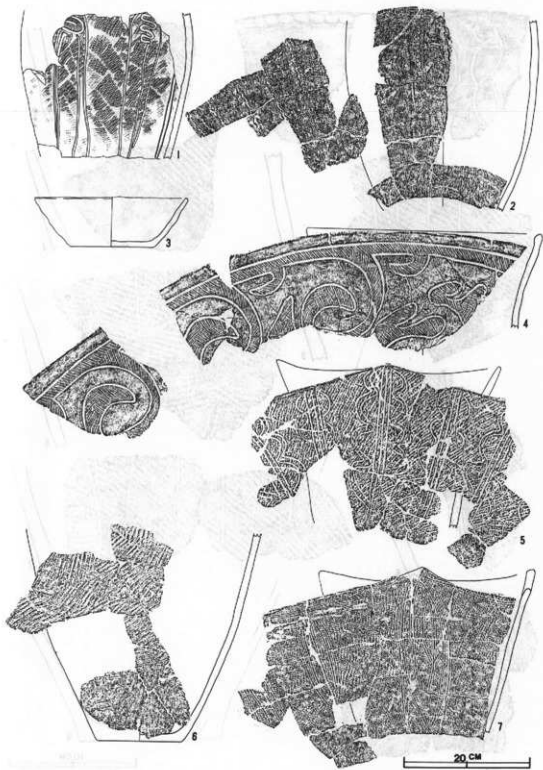
第268圖 土壇出土土器(8)

1-18 SK115



第269圖 土墳出土土器(9)

1-6 SK119 7-20 SK120

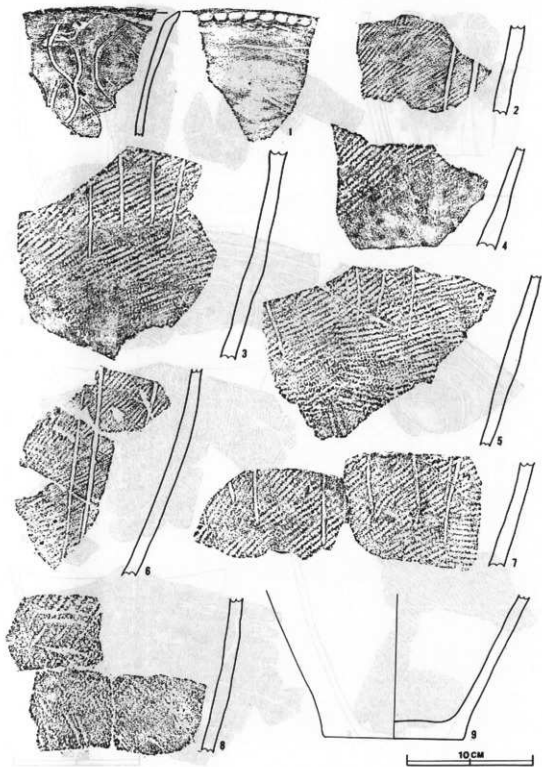


第270図 土墳出土土器(10)

1 SKO15
4 SKI01
7 SKI14

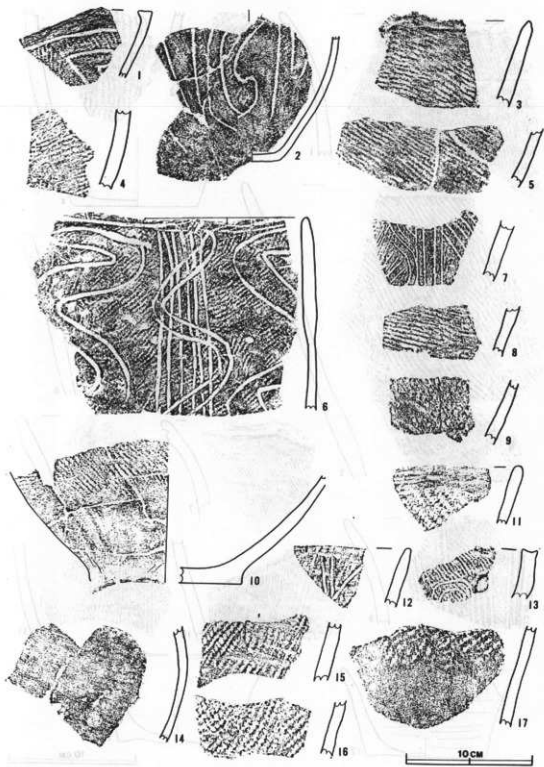
2 SKO25
3 SKO96

3 SKI15
6 SKI18

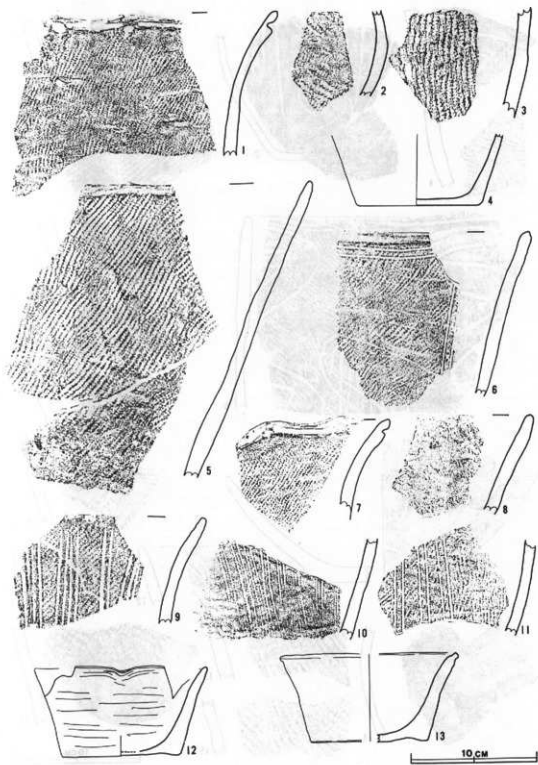


第271図 土壙出土土器(11)

図1-9 SK121

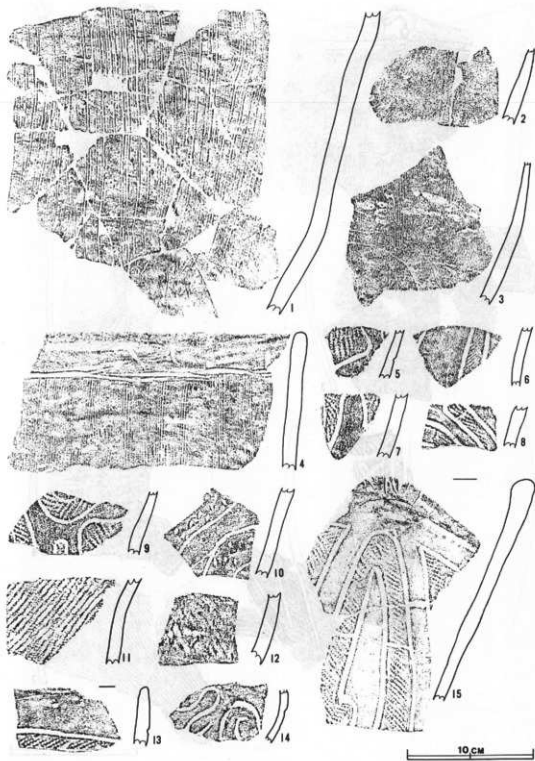


第272图 土坑出土土器(12) 1-2 SK123 3-10 SK124 11-17 SK126



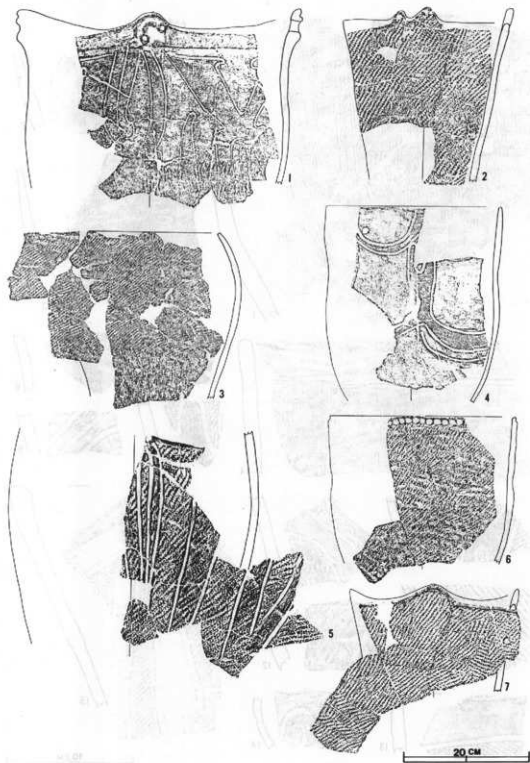
第273図 土壙出土土器(13)

1-4 SK127 5-11 SK133
12-13 SK129



第274図 土壇出土土器(14)

1 SK134 2-4 SK144
5-12 SK147 13-15 SK162

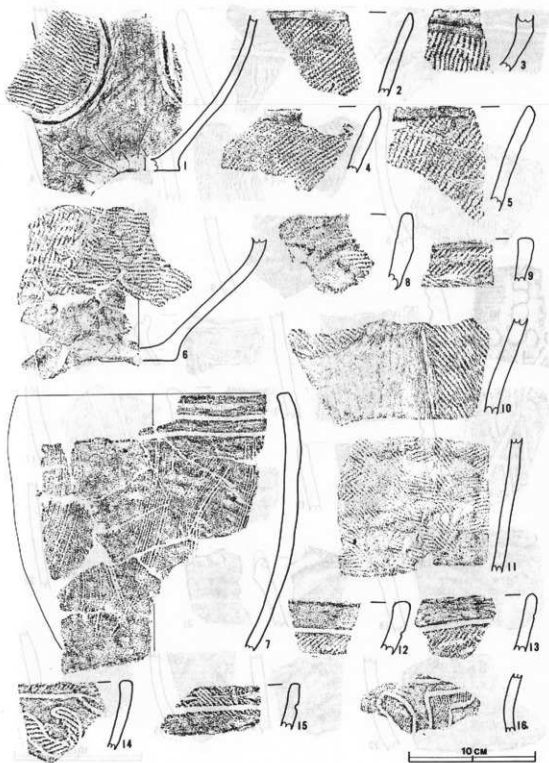


第275図 土壇出土土器(15)

1 SK123
4 SK130
7 SK169

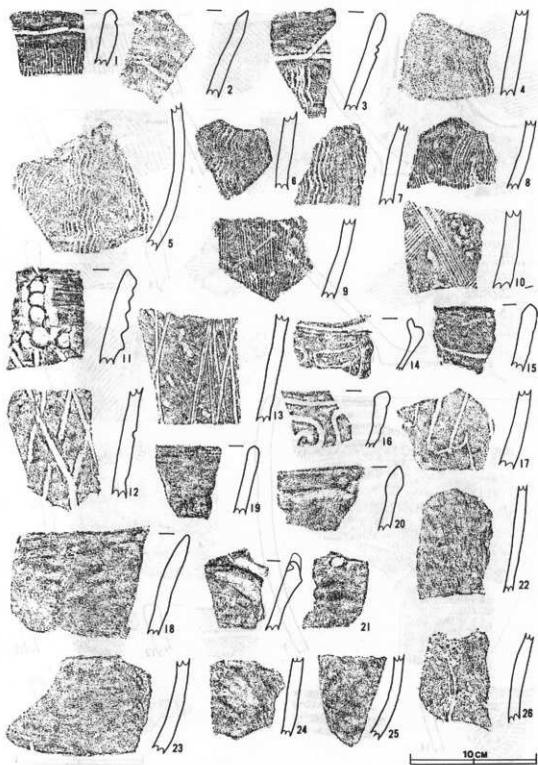
2 SK126
5 SK117

3 SK127
6 SK165



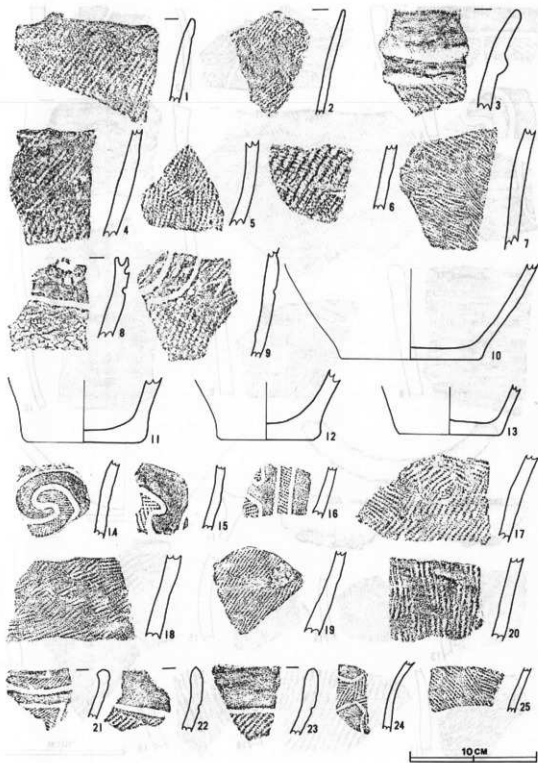
第276圖 土壇出土土器(16)

1~3 SK160 6~7 SK161
8~16 SK164



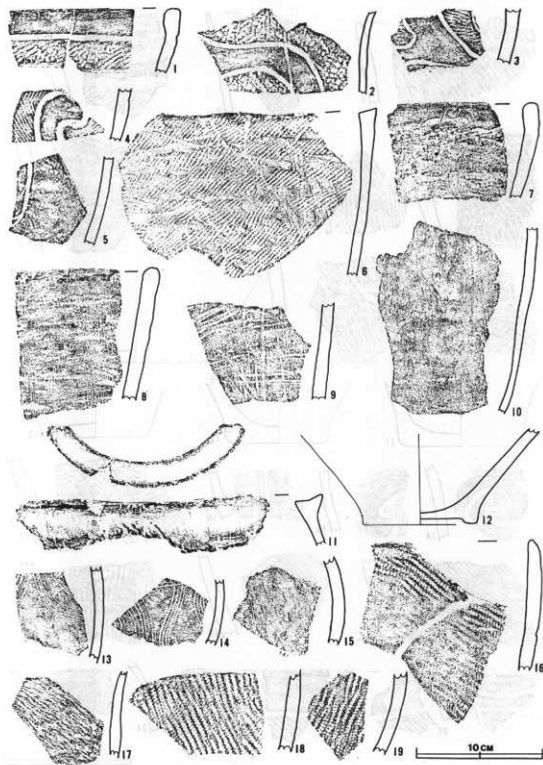
第277图 土境出土土器(17)

1-26 SK165



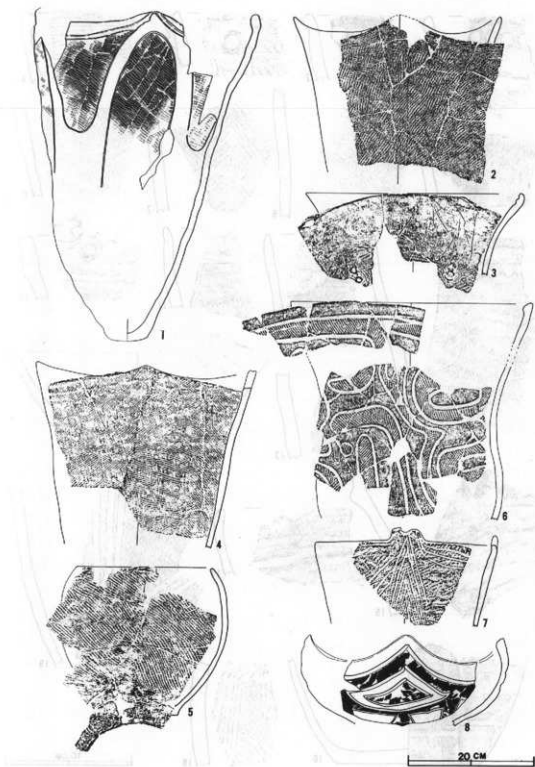
第278图 土壤出土土器(18)

1-13 SK165
 14-18 SK173
 21-25 SK180



第279図 土壇出土土器(19)

1-12 SK181 13-19 SK183



第280图 土壤出土土器(20)

1~3

SK183

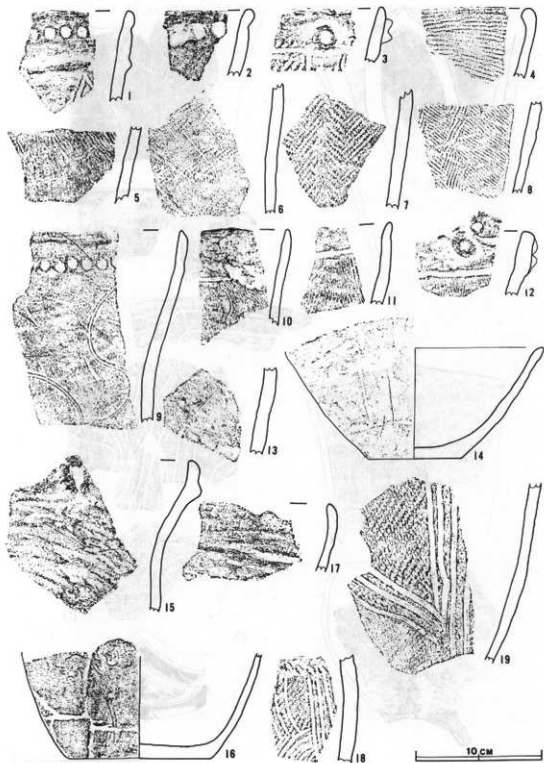
4 SK181

5 SK185

6 SK193

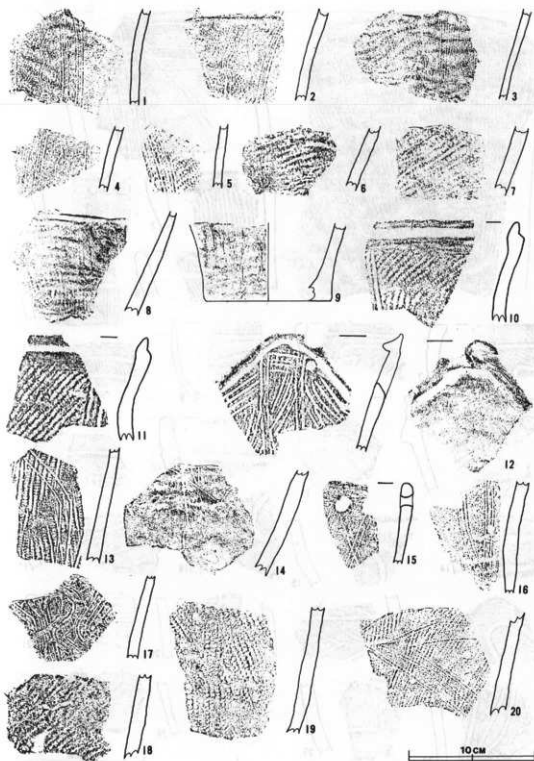
7 SK310

8 SK353



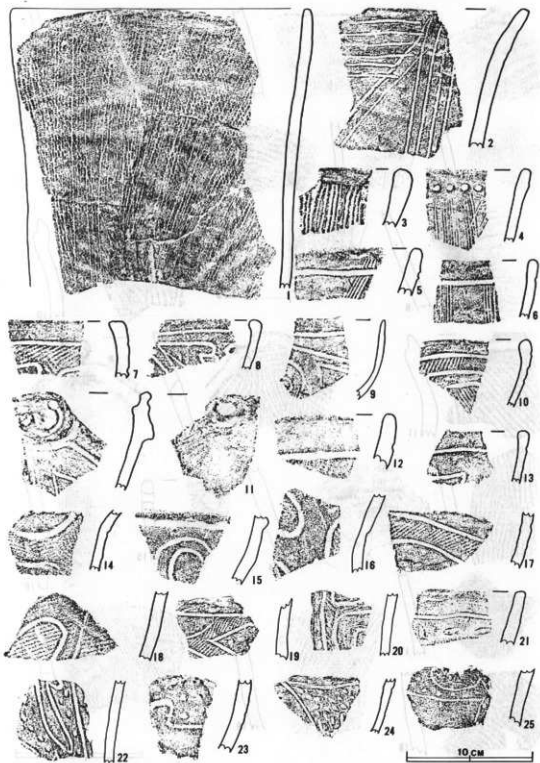
第281圖 土境出土土器(21)

1-1 SK196 8-11SK198
17-18 SK200



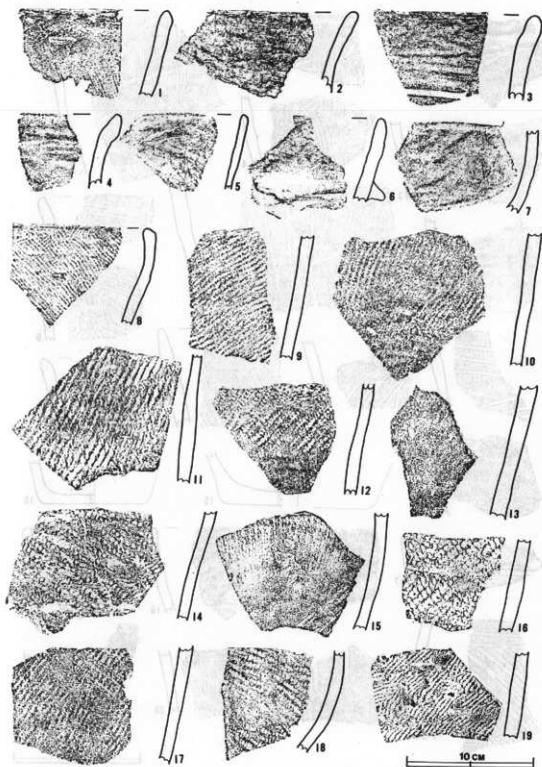
第282图 土坑出土土器(22)

1—8 SK207 10—14 SK213
15—20 SK216



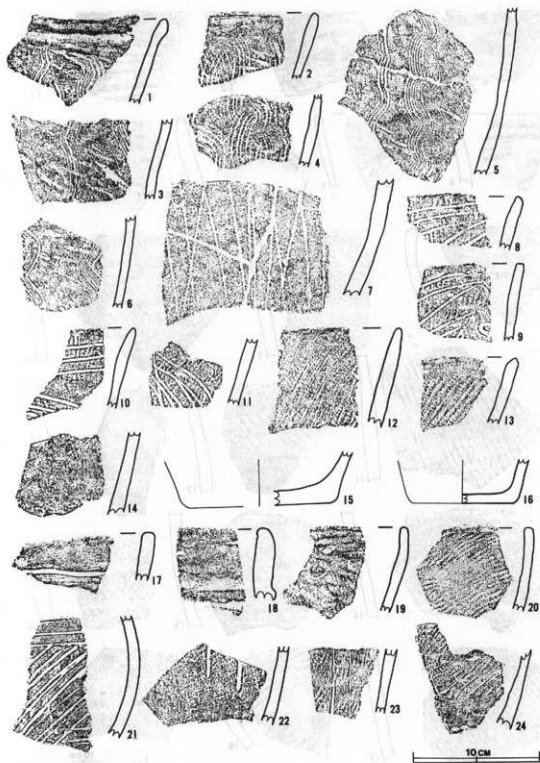
第283图 土坑出土土器(23)

1-25 SK217



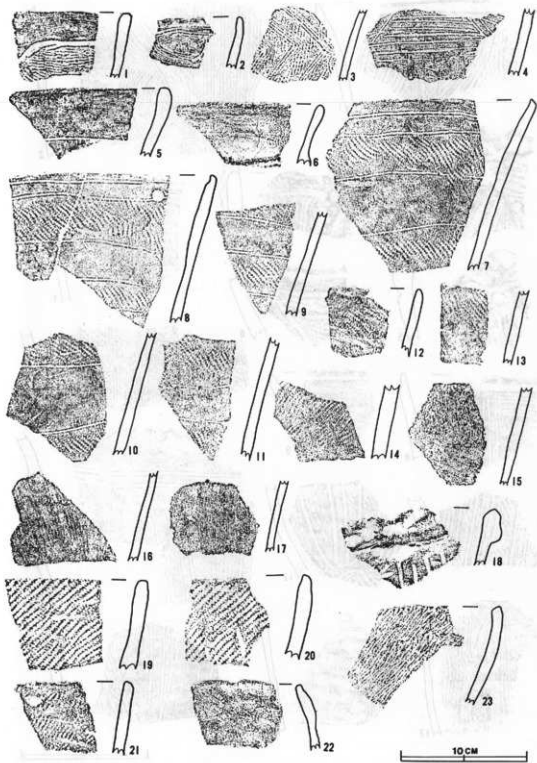
第284图 土坑出土土器(24)

1-19 SK217



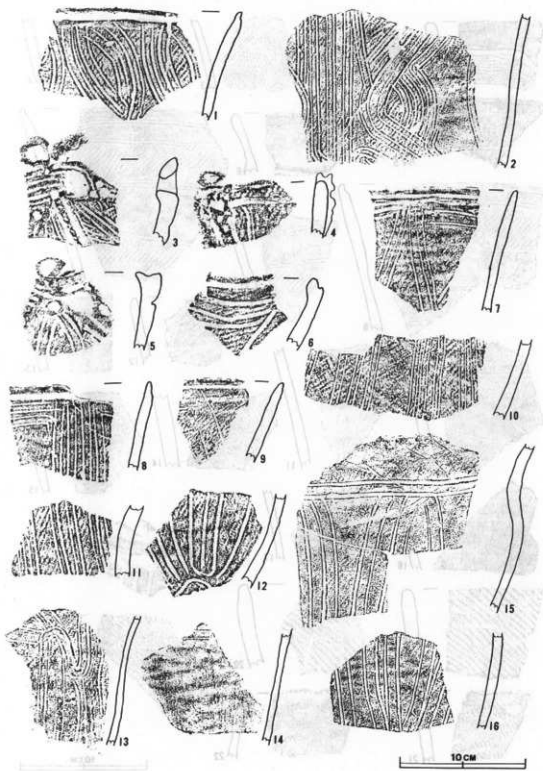
第285图 土坑出土土器(25)

1-16 SK221 17-24 SK229



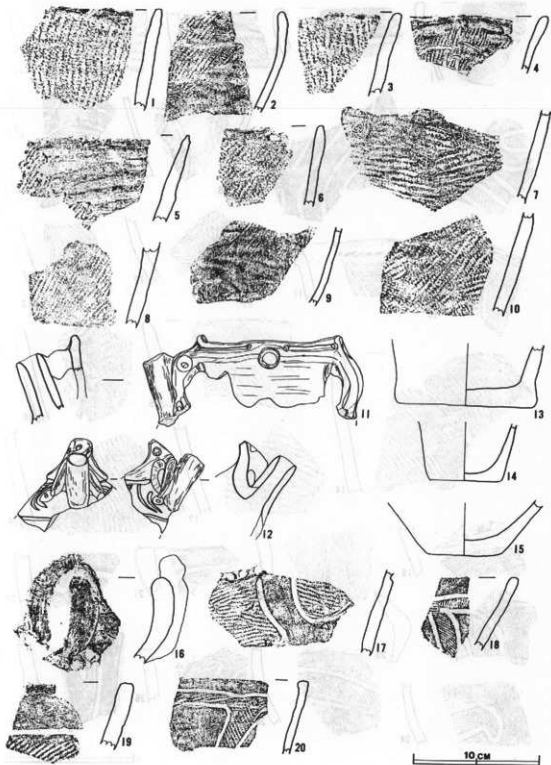
第286图 土壙出土土器(26)

1-17 SK226 18-23 SK241



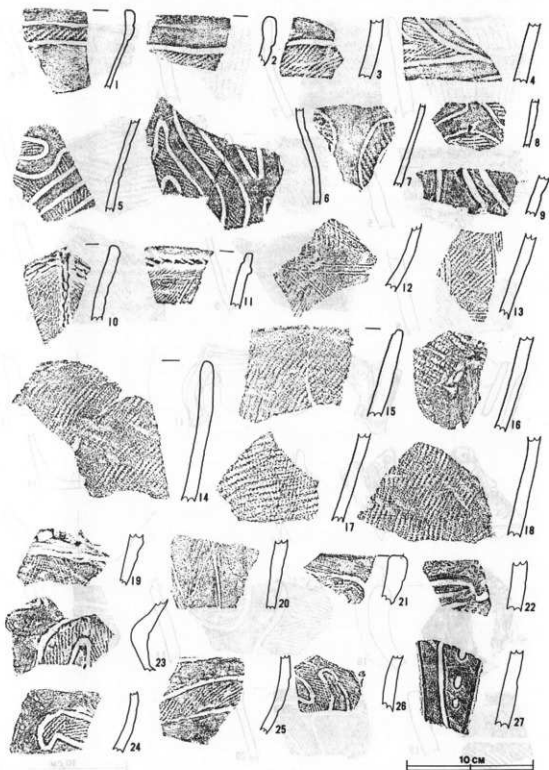
第287図 土壙出土土器(27)

1-16 SK250



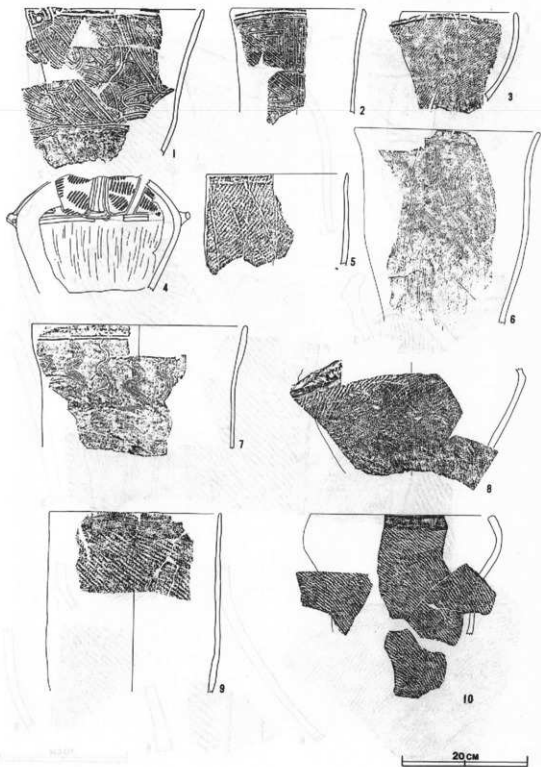
第288圖 土壙出土土器(28)

1-20 SK250



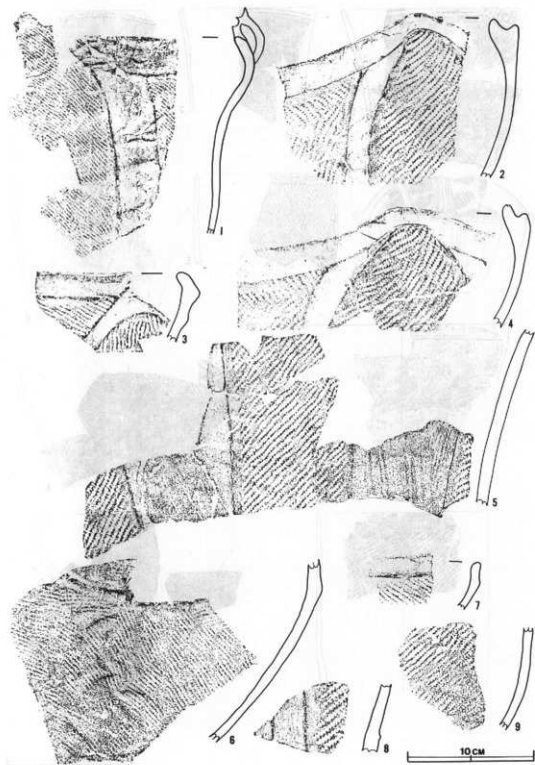
第289图 土壤出土土器(28)

1-9 SK261 10-18 SK310
19-27 SK326



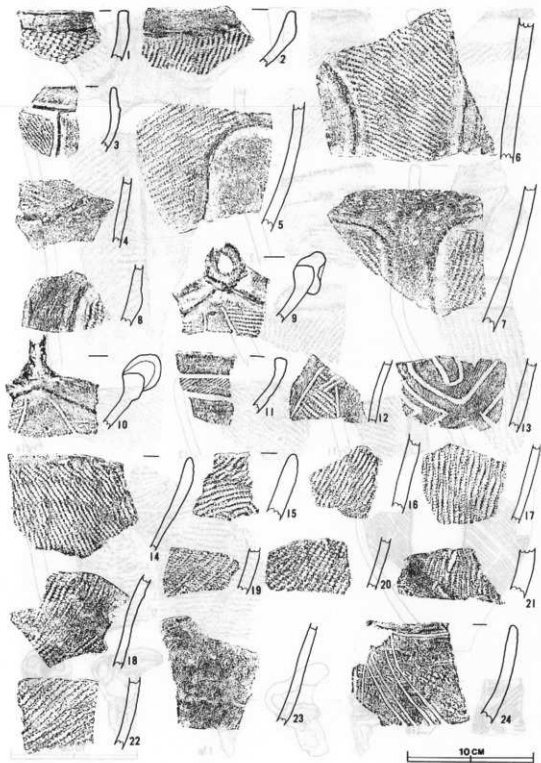
第290図 土壇出土土器(30)

1-4 SK250 5 SK264
 8-9 SK326 10 SK401



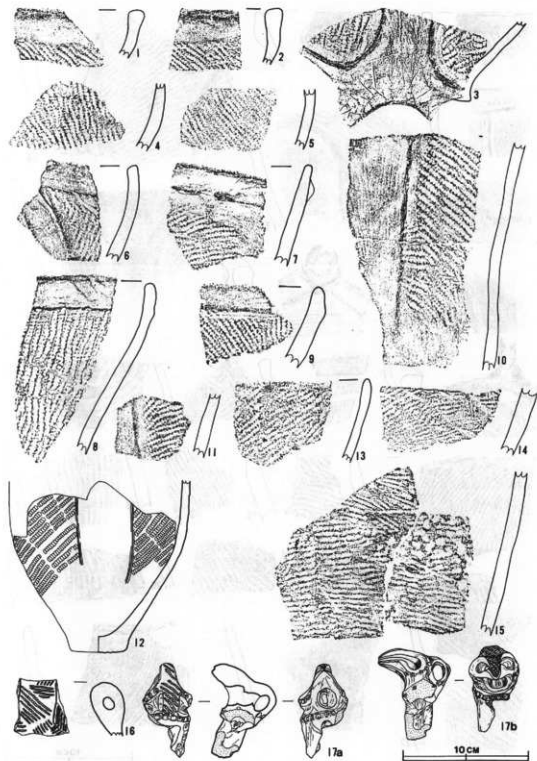
第291図 土壙出土土器(31)

1 SK330 2-3 SK347
 4-8 SK366



第282図 土壌出土土器(32)

1-24 SK400



第293图 土壤出土土器(33)

1-5 SK401 6-17 SK402